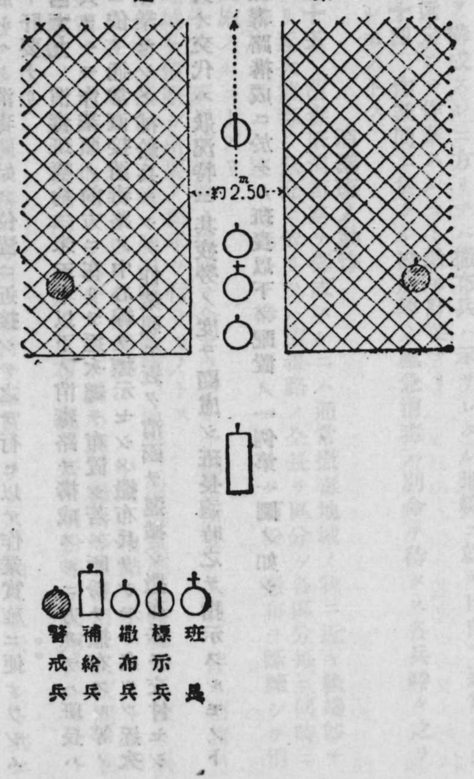
第一圖



方向維持及警戒

第二百二十　班長ハ作業間特ニ方向ノ維持ニ注意シ敵情ヲ監視シ前方ニ掩護ノ部隊アルトキハ之ト緊密ニ連絡スルモノトス

消毒路ノ完成報告

第二百二十一　班長ハ消毒路ノ構成ヲ完了セハ之ヲ標示シ且通過部隊ト連絡シ確實ニ之ヲ通報スルモノトス時トシテ消毒路ノ補修及通過部隊ノ誘導等ニ任スルコトアリ

消毒點ノ構成

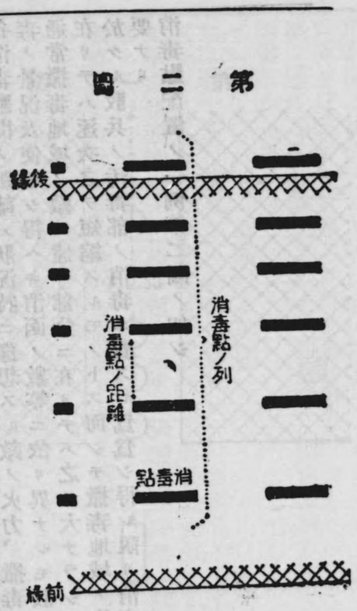
第二百二十二　消毒班消毒點ヲ配置スルニハ通常撒布兵ニ對シ現地ニ就キ的確ナル指示ヲ與ヘ所要ノ消函ヲ携帶セシメタル後各列毎ニ逐次之ヲ誘導シツツ各消毒點ノ位置ニ配置シ撒布ヲ行ハシムルモノトス

各消毒點間ノ距離ハ狀況特ニ豫想スル敵ノ火力、撒毒地域ノ大小、地形、撒毒ノ景況及使用シ得ヘキ消函ノ數等ニ依リ異ナルモ散兵ノ躍進距離ヲ顧慮シ通常撒毒地域ノ敵ニ遠キ部分ニ在リテハ之ヲ大ナラシムルモ敵ニ近キ部分ニ在リテハ逐次之ヲ短縮スルモノトス而シテ撒毒地域ノ後緣附近ニハ通過後ニ於ケル散兵ノ汚毒部ノ消毒ニ資スル爲爲シ得ル限リ消毒點ヲ構成スルコト肝要ナリ

消毒點配置ノ一例第二圖ノ如シ

消毒區域ノ構成

第二百二十三　消毒班某幅員ヲ有スル消毒區域ヲ構成スルニハ要スレハ其周縁ヲ標示シタル後撒布兵若干名ヲ適宜ノ間隔ニ配置シ消毒路構成ノ要領ニ準シ一側ヨリ逐次作業スルヲ可トス



備考
一　消毒點ノ幅ハ大約二米サシテ長サハ一消毒函ニ得ル撒布長ニ以下トスヘシ

諸材料ノ掩覆

第二節　掩覆

第二百二十四　土嚢、土壌、砂、雪、板、簀、千草、藁、「アンペラ」、布等ノ如キ所在ノ物料ヲ以テ撒毒地ヲ掩覆スルトキハ其材料ノ性質ニ依リ差異アルモ通過若ハ若干時間ノ停止ヲ爲シ得ヘシ

土壌掩覆

第二百二十五　土壌ヲ以テ掩覆スルニハ其積土ノ厚サヲ概ネ五糎以上、雪ヲ用フルトキハ十糎以上ト爲スヲ要ス

第二章　構築物ノ制毒

晒粉又ハ晒粉乳劑

第二百二十六　各種掩蔽、掩蔽部、監視所、觀測所等持久瓦斯ニ依リ汚毒セラレタルトキハ晒粉又ハ晒粉乳劑ヲ用ヒ或ハ此等ヲ併用シ必要ナル部分ヨリ消毒スルモノトス

晒粉乳劑ハ概ネ水一晒粉一又ハ水二晒粉三ノ重量比ヲ以テ混合スルモノニシテ成ルヘク使用ノ直前ニ於テ調製スルヲ可トス

持久瓦斯彈ニ依ル汚毒

第二百二十七　持久瓦斯彈ノ落達ニ依リ汚毒セラレタル掩蔽部等ハ狀況之ヲ許セハ放棄スルヲ可トスルモ之ヲ使用スルニ方リテハ先ツ其底部ヲ晒粉ヲ以テ消毒シタル後通風ニ依リ内部ノ空氣ヲ換氣シ最後ニ周壁及幕布等ニ晒粉乳劑ヲ數回塗布シテ再ヒ通風スルモノトス此際焚火又ハ炭火ヲ以テ加熱ニ依ル除毒ヲ併用スルヲ得ハ有利ナリ而シテ之カ使用ハ狀況已ムヲ得サル場合ノ外制毒實施後少クモ二日ヲ經過スルヲ要ス

掩蔽部ノ氣狀瓦斯

第二百二十八　掩蔽部等ノ内部ニ單ニ氣狀瓦斯ノ侵入セル場合ニ於テハ臭氣ヲ感セサルニ至ルマテ瓦斯ヲ排除若ハ中和劑ニ依リ消毒シタル後之ヲ使用スルヲ通常トス

建築物制毒

第二百二十九　持久瓦斯ヲ被リタル工場、倉庫等ノ建築物ノ制毒ハ内壁、扉、窓、床等ノ外外壁及屋蓋等ニシテ直接人ノ接觸スルノ虞アル部分ニ就キ通常晒粉或ハ晒粉乳劑ヲ以テ消毒シ腐蝕ノ虞アルモノハ更ニ水洗スルモノトス

汚毒セラレタル建物ヲ修理スル場合ニ於テハ其附近ヲ十分ニ制毒スルヲ要ス

情報ノ收集警戒

第二百三十　瓦斯ニ關スル情報ノ收集及警戒ノ目的ハ速ニ敵ノ企圖ヲ察知シ適時瓦斯攻擊ヲ發見シ又ハ撒毒地域ヲ偵察シ之カ防護ノ處置ヲ講スルノ餘裕ヲ得シムルニ在リ

情報及警戒ニ關聯スヘキ事項

第二百三十一　情報ノ收集及警戒ノ爲ニハ一般ノ敵情判斷ヲ基礎トシ氣象及地形ノ狀態竝諸徵候ニ注意スルコト肝要ナリ就中氣象ハ瓦斯ノ使用ニ密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ氣象觀測機關ト連絡シ一般氣象ノ狀況ハ勿論局地氣象ノ狀態ヲ明ニスルヲ要ス

新タナル瓦斯ニ接セルトキ

第二百三十二　瓦斯ニ關スル情報特ニ始メテ敵ノ瓦斯使用ヲ發見シタルトキ、敵ノ新瓦斯ヲ受ケタルトキ若ハ敵ノ新ナル瓦斯用法ニ遭遇シタルトキ等ニ於テハ爲シ得ル限リ迅速ニ上級指揮官ニ報告シ且所要ノ部隊ニ通報スルヲ要ス

敵瓦斯使用ノ虞アルトキ

上級指揮官ハ瓦斯ニ關スル情報ヲ査覈シ特ニ前項ノ如キ場合ニ於テハ最モ速ニ其眞相ヲ明ニシ之カ對應ノ手段ヲ攻究シ機ヲ失セス部下諸部隊ニ通報シ以テ敵ノ奇襲ヲ豫防スルノ準備ヲ整ヘシムルコト緊要ナリ

第二百三十三　敵ニシテ瓦斯ヲ使用セントスルノ虞アルトキハ各級指揮官ハ機ヲ失セス之ニ關シ發見シ得タル情報ト氣象觀測ノ結果等トヲ綜合判斷シ之ヲ上級指揮官ニ報告シ且所要ノ部隊ニ通報スルヲ要ス

俘虜訊問

第二百三十四　俘虜特ニ瓦斯勤務ニ從事セル將校以下ニ對シ訊問スルトキハ敵ノ瓦斯使用ノ企圖及之カ兵器、器材等ニ關スル重要ナル資料ヲ收集シ得ルコト多シ

俘虜ノ訊問ニ方リテハ軍醫若ハ獸醫ヲ加ヘテ之ヲ行フヲ有利トスルコトアリ

敵ノ瓦斯兵器、器材

第二百三十五　敵ノ使用セル瓦斯及之カ兵器、器材等ハ瓦斯防護上重要ナル資料トナルヲ以テ之ヲ鹵獲シ若ハ拾得セル部隊ハ所要ニ應シ速ニ上級指揮官又ハ此種資料ノ試驗ヲ擔任スル部隊ニ送付スルモノトス此際特ニ危害ヲ被ラサルニ注意ヲ要ス

第一章　徵候

徵候ニ通曉

第二百三十六　敵ノ瓦斯使用ハ其方法ニ依リ特種ノ徵候ヲ呈スヘキヲ以テ豫メ其特徵ニ通曉シアルト共ニ瓦斯ハ其特性上煙等ト誤認シ易キカ故ニ敵ニ欺騙セラレサル如ク注意スルコト肝要ナリ

瓦斯雨下ノ徵候

第二百三十七　瓦斯雨下ハ晝間行ハルル場合ニ於テハ液滴ハ雨下器ヨリ流出セル直後ニ於テ煙霧ノ如キ觀ヲ呈スルコトニ依リ之ヲ認知シ得ルコト多シ雨下ノ液滴ハ地上ニ落達スルマテニ比較的長時間ヲ要シ液滴落達後ニ於テモ更ニ若干時間霧狀瓦斯地上ニ沈降シ又風速大ナル場合ニ於テハ豫想外ノ風上位置ヨリ雨下ヲ受クルモノナルニ注意スルヲ要ス

瓦斯彈投下瓦斯彈射擊

第二百三十八　瓦斯彈投下及瓦斯彈射擊ハ爆彈投下及榴彈射擊ニ比シ著發時ニ於ケル爆音小ニシテ特種ノ爆煙ヲ生シ且刺戟臭ヲ伴フニ依リ之ヲ認知シ得然レトモ爆彈投下或ハ榴彈射擊ヲ併セ行ヒ之ヲ祕匿スルコトアルノミナラス

投下瓦斯彈及瓦斯彈ニ依リテハ其爆音投下爆彈又ハ榴彈ト大差ナク此等ト區別シ難キモノアルニ注意セサルヘカラス

第二百三十九　投射機ノ發射ハ殷々タル一齊ノ爆音、規正ナル一連ノ砲煙及時トシテ土地ノ震動等ニ依リ又其瓦斯彈ハ群鳥ノ飛翔ニ似タル異樣ナル飛行音並落達時ニ於ケル弱キ爆音及煙雲等ニ依リ此等ヲ判知シ得ルコトアリ投射機ノ陣地ハ砲兵ニ比シ比較的第一線ニ近ク配置セラレ又重投射機ニ在リテハ小間隔ニシテ規正ナル小目標ノ點在等ニ依リ發見シ得ルコトアリ

第二百四十　瓦斯器撒ハ其準備行動及轍毒等ニ依リ之ヲ察知シ得ルコトアリ又爆發物ニ依ル器撒ハ爆發ノ痕跡ヲ存スルモノトス

第二百四十一　撒毒地域ハ其風下ニ在リテハ臭氣ニ依リ比較的遠距離ヨリ其存在ヲ察知スルコトヲ得又土地異樣ナル色ヲ呈シ若ハ草葉赤枯セル等ハ撒毒ノ徴候ナリ

第二百四十二　瓦斯ノ放射ハ其規模大ナルニ從ヒ敵戰線ノ後方ニ在リテハ異狀ナル活動ヲ開始シ其第一線ニ在リテハ時トシテ放射罐配置ノ爲特異ノ作業ヲ實施シ又放射罐ノ運搬、卸下及配置等ノ爲避ケ難キ音響等ヲ發生スルヲ以テ此等ニ依リ其企圖ヲ察知シ得ルコトアリ然レトモ携帶放射罐ニ依ル瓦斯放射ニ在リテハ通常比較的右ノ如キ徴候ナク實施セラルルモノトス

放射ノ實施ハ通常地上低ク流動スル瓦斯雲ニ依リ認識スルコトヲ得又敵ニ近接セル場合ニ於テハ放射開始ニ方リ容器ヨリ發スル叱音ニ依リ判知シ得ルコトアリ

毒煙ニ在リテハ其放射準備ノ概ネ放射罐ニ準スル徴候ヲ呈スルコトアリ

第二百四十三　煙ナリヤ、瓦斯ナリヤ或ハ煙中ニ瓦斯存在スルヤハ其判別通常困難ナルモノトス然レトモ之ニ近ク跟隨シ若ハ其内部ニ行動スル敵兵裝面セサルトキハ無毒ナル證トス

第二百四十四　偽瓦斯ハ視察及嗅覺ニ依ル判別困難ナルコト少カラス然レトモ敵兵無防護ニテ通過スル地域ハ危害ナキコトヲ判斷シ得ヘシ

煙ナリヤ
瓦斯ナリヤ
偽瓦斯

第二章　檢知

第二百四十五　瓦斯ヲ檢知スルニハ嗅覺、視察及器材ヲ以テス而シテ通常嗅覺及視察ヲ併用シ所要ニ應シ器材ヲ使用スルモノトス

檢知器材ハ下士官以下ノ瓦斯勤務員之ヲ携帶スルヲ通常トス

戰場ニ於テ新瓦斯ニ遭遇シタルトキハ瓦斯勤務員ハ其試料ヲ採取シテ直ニ之ヲ後送スルト共ニ瓦斯掛將校ハ各種ノ手段ヲ講シ之カ檢知ニ勉ムルヲ要ス

第二百四十六　嗅覺及視察ニ依リ瓦斯ヲ檢知センカ爲ニハ主要ナル各種瓦斯ノ特臭、形態及色等ヲ知得シアルコト緊要ナリ之カ爲試臭器、模型及其他ノ手段ニ依リ之ヲ識別スルニ慣熟セサルヘカラス而シテ臭氣ノ記憶ハ困難ナルヲ以テ屢〻反復訓練スルコト必要ナリ

第二百四十七　嗅覺ハ瓦斯檢知ノ爲重要ナル手段ナリ蓋シ瓦斯ハ通常多少ノ臭氣ヲ有シ其稀薄ナルモノモ多クハ嗅覺ニ依リ之ヲ感知シ得且概ネ其種類ヲモ判別シ得ルヲ以テナリ然レトモ頻繁ニ瓦斯ヲ嗅入スルトキハ某期間鼻ノ鋭敏性ヲ失ヒ又其感度ハ各人必スシモ同樣ナラサルノミナラス他ノ臭氣ノ爲欺

嗅覺及視察檢知
嗅覺及視察ノ訓練
嗅覺ニ依ル檢知

驗セラルルノ虞アルモノトス

視察ハ各種瓦斯ニ對シ通常最モ簡單ニ之ヲ檢知シ得ルモノトス

第二百四十八　裝面セル場合嗅覺ニ依ル瓦斯檢知ノ要領左ノ如シ

食指ヲ覆面ノ縁ト頰トノ間ニ挿込ミ又ハ覆面ノ顎部ヲ脫シ口ヲ閉チ危害ニ注意シテ臭氣ノ有無ヲ檢ス其法豫メ呼氣ヲ行ヒ然ル後吸氣ヲ短ク且淺ク行ヒテ臭ヲ檢シ食指ヲ覆面ヨリ脫シ又ハ覆面ヲ顎ニ裝シテ呼氣ヲ行ヒ覆面內ノ含毒空氣ヲ排出スルモノトス若食指糜爛瓦斯ニ觸レタル疑アルトキハ直接皮膚ニ觸レシメサルヲ要ス之カ爲豫メ防毒面締紐乙ノ方形環或ハ根付ニ小布片等ヲ附著シ置クヲ可トスル

裝面セル場合ノ嗅覺檢知ニ方リテハ防毒面ノ「ゴム」臭ノ爲混亂セラレ易キヲトアルニ注意スルヲ要ス

瓦斯ノ臭ヲ感知セサルトキハ脫面シ更ニ檢知ヲ行フモノトス此際無臭又ハ臭氣弱キ瓦斯ノ存在スルコトアルニ注意スルヲ要ス

第二百四十九　器材ニ依ル瓦斯檢知ハ瓦斯ノ種類ノ判別、撒毒地域ノ確認及物料汚毒ノ檢知等ニ方リ之ヲ化學的ニ判定シ得ルモノニシテ通常瓦斯勤務員之ヲ擔任スルモノトス

器材ニ依ル瓦斯檢知

瓦斯搜索手段

第三章　瓦斯搜索

第二百五十　瓦斯搜索ハ一般搜索ト併セ實施セラルルモ特種ノ目的ヲ以テ特ニ瓦斯斥候ヲ派遣セラルルコトアリ

近距離搜索及戰鬪間ノ搜索ニ方リテハ特ニ撒毒地域其他瓦斯ノ滯留セル地域

ノ搜索ヲ忽セニスヘカラス又敵瓦斯部隊ノ位置及行動等ヲ速ニ發見シ其企圖ヲ豫メ察知スルニ勉ムルコト緊要ナリ

最前線ニ行動スル斥候ハ撒毒地域ニ遭遇スルコト多ク又空中搜索ハ時トシテ比較的容易ニ敵ノ瓦斯使用ノ企圖ヲ察知シ或ハ撒毒地域ヲ偵知シ得ルコトアリ

第二百五十一　撒毒地域ハ敵ノ火制下ニ在ルヲ通常トス故ニ瓦斯斥候ノ隊形及行動ハ特ニ敵火ノ損害ヲ避クルコトニ注意スルヲ要ス而シテ搜索ハ多クハ綿密詳細ナル能ハスシテ大體ノ觀察ニ依リ其概要ヲ制定スルヲ以テ滿足セサルヘカラサルコト少カラス夜間ニ於テ特ニ然リ

撒毒地域ノ搜索

第二百五十二　瓦斯斥候ハ其任務及狀況ニ依リ異ナルモ概ネ左記事項中必要ナルモノニ關シ搜索ヲ行フモノトス

瓦斯斥候ノ搜索事項

一　撒毒地域ノ前緣、後緣及縱深

二　瓦斯ノ種類及狀態特ニ其效力ノ持久度

三　撒毒地域內ノ交通路又ハ通過容易ナル地區

四　制毒ニ便ナル地域及之ニ到ル進入路、制毒ノ方法及所要材料竝通過ノ要領

五　迂回路ノ有無及其價値

六　爲シ得レハ撒毒地域ニ指向セラルヘキ敵火器ノ位置及種類等

第二百五十三　瓦斯斥候撒毒地域ニ向ヒ前進スルニハ撒毒地域ノ前方適當ナル地點ニ於テ防毒服ヲ著用シ或ハ先ツ半防護ニテ適宜ノ地點ニ到リテ防毒衣

瓦斯斥候ノ防毒著

裝　チ著用シ更ニ撒毒地域ニ向ヒ前進シ瓦斯臭ヲ感スルカ或ハ附近ニ撒毒セラレアルヲ豫察スルニ至レハ裝面シ視察、嗅覺等ヲ以テ瓦斯ノ有無ニ注意シツツ前進ヲ繼續スルモノトス

撒毒地域ノ縱深偵察

第二百五十四　瓦斯斥候撒毒地域ノ縱深ヲ捜索スルニハ行進方向ヲ定メテ躍進シツツ瓦斯ノ發見ニ勉ムルモノトス而シテ瓦斯ヲ發見セハ前回ノ停止地點附近ヲ以テ概ネ撒毒地域ノ前端トシ又瓦斯ヲ認メサルニ至レハ其地點附近ヲ以テ概ネ撒毒地域ノ後端ト爲スモノトス此際縱深判定ノ爲行進方向ノ選定ヲ適切ナラシムルコト必要ナリ

撒毒地域ノ前後端捜索

第二百五十五　瓦斯斥候撒毒地域ノ前緣ヲ捜索スルニハ數箇ノ地點ニ於テ其前端ヲ捜索シ此等ヲ綜合セハ概ネ撒毒地域ノ前後ヲ判定シ得ヘシ之カ爲第二百五十四ノ要領ニ準シ各前端ヲ捜索スルヲ通常トシ狀況ニ依リ横方向ニ移動シツツ各前端ヲ求ムルコトアリ

瓦斯雨下撒毒地域捜索

撒毒地域後緣ノ捜索モ亦概ネ前緣ノ捜索ノ要領ニ準スルモノトス

第二百五十六　瓦斯斥候瓦斯雨下ニ依ル撒毒地域ヲ捜索スルニ方リテハ飛行方向ヲ確メ若ハ大ナル液滴ノ一般ノ散布狀態ヲ捜索シ之ヲ基準トシテ撒毒地域ノ全般ヲ判斷スルヲ有利トスルコト多シ此際撒毒地域ノ風下ノ部分及周緣ニ在リテハ液滴微細ニシテ殆ト目視シ難キニ注意スルヲ要ス

瓦斯效力ノ持久度判斷

第二百五十七　瓦斯斥候撒毒地域ニ於ケル瓦斯效力ノ持久度ヲ判斷スルニ方リテハ主トシテ季節、氣象ノ關係、撒毒實施ノ時機其他地形及撒毒ノ方法等ニ就キ考慮スルコト肝要ナリ此際一局部ニ於ケル撒毒ノ狀況ニ眩惑セラレヲ

全般ノ瓦斯效力ノ判斷ヲ誤ラサルト共ニ我カ軍ノ之ヲ通告若ハ占領スヘキ時機及其方法等ニ就キ顧慮スルヲ要ス

撒毒地域ノ標示要領

第二百五十八　瓦斯斥候撒毒地域ヲ標示スルニハ其任務、狀況及明暗ノ度等ニ依リ前緣、後緣、安全ナル通路、制毒ニ便ナル地域及此等ニ到ル進入路等ニ就キ之ヲ行フモノトス時トシテ撒毒地域ヲ通スル道路等ヲ阻絶シテ之ヲ標示スルコトアリ

撒毒地域標示方法

第二百五十九　撒毒地域標示ノ方法ハ其目的及狀況並之ニ使用シ得ル材料ノ種類及多寡等ニ依リ異ナルモ迅速確實ニシテ勉メテ敵眼ニ遮蔽シ且夜間ト雖認識容易ニシテ撒毒地域ヲ豫知セシメ得ル如ク實施スルコト必要ナリ

撒毒地域標示材料

第二百六十　撒毒地域標示ノ爲ニハ明暗ノ度、地形等ニ依リ適宜標旗、標燈、夜光板、晒粉又ハ石灰、繩、布片、束藁等ヲ使用シ或ハ標兵ヲ配置シ要スレハ此等ヲ併用スルコトアリ

斥候ノ瓦斯捜索

第二百六十一　一般斥候瓦斯捜索ニ任スル場合ニ於ケル行動ハ概ネ瓦斯斥候ノ要領ニ準スルモノトス

第四章　瓦斯警戒

警戒ト瓦斯警戒

第二百六十二　瓦斯ニ對スル警戒ハ主トシテ一般ノ警戒部署ニ依ルノ外適切ナル防護準備ト瓦斯警報トニ依リ其目的ヲ達シ得ルモノトス

瓦斯警戒

第二百六十三　瓦斯ニ對スル警戒ノ要領ハ敵ノ企圖シ得ル瓦斯攻擊ノ方法、

要領

氣象及地形等ニ依リ緩厳アルモ氣象縦ヒ瓦斯使用ニ有利ナラサル場合竝戰線ノ後方ニ在リテモ之ヲ忽セニスヘカラス而シテ敵ノ瓦斯攻撃ハ隨時且隨處ニ行ハルルコト多キヲ以テ各部隊毎ニ行フ直接警戒ハ其要特ニ大ナルモノトス

瓦斯警戒

第二百六十四　瓦斯警報ハ敵ノ瓦斯攻撃ヲ受ケタルトキ軍隊ニ對シ裝面及其ノ緩厳他ノ防護處置ヲ講セシムル爲行フモノトス

瓦斯警報

戰鬪間ニ在リテハ小隊長以上ノ指揮官ハ瓦斯警報ヲ發スルノ責任ヲ有スルモノトス然レトモ他部隊ノ瓦斯警報ニ牽カレテ妄ニ之ヲ發スルコトナキ如ク特ニ注意スヘシ

瓦斯警報ノ禁止

第二百六十五　敵ニ對シ我カ企圖及行動ヲ祕匿スル爲瓦斯警報ヲ禁止セラレタル場合ニ於テハ部下ニ對シ豫メ明確ニ之ヲ示スト共ニ特ニ相互ノ連絡ヲ緊密ニシ之ニ代ルヘキ手段ヲ講スルコト肝要ナリ夜間ニ於テ特ニ然リ

瓦斯警報ノ解除

第二百六十六　瓦斯警報ノ解除ハ小隊長以上ノ指揮官ノ責任トシ通常之ヲ命令スルモノトス

敵ノ大規模ナル瓦斯攻撃

第二百六十七　敵ノ大規模ナル瓦斯攻撃ヲ豫察シ又ハ之ヲ受ケ其流動ニ依リ廣大ナル地域ニ亘リ瓦斯化セラルルノ虞アル場合ニ於テハ風上部隊ハ風下部隊ニ對シ各種ノ手段ヲ以テ爲シ得ル限リ迅速ニ之ヲ通報スルヲ要ス而シテ此通報ニ接シタル部隊ハ所要ノ處置ヲ講シ直ニ瓦斯警報ニ應シ得ル如ク準備シ置クモノトス

此ノ如キ場合ニ於テハ風下部隊ハ爲シ得ル限リ風上部隊ニ對シ連絡ヲ保持スルコト肝要ナリ

歩哨ニ瓦斯兵增加

第二百六十八　歩哨ニ瓦斯兵ヲ增加シテ警戒セシムル場合ニ於テハ瓦斯兵ハ所要ノ防護資材ヲ携帶シ通常哨所ニ位置シ主トシテ瓦斯檢知其他瓦斯ニ關スル特種ノ技能ヲ要スル任務ニ服シ且瓦斯警戒ニ關シ哨長ヲ輔佐スルモノトス時トシテ歩哨ニ瓦斯警報器ヲ携帶セシメ警報ヲ發セシムルコトアリ

銃前哨等

第二百六十九　銃前哨等直接警戒ニ任スル者ハ瓦斯ニ對スル警戒ヲ嚴ナラシムルコト特ニ肝要ナリ

第九篇　氣象觀測

通則

氣象觀測ノ目的

瓦斯ニ關スル氣象觀測ノ目的ハ常ニ氣象ノ現況ヲ明ニスルト共ニ其變化ヲ豫測シ以テ敵ノ瓦斯使用ノ時機及方法等ノ判斷竝瓦斯效力ノ判定ニ資スル等瓦斯防護ノ爲必要ナル資料ヲ獲得スルニ在リ

作戰地ノ氣象ノ特性

第二百七十一　軍隊ハ常ニ其作戰スル地方ニ於ケル氣象ノ特性ヲ知得スルニ勉ムルト共ニ敵ノ瓦斯攻撃ヲ受クルノ虞大ナルニ至レハ勉メテ氣象觀測ヲ周密ナラシムルコト必要ナリ

氣象觀測ノ爲指示

第二百七十二　各部隊ハ瓦斯ニ關スル氣象觀測ノ爲上級指揮官ヨリ所要ニ應シ左ノ事項ニ關シ指示セラルルモノトス

事項

各部隊ノ擔任地域要スレハ觀測所ノ位置

觀測時刻及期間

觀測スヘキ事項又觀測ノ方法中必要ナル事項

氣象觀測器材ノ配當

報告、通報ニ關スル事項

各部隊ハ自ラ氣象ヲ觀測シ所要ニ應シ比隣氣象機關ト連繫シ以テ各部隊ニ必要ナル局地氣象特ニ局地風、氣溫ノ逆轉等ノ狀態ヲ明ナラシムルト共ニ上級指揮官ノ行フ氣象觀測ノ爲其統一ニ資スルモノトス

氣象觀測所ノ位置

第二百七十三 觀測所ノ位置ヲ選定スルニ方リテハ局所ノ狀態ニ依リ觀測ノ爲不規ナル影響ヲ受クサル如ク注意スルヲ要ス之カ爲其附近ニ風ニ影響ヲ及スヘキ特異ノ地形、地物ヲ有セス土地及地表ノ狀態亦其附近ニ通有ノモノナルコト必要ナリ而シテ觀測所ニハ要スレハ補助ノ設備ヲ施シ以テ不規ナル影響ヲ消滅スルニ勉メ又樹木、建築物等ノ近傍ニ觀測所ヲ設置セサルヘカラサルトキハ風向、風速ノ觀測ニ支障ナカラシムル爲此等ノ障碍物ヨリ其高サノ約二十倍以上已ムヲ得サルモ約十五倍以上離隔シテ其位置ヲ選定スルヲ要ス

時トシテ各部隊自己ノ爲ノ局地氣象ノ觀測ト上級指揮官ノ行フ氣象觀測ノ統一ニ資スル爲ノ觀測トハ同一位置ニ於テ觀測ヲ實施シ得サルコトアリ此場合ニ於テハ各目的ニ適應スル如ク其位置ヲ選定スルヲ要ス又狀況ニ依リ觀測所ヲ特ニ敵陣地ト類似セル地形ニ選定スルヲ有利トスルコトアリ

觀測所ノ位置ハ一般ノ位置ニ依リ自ラ掩護セラレアルヲ要ス然レトモ狀況ニ依リ特ニ掩護ノ處置ヲ必要トスルコトアリ

第二百七十四 氣象觀測ハ定時若ハ之ヲ要スルトキ臨時實施スルモノトス定時觀測ニ在リテモ日出、日沒時刻ノ前後等ノ如ク氣象ノ變化ヲ豫期シ得ル時期ニ在リテハ其間隔ヲ縮小シ要スレハ臨時觀測所ヲ併セ行フコトアリ

氣象觀測實施事項

第二百七十五 觀測ヲ實施スヘキ事項及其精粗ハ觀測ノ目的、狀況ノ緩急、器材ノ種類及其數等ニ依リ異ナルモノトス

時間ニ餘裕アル場合ニ於テハ通常風向、風速、氣溫、氣溫ノ逆轉、地皮溫、濕度及要スレハ日照ニ就キ精密ナル定時觀測ヲ實施スルモノトス

移動間或ハ狀況急ニシテ一地ニ固定シ定時觀測ヲ實施シ能ハサル場合若ハ敵陣內ノ氣象ヲ觀測セントスル場合等ニ於テモ風向、風速爲シ得レハ氣溫ノ逆轉ハ各種ノ手段ヲ講シテ之ヲ觀測スルコト必要ナリ此際各種ノ煙、火砲ノ發射若ハ砲彈ノ落達ニ依リ該地域ノ氣象狀態ヲ判定シ得ルコトアリ

局地氣象ヲ觀測スル爲特ニ其特性ノ捕捉容易ナル觀測所ヲ選定シテ觀測ヲ實施スル場合ニ於テハ別ニ局地ノ影響ヲ受クルコト少キ一觀測所ニ在リテ同時ニ觀測ヲ實施シ此等觀測値ヲ比較スルヲ可トス

氣象觀測値

第二百七十六 氣象觀測値ハ氣象判斷ノ資料ト爲ス爲同時刻ノ各測點ノ觀測値ヲ一枚ノ地圖上ニ記載シ其時刻ニ於ケル局地氣象ノ配置ヲ明ナラシメ或ハ各測點ノ各時刻ノ觀測値ヲ一測點每ニ纏メテ圖表ト爲シ時刻ノ推移ニ依ル局地氣象ノ變化ノ狀態ヲ明ナラシムル等所要ノ整理ヲ行フモノトス

氣象觀測値及氣象判斷等ハ機ヲ失セス報告若ハ通報スルコト肝要ナリ之カ爲特ニ通信連絡ノ施設ヲ必要トスルコトアリ

器材ヲ有セサル部隊ノ氣象觀測

第二百七十七　氣象觀測器材ヲ有セサル部隊ハ之ヲ有スル部隊ト連絡シ適時氣象ノ狀態ヲ明ニスルノ外自ラ風向、風速等ヲ觀測セサルヘカラス之カ爲瓦斯勤務員ハ風旗等ヲ以テ行フ簡單ナル風向、風速ノ觀測ニ慣熟スルト共ニ地物ノ狀況或ハ自己ノ身體ニ感スル風力ノ程度等ニ依リ此等ノ概要ヲ判斷シ得ルコト緊要ナリ

風旗或ハ地物ノ狀況ニ依リ風速ヲ判知スル爲ノ標準左表ノ如シ

風速 米/秒	名稱	自然物體	風速 米/秒	風旗
一・五以下	靜穩	煙突ヨリ出ツル煙ハ略ヽ直上ス樹葉動カス	一・〇	垂下セル旗ノ尖端少シク桿ヨリ離レ僅ニ鈍ク動ク
一・五―三・五	軟風	僅少ノ風アルコトヲ感ス樹葉僅ニ動ク	三・〇	旗ノ尖端約四十五度ヲ成ス如ク桿ヨリ離レ辛ウシテ延ヒタル形ニテ稍ヽ大キク徐々ニ動ク
三・五―六・〇	和風	樹葉絶エス多ク	五・〇	旗ハ殆ト延ヒ其尖端「ヒラ」動ク
六・〇―六・〇	疾風	人體ニ感スルコト稍ヽ強シ小樹枝動ク	七・〇	旗全ク延ヒ其尖端ハ縺レル如ク頻繁ニ小サク動搖ス
一〇・〇―一五・〇	强風	大樹枝動ク塵埃ヲ起ス	一〇・〇	旗强ク延ヒ其前半部ハ烈シク鋭敏ニ震動ス

風旗ハ所要ニ應シ臨機製作シ通常柔軟ナル木綿布ヲ長サ約三十糎、底邊約十糎ノ三角形ニ裁斷シ底邊ニ桿ヲ附シ使用スルモノトス

第一章　瓦斯ニ影響ヲ及ス氣象要素

地上風速及風向

第二百七十八　地上ノ風速ハ晝間大ニシテ夜間小ナリ而シテ最大風速ハ正午乃至午後四時頃ノ間ニ、最小風速ハ日出直後ニ現ルヽヲ通常トス風速著シク小ナルトキ或ハ風速小ナラサルモ風向ノ動搖著シキトキハ其直後ニ風向ノ變化ヲ見ルコト多シ

風向ノ地形地物ニ依ル影響

第二百七十九　風向ハ地形、植物ノ影響ヲ受ケテ變化スルモノトス

谷地、凹地等ニ在リテハ風ハ其凹線ノ方向ニ沿ヒテ流レ孤立セル高地、密林、住民地等ニ在リテハ其周邊附近ハ外緣ノ形狀ニ從ヒテ迂回シ河川上ニ在リテハ其流線ニ平行シ或ハ直角ニ近キ角度ヲ以テ之ヲ横斷シ又海岸、湖畔等ニ在リテハ其沿岸ト直角ニ近キ角度ヲ以テ交ハルヲ通常トス

建築物、高地稜線、密林等ニ在リテハ其背後ニ渦流ヲ生シ又地隙内ニハ外地ト異ナル風ノ存在スルコト多シ

天候靜穩ナルトキノ風

第二百八十　天候靜穩ナルトキ地上ニ在リテハ一般ニ氣溫ノ低キ部分ヨリ高キ部分ニ向フ微弱ナル風ヲ生スルモノトス

平地ト接續セル谷地ニ在リテハ晝間ハ平地ヨリ谷内ニ、夜間ハ谷内ヨリ平地ニ向ヒ又山地ニ在リテハ晝間ハ谷底ヨリ山腹ニ沿ヒ山頂ニ、夜間ハ山頂ヨリ山腹ニ沿ヒ谷底ニ向フ風アリ

海岸ニ在リテハ晝間ハ海上ヨリ陸上ニ向ヒ夜間ハ之ニ反スル風ヲ生ス

夏季晴天ノ晝間裸地ト森林、池沼等トノ間竝冬季晴天ノ夜間裸地ト住民地ノ如キ氣溫ノ低下比較的少キ地域トノ間等ニ在リテモ亦風ヲ見ルコトアリ

氣溫ノ最高最低時

第二百八十一　氣溫ハ晝間高クシテ夜間低シ而シテ最高氣溫ハ午後二時頃ニ、最低氣溫ハ日出時刻ノ直前ニ現ルヲ通常トス

氣溫ト地皮溫

氣溫ノ變化ハ地皮溫ノ昇降ニ追隨ス而シテ氣溫ハ通常晝間ニ在リテハ地皮溫ヨリ低ク夜間ニ在リテハ之ニ反シ又氣溫ト地皮溫トノ差ハ通常晝間ニ大ニシテ夜間ニ小ナリ

地皮溫ハ一日ニ日射ヲ受ケレハ上昇スルモ日射ノ强弱、地形及地表面ノ狀態、土質竝水分ノ有無等ニ依リ上昇若ハ下降ノ度ヲ異ニス

地皮溫ノ變化ハ砂地、裸地、凹地等ニ於テ大ニシテ水邊、水分多キ地域、植物ノ繁茂スル地域、凸地等ニ於テ小ナリ

植物ノ密ニ繁茂スル地域ニ在リテハ其草葉ノ繁茂スル部分ノ氣溫地皮溫ニ比シ高キヲ通常トス

上昇氣流及氣溫ノ逆轉

第二百八十二　上昇氣溫ハ主トシテ氣溫ニ比シ地皮溫高キトキ發生ス

晝間日射强キ時期ニ在リテハ上昇氣溫顯著ニシテ夜間ニ在リテハ其發生ナキヲ通常トスルモ氣溫ノ保持良好ナル住民地、森林、水邊等ニ在リテハ弱キ上昇氣溫ヲ見ルコトアリ

氣溫ノ逆轉ハ溫帶地方ニ在リテハ冷涼、風速小ニシテ晴天ナルトキ夕刻ヨリ發生シテ夜間ニ發達シ拂曉時最大トナリ日出後消滅スルヲ通常トシ冬季ニ在リテハ更ニ發生シアル時間ヲ延長ス而シテ夜間ニ在リテモ寄雲空ヲ蔽フトキ

ハ氣溫ノ逆轉ヲ生セサルコト多シ高緯度地方ニ在リテハ氣溫ノ逆轉一層顯著ニシテ冬季ニ在リテハ終日繼續スルコトアリ

谷地、盆地及裸地ニ在リテハ夜間氣溫ノ逆轉ノ發生容易ナルモ水面及氷雪地ニ在リテハ之ニ反シ廣キ水面、濕地等ニ在リテハ晝間輕キ氣溫ノ逆轉ヲ發生スルコトアリ又地皮溫低キ地域ニ對シ他方ヨリ氣溫高キ溫暖ナル空氣ノ流入スルトキハ一時的ニ輕キ氣溫逆轉ヲ見ルコトアリ

第二章　氣象觀測ノ方法

要則

各部隊ノ氣象觀測

第二百八十三　各部隊ニ於テ氣象ヲ觀測スルニハ通常簡易測候具ヲ使用シ直接其指度ヲ看讀シ若ハ風旗、發煙筒等ヲ利用シ目測スルモノトス

簡易測候具ノ構造、取扱、手入及保存等ノ概要附錄其六ノ如シ

觀測教育

第二百八十四　觀測ノ正否ハ氣象判斷ニ影響ヲ及シ其價値ヲ左右スルコト極メテ大ナル故ニ之カ教育ヲ周到ナラシメ常ニ確實迅速ニ器材ヲ操作シ且正確ニ氣象ヲ測定シ得ルニ至ラシムルヲ要ス

觀測器材

第二百八十五　觀測時刻ヲ嚴守スルハ全般ノ觀測ヲ正確ナラシムル爲最モ重要ナリ故ニ觀測ノ實施ニ方リテハ特ニ之ニ留意スルヲ要ス

觀測時刻ノ嚴守

第二百八十六　觀測作業ハ時トシテ意外ノ過誤ヲ伴フコトアリ故ニ觀測ニ際シテハ常ニ見返シ、讀返シ、檢算ヲ行フノ外必ス日測又ハ體感ト對照スル等ノ點檢ヲ行フヲ要ス

觀測作業過誤防止

第二百八十七　觀測器材ノ指度看讀ニ方リ觀測者ノ眼ノ位置ノ良否ハ看讀値

指度ノ看讀法　ニ誤差ヲ生セシムルコトアルモノトス故ニ器材ニ對シ正シキ位置ニ眼ヲ置キテ看讀スルコトニ注意スルヲ要ス

觀測手簿記入　**第二百八十八**　觀測ノ結果ハ直ニ之ヲ觀測手簿ニ記錄スルヲ要ス此際觀測地點ハ勉メテ正確ニ其位置ヲ附記シ又觀測所ヲ移動シタルトキハ其附近ノ地形ヲモ附記シ置クモノトス

觀測手簿若ハ觀測手簿ヨリ淨寫セル原簿ハ永ク保存シ置クヲ要ス

觀測器材ノ保存取扱　**第二百八十九**　觀測器材ハ其構造精緻ニシテ之カ保存取扱ノ適否ハ觀測ノ成果ニ大ナル影響ヲ及スモノトス故ニ觀測ニ從事スル者ハ其構造、機能及取扱ニ通曉シ且常ニ所要ノ點檢手入ヲ實施スルノミナラス時々機能完全ナル器材ト比較シ其精度ヲ點檢シ要スレハ之カ修正量ヲ求ムル等其機能ヲ完全ニ發揮セシムルニ勉ムルヲ要ス

觀測器材ニ故障アルトキハ其輕易ナルモノハ直ニ應急修理ヲ施スヲ要ス然レトモ其修理ハ瓦斯掛將校監督ノ下ニ行フモノトス

觀測順序　**第二百九十**　觀測ノ順序ハ觀測ノ目的及觀測スヘキ事項等ニ依リ異ナルモ定時觀測ニ在リテハ變化シ易キ要素ヨリ實施シ通常風速、風向、氣溫、氣溫ノ逆轉、濕度、地皮溫ノ順序ニ觀測スルモノトス

氣溫ハ通常地上一米及三米ニ於ケルモノヲ測定シ爲シ得レハ之ニ地上十米ニ於ケルモノヲ加フルモノトス而シテ特ニ瓦斯ノ地面ニ對スル膚接ノ良否ヲ判定スル場合ニ於テハ地表氣溫ヲモ測定スルヲ有利トス

觀測ニ用フル單位及稱呼　**第二百九十一**　觀測ニ用フル單位及稱呼左ノ如シ

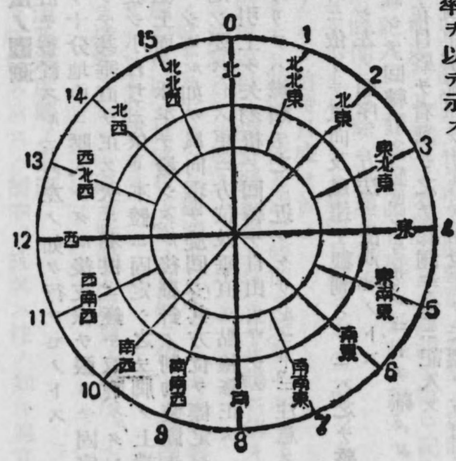
風速　秒米トシ小數以下一位ニ止ム

風向　北ヲ零トシ右廻リニ十五ニ至ル十六方位ヲ以テ表ハス十六方位ニ於ケル風向ノ稱呼第三圖ノ如シ

氣溫　攝氏ノ度トシ小數以下一位ニ止ム

濕度　對比濕度トシ百分率ヲ以テ示ス

第三圖



風向風速計ノ整置

第二百九十二　風向風速計ヲ整置スルニハ左ノ如ク行フモノトス

脚ヲ結合シ下部ノ螺錐ヲ十分地中ニ壓入シタル後支線ヲ張リテ固定ス此際直角ノ兩方向ヨリ點檢シテ其垂直ヲ正ス次ニ羽根ニ錘ヲ取附ケタル矢羽根ヲ風速器上方ノ軸ニ嵌裝シ小ねぢニ依リ本體ニ固定シ之ヲ脚ノ上端ニ裝著ス次ニ目視ニ依リ風向環上面ノ水平ヲ檢シタル後羅針ノ制動裝置ヲ緩メ羅針ノ藍先端ヲ其北ニ向ハシムル如ク風向環ヲ旋回シ其方位ヲ標定シ緊定螺ニテ風向環ヲ脚上ニ固定シ要スレハ更ニ方位竝垂直ヲ點檢修正ス

以上ノ操作終ラハ止金ヲ引上ケ矢羽根ノ回轉ヲ自由ナラシム

風向風速計ヲ裝置スルニ方リテハ鐵類ヲ之ニ近ツケサルコトニ注意スルヲ要ス

風向風速計觀測法

第二百九十三　風向風速計ニ依リテ風向及風速ヲ觀測スルニハ之ヲ整置シタル後測秒器又ハ時計ヲ併用シ左ノ順序、一方法ニ依ルモノトス

一　觀測者ハ風下ニ位置シテ回轉計ノ動キアラサルコトヲ確メタル後短針、長針ノ順序ニ其現在目盛ヲ看讀シ之ヲ觀測手簿ニ記入ス

二　回轉計ニ面シ右方ノ風車解脫紐ヲ引キテ解脫子ヲ矢標ノ方向ニ移動セシムルト同時ニ測秒器ヲ發動セシムルカ或ハ時計ヲ注視シツツ其秒針ノ零秒ヲ指ス瞬時ニ右方ノ風車解脫紐ヲ引ク

回轉計ノ發動ヲ確メタル後風下約三乃至四米ノ位置ニ到ル

三　時々時計及回轉計ノ針ノ動キニ注意シツツ風向指針ノ移動ヲ注視シ約

二分間内ニ於ケル平均位置ヲ概測シ目盛板ニ依リ看讀シ之ヲ觀測手簿ニ記入ス

四　尚時々回轉計ノ針ニ注意シツツ測秒器又ハ時計ヲ注視シ回轉計ノ發動ヨリ二百秒經過スル直前ニ側方ヨリ風向風速計ニ近ツキ左方ノ風車解脫紐ヲ把持シ二百秒ヲ經過セル瞬間ニ之ヲ引キ回轉計ノ指針ノ移動ヲ止ム

五　回轉計ノ短針、長針ノ順序ニ其目盛ヲ看讀シ之ヲ觀測手簿ニ記入ス

六　觀測手簿上ニ於テ最初記入セル目盛(始時目盛)ト最後ニ記入セル目盛(終時目盛)トノ差ヲ測定時間ニテ除シ風速ヲ求ム

此際終時目盛始時目盛ヨリ小ナルトキハ終時目盛ニ千(二周シタルトキハ二千)ヲ加ヘタルモノヨリ始時目盛ヲ減ス

風向及風速ヲ觀測スルニ方リテハ狀況ニ依リ測定時間ヲ變更スルコトアリ

第二百九十四　觀測者ハ風向風速計ノ指針發動後ハ特ニ其身體ニ依リ不規ナル影響ヲ之ニ及ササルコトニ注意スルヲ要ス

第二百九十五　風向風速計ノ高サヲ大ニシテ觀測セントスルトキハ適宜脚又ハ風車解脫紐ヲ延長シテ實施シ風向ハ目盛板下面ノ目盛ニ依リテ看讀スヘシ此際特ニ方位ノ標定ヲ誤ラサルコト肝要ナリ

第二百九十六　風向風速計ヲ撤收スルニハ概ネ整置ト反對ノ順序、方法ニ依ルモノトス

風向風速計撤收

觀測者指針發動妨害

風向風速計高位置觀測

第二節　氣溫及濕度等ノ觀測

第二百九十七　携帯溫濕計ヲ整置スルニハ樹木、杭又ハ柱ノ如キ適宜ノ地物

携帯溫濕

計ノ整置

チ選定シ氣溫チ測定スヘキ高サニ通風口ノ位置スル如ク吊桿チ螺入シ其鉤狀部ニ本體チ懸吊スルモノトス吊桿チ螺入スヘキ適當ナル地物ナキカ又ハ地物ノ狀態吊桿ノ螺入ニ適セサルトキハ本體チ吊桿ニ懸ケ手チ以テ之チ支持シ若ハ吊桿チ使用スルコトナク麻糸或ハ鐵線等ニ依リ地物ニ懸吊ス

濕球表面ノ注水

第二百九十八 觀測ニ方リテハ其直前注水器ニ依リ濕球ノ表面ニ注水スルモノトス其法先ツ注水具ニ清水チ吸入充滿セシメタル後上方ニ向ケ挾子チ緩メテ「ゴム」球チ輕ク壓シ清水チ「ガラス」管ノ上端ニ達セシメテ挾子チ緊定シ之チ濕球ノ球部ニ裝シ十分濕潤セシメタル後「ガラス」管內ノ餘水チ「ゴム」球ニ收メ注水器チ脫シ本體チ輕ク振リテ濕球ノ餘水チ除クモノトス注水ハ靜ニ行ヒ乾球ノ表面チ濕潤セシメサルコト緊要ナリ

濕球用清水

濕球用清水トシテハ軟水チ可トス蒸溜水ハ最良ニシテ清淨ナル雨水或ハ煮沸水チ冷却セシメタルモノモ亦適當ナリ

携帶溫濕計ノ觀測順序方法

第二百九十九 携帶溫濕計ニ依リテ氣溫及濕度チ觀測スルニハ之チ裝置シ濕球チ準備シタル後左ノ順序、方法ニ依ルモノトス

一 繩捲ばねチ矢標ノ方向ニ約二十回捲キテ扇車チ回轉セシメ之チ吊桿ニ懸ク

二 觀測者ハ器材ヨリ約一米離レテ指度下降ノ狀態チ注視ス此際觀測者ハ風下ニ位置スルチ通常トスルモ强風ノ場合ニ於テハ風上ニ位置スルチ可トス

三 約三分間ノ後乾濕球兩溫度計ノ指度最モ下降シ略〻一定スルニ至レハ

眼チ近ツケテ水銀糸頭ト同高ニ位置セシメ且呼吸チ成ルヘク弱メツツ指度チ目盛ノ二分ノ一單位マテ看讀ス

四 看讀値ニ器差ノ修正チ施シタル値チ觀測手簿ニ記入ス乾球ノ溫度ハ卽チ氣溫ナリ

五 觀測手簿上ニ於テ乾濕兩球ノ指度ノ差チ求メ之ト濕球ノ指度トチ基礎トシ附屬濕度表若ハ濕球凍結セル場合ノ濕度表ニ據リ濕度チ求メ之チ觀測手簿ニ記入ス此際要スレハ比例挿入チ行フチ要ス

携帶溫濕計屋外觀測時ノ注意

第三百 携帶溫濕計ニ依リ屋外ニ在リテ氣溫及濕度チ觀測スルニ方リテハ左ノ事項ニ注意スルチ要ス

一 焚火ノ附近其他時種ノ熱的影響チ有スル地點ハ之チ避クルチ要ス

二 熱シタル砂地、水田又ハ氷雪地等ニ在リテハ下方ヨリ溫度計球部ニ對シ直接强キ輻射又ハ日光ノ反射チ受クルチ以テ此等ノ土地チ避クルチ可トス若己ムチ得ス此ノ如キ地點ニ在リテ觀測スルチ要スルトキハ溫濕計ノ直下ニ樹葉、糾草、籠又ハ天幕等チ敷置スルチ可トス然レトモ之カ爲家屋ノ直下ニ樹葉、糾草、籠又ハ天幕等チ敷置スルチ可トス

三 勉メテ日光ノ直射セサル地點チ選定スルチ可トス

四 吊桿チ樹木等ニ螺入スルニ方リテハ成ルヘク其北側チ選定シ以テ樹木ニ接シテ觀測スルカ如キハ避クヘキモノトス

冬季濕球ノ注意

第三百一 冬季濕球ノ表面堅ク氷結セルトキハ濕球ノ指度著シク不正確トナリ正確ナル濕度チ測定スルコト困難ナルモノトス此ノ如キ場合ニ於テハ豫メ

濕球ノ布片ヲ脱シ溫度計ノ球部ヲ微溫湯ニ漬シテ之ニ附著セル氷片ヲ十分ニ拭除シ置キ觀測ニ際シテハ纏捲ばれヲ捲キ終ルト同時ニ毛筆又ハ刷毛等ニ依リ濕球ノ球面ヲ迅速ニ微溫湯ヲ以テ薄ク潤シ其指度ノ最モ下降セルトキ之ヲ看讀スルヲ可トス此際濕球ノ指度ハ氷結シ終ルマテ一時零度附近ニテ停滯スルコトニ注意スルヲ要ス

第三百二 濃霧ノ場合又ハ寒氣强キ靜穩ノ日濕球ノ氷結セル場合等ニハ濕球ノ指度乾球ノ指度ヨリモ高キコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ乾球ノ指度ヲ基準トシ濕球ノ指度之ニ等シキモノト爲シ濕度ヲ求ムルモノトス

濃霧、寒氣ト濕球乾球

第三百三 氣溫概ネ零下三十度以下ニ下降スルトキハ水銀溫度計ノ精度著シク不良トナリ使用ニ堪ヘサルモノトス故ニ一般ニ氣溫零下二十度以下ニ下降セル場合ニ於テハ濕球タル水銀溫度計ヲ脱シテ「アルコール」溫度計ヲ裝著シ之ヲ濕球トシテ觀測シ又氣溫零下三十度以下ノ場合ニ於テハ「アルコール」溫度計ヲ以テ氣溫ノミヲ觀測シ濕度ノ測定ハ之ヲ行ハサルモノトス

氣溫三十度以下ノ觀測

第三百四 携帶溫濕計ヲ利用シ氣溫ノ逆轉ヲ概測スルニハ測定セントスル地上高ニ適スル木柱ヲ樹立シ上部ニ腕木ヲ取附ケ滑車ヲ以テ携帶溫濕計ヲ迅速ニ上下シ得ル如ク設備シ先ツ地上一米ニ於テ觀測ヲ行ヒ次テ纏捲ばれヲ十分捲キ測定セントスル地上高ニ通風口ノ位置スル如ク上ケ三分間放置シタル後速ニ下シテ氣溫ヲ觀測シ兩高度ニ於ケル乾球ノ指度ニ依リ氣溫ノ逆轉ヲ判定ス

氣溫逆轉ノ觀測

携帶溫濕計ノ溫度計ヲ使用シ地皮溫ヲ概測スルニハ溫度計ノミヲ取リ適當ナ

地皮溫測

ル位置ヲ選ヒテ球部ヲ半部以上地中ニ埋メ殘部ノ表面ハ土ニテ薄ク覆ヒ管部ハ小支柱ヲ以テ支フル如ク整置シ觀測ヲ行フモノトス而シテ溫度計ノ管部ハ直射日光ヲ避クル爲通風ヲ妨ケサル如ク處置セル白色ノ木箱ヲ以テ蓋ヒ又溫度計ヲ整備セル場所ノ周圍ニハ適宜標識ヲ爲シ觀測者等ノ過リテ蹈損スルカ如キコトナカラシムルヲ要ス

第三百五 携帶溫濕計ヲ利用シ地表氣溫ヲ概測スルニハ通風口ヲ地表面上約二糎ニ保チ携帶溫濕計ヲ撤收スルニハ概ネ整置ト反對ノ順序、方法ニ依ルモノトス

定

携帶溫濕計撤收

第十篇 瓦斯傷害人馬ノ救急

通則

第三百六 戰線ニ在リテハ縱ヒ瓦斯傷害ヲ受クルモ百方手段ヲ盡シテ戰鬪ヲ繼續スヘシ

戰線ノ瓦斯傷害時指揮官瓦斯傷害者ニ注意

第三百七 指揮官ハ瓦斯傷者ノ實狀ヲ監察シ速ニ機宜ノ處置ヲ爲スヘシ此際被毒者中ニハ被毒ノ程度ヲ過大ニ考フル者、被毒ノ爲亢奮スル者又瓦斯ノ種類及濃度ニ依リテハ被毒ノ初期ニ於テ全ク苦痛ヲ訴ヘサル者等アルニ注意スルヲ要ス

各指揮官

第三百八 瓦斯ハ不意且隨處ニ之ヲ受クルヲ以テ衞生機關ノ未タ整ハサル時

ノ對策

期ニ於テ瓦斯傷害人馬ヲ生スルコトアリ故ニ各級指揮官ハ豫メ之カ對策ヲ攻究シアルヲ要ス

救急處置

第三百九　瓦斯傷害人馬ニ對スル救急ノ處置ハ迅速ナルヲ要ス之カ爲豫メ應急消毒竝救護等ノ準備ヲ整フルト共ニ成ルヘク速ニ軍醫若ハ獸醫ノ診療ヲ受ケシムルノ著意ヲ必要トス

人員ニ對スル救急ノ方法ニ關シテハ本篇ニ示スモノノ外衛生法及救急法ニ據ルモノトス

初期救護ノ重要

第三百十　瓦斯傷害人馬ニ對スル初期ノ救護ノ適否ハ爾後ノ治癒ニ大ナル影響ヲ及スコトニ注意スルヲ要ス

救助者ノ防護裝備

第三百十一　瓦斯傷害人馬ノ救急ニ方リテハ救助者ハ通常裝面スルヲ要ス又糜爛瓦斯傷害人馬ノ救急ニ方リテハ防毒手袋ヲ裝シ其他狀況ニ適應スル防護裝備ヲ爲スモノトス

第一章　人員ノ救急

窒息瓦斯傷害者ノ救急

第三百十二　窒息瓦斯傷害者ノ症狀ノ發生ハ緩慢ニシテ瓦斯吸入後若干時間ヲ要スルヲ以テ歩行其他ノ體動ヲ嚴ニ避ケシメ保溫ニ注意スルヲ要ス而シテ呼吸困難ニシテ顏面ノ紫藍色ヲ現セル者ニ對シテハ酸素缺乏ノ兆ナルヲ以テ酸素吸入ニ依リ多量ノ酸素ヲ與ヘ又假死ノ狀態ニ陷レル者ニ對シテハ人工呼吸ヲ行フコトナク自動呼吸器ニ依リ酸素ヲ吸入セシムルヲ要ス

傷者ハ直ニ更衣シ身體ノ除毒ヲ行ハシメ且其被服、携帶品等ハ消毒又ハ除毒スルヲ要ス而シテ汚毒後縱ヒ若干時間ヲ經過シアル場

合ニ於テモ身體ノ除毒ヲ行フトキハ爾後ノ傷害ヲ輕減シ得ルモノトス眼ニ傷害ヲ受ケタル場合ニ於テハ水、重曹水又ハ食鹽水等ニテ洗滌シタル後治療ヲ施シ呼吸器ニ傷害ヲ受ケタル場合ニ於テハ窒息瓦斯ニ對スル方法ヲ準用スルモノトス

中毒瓦斯傷者ノ救急

第三百十四　中毒瓦斯傷者ニ對シテハ概ネ窒息瓦斯傷者ニ對スル方法ヲ準用スルモ人工呼吸ハ之ヲ實施スルコトヲ得

裝面ノ爲酸素缺乏者

第三百十五　裝面セル場合ニ於ケル過度ノ運動ノ爲酸素ノ缺乏ヲ來シ卒倒シタル者ニ對シテハ速ニ瓦斯化地域外ニ救出シ防毒面ヲ脫シ身體ヲ安靜ニ保持セシムヘシ此際酸素吸入ハ特ニ效果アルモノトス

第二章　馬ノ救急

馬ノ瓦斯感應性

第三百十六　馬ハ窒息瓦斯、糜爛瓦斯等ニ對シテハ抵抗力小ナルモ催涙瓦斯及「クシャミ」瓦斯ニ對シテハ抵抗力大ナリ

馬ハ瓦斯傷害比較的輕易ナルトキハ自ラ其苦痛ヲ訴フルコト少キヲ以テ動モスレハ過役セラレ易ク又重症ナルトキハ苦痛ニ對スル耐忍性ヲ缺キ擅ニ苦悶、暴擾スルヲ以テ却テ傷害ノ度ヲ增進スルコト多キモノトス

窒息瓦斯ニ犯サレタルトキ

第三百十七　馬ハ窒息瓦斯ニ犯サレタルトキハ不安、落涙、體溫上昇、脈搏增加、鼻漏、發咳、呼吸困難、食慾減退等ヲ呈スルモノトス而シテ致死的傷害ヲ受クルモ瓦斯ノ吸入後尙若干時間ハ症狀ノ明瞭ナラサルコトアルニ注意スルヲ要ス然レトモ瓦斯ノ吸入後十數時間ヲ經ルモ體溫上昇、呼吸困難等ノ症狀ヲ發生セサルトキハ傷害ノ度輕易ナルモノトス

糜爛瓦斯ニ犯サレタルトキ

第三百十八　馬ハ氣狀糜爛瓦斯ニ犯サレタルトキハ概ネ窒息瓦斯ニ犯サレタルトキト同樣ノ症狀ヲ呈スルノ外粘膜特ニ眼ニ傷害ヲ受ケ結膜炎、角膜炎ノ潤濁ヲ來シ遂ニ失明スルニ至ルコトアリ

馬ハ液狀糜爛瓦斯ニ犯サレタルトキハ水泡ヲ生スルコトナク痒覺、疼痛、增溫、腫脹等ヲ發シ數日ニシテ濕疹糜爛トナリ數十日ニシテ結痂脫落ス

瓦斯ニ犯サレタルトキ處置

第三百十九　馬室息瓦斯若ハ氣狀糜爛瓦斯ニ犯サレタルトキハ速ニ裝具ヲ脫シ通風良好ナル場所ニ移シ安靜保溫ニ勉メ成ルヘク水與ヲ禁スヘシ

液狀糜爛瓦斯ニ犯サレタルトキ

第三百二十　馬液狀糜爛瓦斯ニ犯サレタルトキノ處置ハ概ネ第百三十三ニ準ス而シテ眼ニ傷害ヲ受ケタル場合ニ於テハ水、重曹水、硼酸水等ニテ洗滌スルモノトス

瓦斯防護教範草案終

瓦斯防護教範草案附錄

其一　防毒面

第一節　構造及機能

防毒面區分

第一　防毒面ハ覆面、連結管、吸收罐、携帶袋及屬品ヨリ成ル

防毒面ノ構造機納

第二　防毒面ハ覆面ノ內周緣ニ依リ顏面トノ氣密ヲ確保シ瓦斯ニ對シ眼及呼吸器ヲ防護スルモノニシテ外氣ハ吸收罐ヲ通過スルニアラサレハ覆面內ニ入ルヲ得ス卽チ吸氣ニ際シテハ呼氣瓣閉鎖シ含毒空氣ハ吸收罐ノ底部ヨリ吸入セラレ吸收劑及濾煙層ニ依リ瓦斯ヲ吸收濾去セラレ淸淨ナル空氣トナリ連結管ヲ經テ覆面內ニ入ルモノトス又呼氣ニ際シテハ吸氣瓣閉鎖シ呼氣ハ連結管ニ逆流スルコトナク外部ニ排出セラルルモノトス

眼カラス曇止板

第三　裝面シテ軍用諸眼鏡ヲ使用スヘキモノニハ觀測用眼「ガラス」及同曇止板ヲ附加スルモノトス

覆面ノ區分

覆面

第四　覆面ハ面、めがね、締紐及呼吸氣室ヨリ成ル

面ノ構造

第五　面ハ外面ニ茶褐色ノ「メリヤス」ヲ壓著セル一枚ノ「ゴム」板ヲ二箇ノめがね孔ヲ有スル特種ノ形狀ニ成形シタルモノトス

めがね孔ノ下方內面ニハ之ニ向ヒ開口セルY字型三叉路ヲ有シ其下端ハ連結管ニ通セルヲ以テ吸氣ニ際シ乾燥セル新空氣ハ眼「ガラス」內面ニ觸レ曇止ノ作用ヲ爲スモノトス

めがねノ構造

第六 めがねハ托環、塞環（更ニ壓環ヲ有スルモノアリ）、眼「ガラス」及蓋螺ヨリ成リ裝面者ノ外界透視ニ供ス觀測用眼「ガラス」ヲ用フルトキハ本眼「ガラス」及塞環ヲ用ヒサルモノトス

托環ハ內環及外環ヨリ成リ（兩環ニ區分セサルモノアリ）面ノめがね孔ニ裝著シ之ニ眼「ガラス」及塞環（或ハ觀測用眼「ガラス」）ヲ裝シ（壓環ヲ有スルモノニ在リテハ托環內ニ塞環、眼「ガラス」及壓環ヲ裝シ）タル蓋螺ヲ螺著スルニ供ス

塞環ハ眼「ガラス」ノ周緣ヲ被覆シ蓋螺ヲ螺著セル場合めがね部ノ氣密ヲ確保スルニ供シ併セテ其彈力ニ依リ眼「ガラス」ト蓋螺トヲ一體ナラシメ曇止板著脫等ノ操作ヲ便ナラシム（壓環ヲ有スルモノニ在リテハ塞環ハ眼「ガラス」ト托環トノ間ニ又壓環ハ眼「ガラス」ノ外面ニ重ネ蓋螺ヲ裝著スルモノトス）

眼「ガラス」ハ二枚ノ平面「ガラス」板ノ間ニ「セルロイド」板ヲ挾ミ之ヲ「ゼラチン」ニ依リ接合シ其外周ニ黑色防濕塗料ヲ施シタル無色透明、抗力靱强ナルモノニシテ縱ヒ一部ニ破損ヲ生スルモ容易ニ氣密ヲ害スルコトナシ觀測用眼「ガラス」ハ「ゴム」製伸縮環ニ中徑稍〻小ナル眼「ガラス」ヲ裝著シテ前後ニ出入セシメ以テ裝面ノ儘軍用諸眼鏡ヲ使用シ得シムルモノトス

蓋螺ハ托環ニ螺著シ眼「ガラス」（或ハ觀測用眼「ガラス」）ヲ壓著固定ス其周緣ニハ「ギザ〳〵」ヲ附シ蓋螺ノ緊解ニ便ス（螺廻（ネヂマハシ）ヲ用フルモノニ在リテハ蓋螺ノ周緣ニ螺廻ヲ嵌裝スル爲二箇ノ切缺ヲ有ス）

締紐ノ構

第七 締紐ハ甲、乙、丙及旋毛板竝各種ノ環及根付ヨリ成リ覆面ヲ顏面ノ定

位置ニ保持スルニ供ス

締紐甲及乙ハ門形方形環ニ依リ丙ハ門形締環ニ依リ夫々覆面ト旋毛板トノ距離ヲ適宜伸縮シ得ヘク從テ裝著者ノ頭部ノ大小、形狀ノ如何ニ拘ラス覆面ヲ確實ニ裝著シ得ルモノトス

呼吸氣室ノ構造

第八 呼吸氣室ハ覆面ト連結管トヲ連絡シ呼吸氣孔ヲ成形スルモノニシテ內部ハ呼氣室及吸氣室ニ區劃セラレ呼氣瓣、吸氣瓣及呼氣室蓋ヲ有ス

呼氣瓣ハ薄「ゴム」製瓣ニシテ呼氣室下端ノ瓣座ニ裝著セラレ其周圍ニ輕ク接著シ呼氣孔ヲ閉塞ス故ニ呼氣ニ際シテハ其正壓力ニ依リ呼氣孔ヲ開キテ呼氣ヲ排出スルモ吸氣ニ際シテハ其負壓力ニ依リ全ク呼氣孔ヲ閉塞シ外氣ヲ流通セシメサルモノトス

吸氣瓣ハ吸氣室ニ收容セラレ呼吸ニ際シ之ヲ流通シ又ハ阻止スル作用ハ概ネ呼氣瓣ニ反ス

呼氣室蓋ハ蝶番ニ依リ呼吸氣室ニ裝著セラレ（呼氣室外周ニ螺著セルモノアリ）呼氣瓣ヲ保護スルニ供ス其下面ハ呼氣ヲ排出スル爲多少ノ小孔ヲ有ス

連結管ノ構造

第九 連結管ハ「メリヤス」ヲ壓著セル「ゴム」蛇管ニシテ覆面ト吸收罐トヲ連絡シテ吸氣路ヲ構成シ其一端ハ覆面ニ、他端ハ吸收罐ノ接續口部ニ裝著緊定ス

吸收罐ノ構造

第十 吸收罐ハ內部ニ吸收劑及濾煙層ヲ有スル楕圓形筒ニシテ含毒外氣ハ底

構造　部ノ吸氣孔ヨリ入リ罐内ヲ通過シ連結管ニ到ル間ニ於テ清淨セラルルモノトス底部ノ吸氣孔ニハ特ニ底栓ヲ有スルモノアリ

携帶袋

携帶袋ノ構造　第十一　携帶袋ハ覆面、連結管、吸收罐及屬品ヲ收容シ携帶竝保存ニ便ナラシムルモノニシテ袋、胴紐及負紐ヨリ成ル

袋ハ防水性ヲ附與セル木綿布製ニシテ其内部ハ隔布ニ依リ覆面室及吸收罐室ニ區劃スル而シテ吸收罐室ノ底部ニハ吸收罐ニ到ル通氣ヲ良好ナラシムル爲吸收罐蓋ヲ又其上部ニハ屬品ヲ收容スル内袋ヲ有ス蓋ニハ其下端ニ凹釦ヲ附シ袋外側ノ對應部ニ附セル凸釦ニ鉤セシム

胴紐ハ防毒面ノ携帶若ハ裝著ニ際シ裝著者ノ胴部ニ結著ス

負紐ハ袋ヲ携帶又ハ懸吊スルニ供スルモノニシテ閂形方形環ニ依リ其長サヲ適宜伸縮シ得ルト共ニ鼓釦ニ依リ約二十五糎短縮スルコトヲ得

屬品

屬品種類　第十二　屬品ハ曇止板匣（觀測用曇止板匣）、不凍液罐及手入綿布ヨリ成ル（屬品匣、曇止板、曇止板托環及螺廻ヨリ成ルモノアリ）

曇止板　第十三　曇止板匣（觀測用曇止板匣）ハ内部ニ包紙ヲ以テ密封セル曇止板（觀測用曇止板）ヲ收容ス

曇止板（觀測用曇止板）ハ透明ナル「セルロイド」板ノ兩面ニ曇止加工ヲ施シ（片面ノミニ曇止劑ヲ施シ且此面ノ周緣ニ近ク「セ」ノ字ヲ標記セルモノアリ）タル圓形板ニシテ寒冷時ニ於テ覆面三叉路ニ依ル曇止作用不十分ナルトキ之

ヲ眼「ガラス」（觀測用眼「ガラス」）ノ内面ニ裝著シ其曇ヲ防止スルモノトス（曇止板ニハ眼「ガラス」ニ裝著スル爲曇止板托環ヲ使用シ且使用後眼「ガラス」ヨリ容易ニ離脱セシムル爲其一部ニ切缺ヲ附シタルモノアリ）

不凍液罐　第十四　不凍液罐ハ内部ニ不凍液ヲ收容ス

不凍液ハ極寒時ニ在リテモ凍結セサル液ニシテ呼氣瓣ニ塗布シ其凍著ヲ豫防シ又ハ凍著セル呼氣瓣ヲ融解シ或ハ眼「ガラス」（觀測用眼「ガラス」）ノ内面ニ薄ク塗布シ曇止ニ使用スルモノトス

手入綿布　第十五　手入綿布ハ覆面ノ手入特ニ寒冷時ニ於ケル脱面後眼「ガラス」（觀測用眼「ガラス」）及呼氣瓣等ノ拭淨ニ使用ス

螺廻　第十六　螺廻ハめがねノ蓋螺ヲ裝脱スルニ用フ

第二節　分解及結合

分解結合ヲ行フ場合　第十七　防毒面ノ分解及結合ハ部品交換、手入檢査及格納等必要已ムヲ得サル場合之ヲ行フモノニシテ左記部分ノ外分解スルヲ許サス而シテ之カ實施ハ通常中隊長以上ノ命令ニ依リ幹部監督ノ下ニ之ヲ行フヲ要ス

一　めがね（托環ヲ除ク）

二　呼氣瓣

三　吸收罐ト連結管トノ接續部

めがねノ分解結合ハ主トシテ曇止板ノ裝脱及眼「ガラス」ヲ交換スル場合ニ行フモノトス（觀測用眼「ガラス」ヲ裝シタルモノ若ハ曇止板托環ヲ有スルモノハ曇止板裝脱ノ爲ニハめがねノ分解及結合ヲ必要トセス）

めがねノ分解

第十九 めがねヲ分解スルニハ覆面ノ表面ヲ上ニシ左(右)手ノ拇指ヲ以テ覆面ヲ押ヘ他ノ諸指ニテめがねヲ内面ヨリ支ヘ覆面ヲ保持シタル後右(左)手ニテ蓋螺ヲ徐々ニ左方ニ旋回シテ之ヲ脱除シ次テ塞環ヲ装セル眼「ガラス」(觀測用眼「ガラス」)ヲ脱スルモノトス(壓環及塞環ヲ有スルモノニ在リテハ壓環、眼「ガラス」及塞環ノ順序ニ脱シ分解ノ爲螺廻ヲ使用スルモノトス)

めがねノ結合

第二十 めがねノ結合ハ概ネ分解ト反對ノ順序、方法ニ依ル而シテ蓋螺ヲ装著スルニハ之ヲ托環ニ螺入シタル後十分緊定スルモノトス

呼氣瓣分解結合

第二十一 呼氣瓣ノ分解及結合ハ主トシテ呼氣瓣ノ交換ノ場合之ヲ行フモノトス

呼氣瓣ハ装脱ニ際シ損傷セシメサル如ク注意シ且装著ニ方リテハ瓣膜正シク呼氣孔ニ接著スル如ク嵌装スルヲ要ス

吸收罐ト連結管ノ接續部ノ分解及結合

第二十二 吸收罐ト連結罐トノ接續部ノ分解及結合ハ主トシテ吸收罐ヲ交換スル場合ニ之ヲ行フモノトス

第二十三 吸收罐ト連結管トノ接續部ヲ分解スルニハ防毒面全體ヲ臺上ニ置キ左(右)手ヲ以テ吸收罐ヲ握リ右(左)手ニテ締金ヲ緩解シタル後連結管ヲ吸收罐ヨリ離脱スルモノトス

結合ハ分解ト反對ノ順序、方法ニ依ル而シテ連結管ハ吸收罐ノ接續口部ニ確實ニ挿入シタル後締金ニ依リ十分之ヲ緊定スルモノトス

第三節 取扱上ノ注意

曇板止ノ装著

第二十四 曇止板ノ装著ハ先ツ蓋螺及眼「ガラス」ヲ取脱シ曇止板ヲ正シク托環内ニ入レ次テ蓋螺及眼「ガラス」ヲ以テ之ヲ緊定スルモノトス(觀測用眼「ガラス」ヲ装シタルモノ若ハ曇止板托環ヲ有スルモノニ在リテハめがねヲ分解スルコトナク觀測用眼「ガラス」若ハ眼「ガラス」内面ニ曇止板ヲ装シ曇止板托環ニテ押ヘル如ク嵌装スルモノトス)此際極寒時ニ在リテハ常ニ其他ノ場合ニ在リテハ曇止板ノミニ依ル曇止作用不十分ナルトキ曇止板ヲ装スルニ先タチ眼「ガラス」「觀測用眼「ガラス」」ノ内面ニ薄ク不凍液ヲ塗布シ兩者相俟ツテ完全ニ曇止ノ目的ヲ達成セシムルモノトス

覆面及連結管取扱

第二十五 覆面及連結管ハ「ゴム」ヲ主材料トセルヲ以テ火氣ニ接近セシメ或ハ油類ニ依リ汚染セシメ或ハ不必要ナル壓縮、伸張ヲ爲スヲ避ケシメ又成ルヘク濕氣及日光ノ直射ヲ受ケシメサルヲ可トス

「ゴム」極寒時取扱

第二十六 「ゴム」ハ極寒時ニ在リテハ多少ノ硬化ヲ免レサルヲ以テ勉メテ暖キ場所ニ置クヲ要スル而シテ若凍結硬化セルモノアルトキハ妄ニ之ヲ折リ疊ミ又ハ延ハスコトナク徐々ニ加温シテ柔軟ナラシムルヲ要ス

寒冷時呼吸瓣及曇止板

第二十七 寒冷時ニ在リテハ呼氣瓣ノ凍著ヲ豫防スル爲脱面後直ニ拭淨シ其内面ニ不凍液(不凍液ヲ有セサルトキハ「グリセリン」等)ヲ塗布シ置クヲ可トス又曇止板ハ之ニ附著セル水分ノ凍結ヲ防ク爲脱面後直ニ之ヲ拭淨スルヲ要ス

覆面ヲ携帶袋ニ收

第二十八 覆面ヲ携帶袋ニ收ムルニハ常ニ正規ニ折リ疊ミ變形ヲ避クルヲ要ス又多數ノ防毒面ヲ重ネ或ハ壓縮シテ箱ニ收容シ覆面特ニめがねノ變形破損

注意

ムル注意

チ來サシメサルチ要ス觀測用眼「ガラス」ヲ裝シアル防毒面ニ於テ特ニ然リ

携帶袋ノ取扱方

第二十九　携帶袋ハ防毒面ノ携帶間ト裝著時トニ拘ラス常ニ蓋ヲ閉チ雨雪竝塵埃等ニ對シ其内部ヲ十分保護スルコトニ勉ムルヲ要ス

吸收罐ノ保護

第三十　雨雪天竝河川徒渉等ニ際シテハ狀況之ヲ許セハ吸收罐ニ底栓ヲ施シ（底栓ナキモノニ在リテハ爲シ得ル限リ吸收罐ヲ保護シ）濕氣ノ侵入ヲ豫防スルヲ要ス吸收罐内ニ水ノ浸入セルトキハ呼吸抵抗ヲ增加スルノミナラス吸收劑ハ著シク其能力ヲ減退スルモノトス

防毒面地上ニ放置不可

第三十一　防毒面ハ決シテ濕潤セル地上ニ放置スヘカラス必ス負紐ニ依リ之ヲ懸吊シ置クヲ要ス

携帶袋ニハ所定外ノ物品ヲ收容禁

第三十二　携帶袋ニハ所定外ノ物品ヲ收容スヘカラス

吸收罐納

第三十三　吸收罐ハ瓦斯ヲ濾去スルニ從ヒ漸次吸收能力ヲ消耗スルヲ以テ使用時間ニ制限アルモノトス故ニ使用者ハ瓦斯中ニ於ケル時間ヲ概算シ之ヲ防毒面使用記錄ニ記載シ置クモノトス

手入

防毒面手入區分

第三十四　防毒面ノ手入ヲ分チテ通常普通手入、使用後ノ手入及精密手入トス

普通手入

第三十五　普通手入ハ概ネ左ノ如シ

一　覆面及携帶袋内外ノ塵埃異物ヲ除去スル之カ爲乾燥セル布片若ハ刷毛ヲ以テ輕ク拭淨スルモノトス

二　眼「ガラス」ハ柔軟且清潔ナル乾布ヲ以テ其内外面ヲ拭ヒ尙要スレハ少量ノ「アルコール」ヲ浸シタル布片ヲ以テ「ガラス」面ヲ拭ヒ然ル後乾燥セル布片ニテ之ヲ輕ク拭淨スルモノトス

三　手入後ハ各部ノ損傷特ニ各締紐縫著部ノ破綻等ヲ檢査シ携帶袋ニ收容スルモノトス

使用後ノ手入

第三十六　使用後ノ手入ハ普通手入ノ外概ネ左ノ如シ

一　覆面及携帶袋ニ泥土ノ附著セルモノハ十分乾燥セシメタル後布片又ハ刷毛ヲ以テ除去シ拭淨スルモノトス

携帶袋ノ水洗ハ成ルヘク之ヲ避クルヲ可トス然レトモ著シク汚損セルモノハ水又ハ石鹼水ヲ以テ其部分ヲ洗滌シタル後十分日乾スルモノトス

二　覆面ハ乾燥セル布片若ハ必要ニ際シ水又ハ「アルコール」ヲ浸セル布片ヲ以テ其内部ヲ拭淨シタル後短時間之ヲ蔭乾スルモノトス

拭淨ニ際シテハ液ヲ三叉路ニ入レサル如ク注意シ且乾燥ニ方リテハ火氣若ハ日光ノ直射ヲ避クルヲ要ス

三　呼吸氣室ハ呼氣室蓋ヲ開キ（呼氣室蓋ヲ脫シ）乾燥セル布片ヲ以テ其内面竝呼氣瓣ノ周邊ニ附著セル水分ヲ拭淨シ十分之ヲ除去スルモノトス此際呼氣瓣ヲ著脫スヘカラス

四　雨雪天、河川徒渉又ハ其他ニ依リ防毒面濕潤シタル場合ニ於テハ柔軟ニシテ乾燥セル布片ヲ以テ之ヲ拭淨シ各部ノ水分ヲ十分除去シタル後覆面ハ空氣ノ流通良好ナル場所ニ蔭乾シ又携帶袋ハ日乾スルモノトス

精密手入

第三十七　精密手入ハ前記ノ外概ネ左ノ如シ

締金及蓋螺ノねぢ並呼氣室蓋ノ蝶番ハ防錆ノ爲「ワセリン」ヲ薄ク塗布スルヲ可トス

覆面ノ消毒

第三十八　覆面ノ消毒ハ消毒液（二・五％「クレゾール」水又ハ七〇％程度ノ「アルコール」ヲ適當トス）ヲ浸シタル布片ヲ以テ其内面ヲ拭ヒ特ニ三叉路ノ外面、鼻部及顎部ヲ十分拭淨ス而シテ濕布次テ乾布ヲ以テ拭淨シタル後空氣ノ流通良好ナル場所ニ於テ蔭乾スルモノトス

多數ノ防毒面ヲ同時ニ消毒スルニハ先ツ吸收罐ヲ離脱シタル後覆面及連結管ヲ密閉容器ニ收容シ「ホルマリン」蒸氣消毒ヲ行フ而シテ「ホルマリン」ヲ十分除去シタル後吸收罐ヲ結合スルモノトス

格納品手入

第三十九　格納品ハ成ルヘク晴天ニシテ乾燥セル日ヲ選ヒ砂塵及濕氣ヲ受ケサル場所ニ於テ各部ノ發銹、布部ノ發黴、蟲害、「ゴム」ノ變質及龜裂等ニ注意シ手入スルモノトス又塗料ヲ施セル部分ハ必要ニ應シ全部若ハ局部ノ補修塗ヲ行フ

保存

防毒面保存

第四十　防毒面ノ保存ニ關シテハ一般「ゴム」製品並布製品ニ準據スルモノトス

常用品保存

第四十一　常用ノモノニ在リテハ各部ノ手入ヲ施シタル後携帶袋ニ收容シ成ルヘク日光ノ直射セサル乾燥セル場所ニ負紐ニ依リ懸吊シ置クモノトス

一時格納

第四十二　一時格納ニ在リテハ手入後吸收罐ハ底栓ヲ施シテ（底栓ナキ防毒面ニ在リテハ底部ノ吸氣孔ヲ密閉スル如ク防濕用ノ紙若ハ布ヲ貼布シ又ハ

「ゴム」製ノ覆ヲ裝スルモノトス）之ヲ防濕シ又覆面ハめがね部ノ凹陷及三叉路ノ變形等ヲ防ク爲旋毛板ヲ三叉路ノ二枝ノ上ニ重ネタル後其中ニ拳大ノ紙塊（新聞紙等）又ハ保形器ヲ入レ之ヲ頰部ニテ包ミ携帶袋ニ收容ス而シテ乾燥セル箱ニ重疊セサル如ク收納密閉シ成ルヘク溫度ノ變化少ク且乾燥セル場所ニ格納スルモノトス

炎熱地及極寒地ノ格納

第四十三　炎熱地ニ在リテハ成ルヘク溫度低キ場所ニ格納スルヲ可トス極寒地ニ在リテハ「ゴム」質凍結硬化スルノ虞アルヲ以テ之カ格納ニハ勉メテ溫暖ナル場所ヲ選定スルヲ可トス

第二　防毒服

第一節　構造及機能

防毒服ノ種類

第一　防毒服ハ防毒衣、防毒袴、防毒手袋、防毒靴及包布ヨリ成ル

防毒衣

第二　防毒衣ハ布入「ゴム」製ニシテ體及胴締ヨリ成リ兵ノ腹部以上（顏面及手ヲ除ク）ヲ被包防護スルモノトス

第三　體ノ上部ハ頭巾ヲ構成シ其前面ニハ顏面ヲ露出スヘキ開孔部ヲ有ス開孔部ノ周緣ニハ「ゴム」ヨリ成ル氣密布ヲ縫著シ防毒面ト防毒衣トヲ併用スルニ方リ防毒面ト頭巾トノ間ノ氣密ヲ確保シ得シム

氣密布ハ延伸性大且其外周ハ兵ノ頭圍ヨリモ大ナルカ故ニ防毒衣ヲ裝著シタル儘頭巾ノミヲ裝脱スルコトヲ得

頭巾ニハ上下ニ各一組ノ方形環、門形締環及頭巾締紐ヲ附シ之ニ依リ頭巾ヲ

頭部ニ適合セシムル如ク緊締スルモノトス

體ノ左右兩袖口及裾ハ何レモ其端末ヲ內面ニ折リ之ヲ縫綴シテ環狀孔ヲ成形シ孔中ニ夫々延伸性大ナル袖口締紐及腰部締紐ヲ封入シアリ環狀孔ニハ鳩目ヲ附シ締紐ノ交換ニ際シ容易ニ紐ヲ出入シ得シム各締紐ハ夫々衣ノ袖口及裾ヲ兵ノ腕關節部及腰部ニ緊締シ又體胴部ノ左右兩側ニハ各一箇ノ胴締通ヲ附シ胴締ヲ通スニ供ス

胴締

第四　胴締ハ布入「ゴム」ヨリ成リ體ノ腹部ヲ緊締スルニ供ス又防毒袴ノミヲ裝用スル場合ニハ其腰部ヲ緊締スルニ供ス

防毒袴

防毒袴用途

第五　防毒袴ハ布入「ゴム」製ニシテ體及吊紐ヨリ成リ兵ノ腹部以下（足ヲ除ク）ヲ被包防護スルモノトス

防毒衣ノ構造

第六　體ノ上緣及兩裾ニハ防毒衣ト同要領ニ依リ上締紐及下締紐ヲ附シ以テ兵ノ腹部及足關節部ニ緊締スルニ供ス

體ノ腰部左右兩側ニハ各一箇ノ胴締通ヲ附ス胴締通ハ上下二段ニ縫著セラレ防毒袴ノミル裝用スル場合兵ノ體尺ニ應シ其上段若ハ下段ニ防毒衣ノ胴締ヲ通シテ之ヲ胴締支持スルモノトス

體ノ上緣後面ニハ左君ニ各一箇ノ釦ヲ有シ之ニ吊紐ヲ裝シ又上緣前面ニハ左右ニ各一箇ノ耳ヲ有シ之ニ吊紐ノ末端ヲ結ヒ著ク

第七　吊紐ハ體ヲ兵ノ肩ニ支持セシムルモノニシテ四叉狀ニ組ミ合ハセ其交點ニ於テ互ニ縫著ス其兩遊端ハ防毒袴裝著ノ場合袴ノ耳ニ縛著スルニ供ス

吊紐

防毒手袋

防毒手袋

第八　防毒手袋ハ兵ノ手ヲ被包防護スルニ供ス「ゴム」製ニシテ左右同型ナリ其腕關節部ハ伸縮性大ニシテ裝用ノ場合兵ノ腕關節ヲ緊締スルモノトス

防毒靴

防毒靴

第九　防毒靴ハ兵ノ脚及足ヲ防護スルモノニシテ靴及締紐ヨリ成ル

靴ノ構造

防毒靴ノ大サハ軍靴ノ約十一文三分ニ相當ス

締紐

第十　靴ハ「ゴム」ヲ主材料トシ其上端ニ近ク後面ニ締紐通ヲ有ス

第十一　締紐ハ略〻其中央部ニ於テ靴ノ締紐通ニ縛著シアリ締紐ハ靴ノ上端部ヲ緊締スルニ供ス

包布

包布

第十二　包布ハ防毒衣、防毒袴、防毒手袋及防毒靴ヲ收納スルモノニシテ防水性ヲ附與シタル矩形ノ麻布又ハ綿布ヲ主體トシ之ニ締紐四及負紐一ヲ附ス

締紐ハ包布內ニ防毒服部品ヲ收納シタル場合包布ノ胴部ヲ緊締スルニ供ス

負紐ハ包布ノ外面ニ縫著シ其止環ト相俟ツテ包布ヲ縱方向ニ緊締シ之ヲ背ニ懸ケ若ハ脊負フ場合ニ使用スルモノトス

負紐ニハ其長サヲ適宜伸縮シ得ヘキ方形環及閂形環各一ヲ附ス

手入及保存

手入

第十三　防毒服內外ノ塵埃、土砂等ヲ除去スル之カ爲乾燥セル布片若ハ刷毛ヲ以テ輕ク拭淨スルモノトス

液狀瓦斯附著時手入

第十四　使用間液狀ノ持久瓦斯附著スルカ又ハ附著ノ疑アルトキハ其都度成ルヘク速ニ晒粉ニ依リ消毒スルヲ可トス

使用後ノ手入

第十五　使用後ハ防毒服ノ外面特ニ汚毒ノ疑アル部分ヲ晒粉ニ依リ消毒シタル後布片等ヲ以テ晒粉ヲ十分除去シ又防毒服ノ內面特ニ皮膚ニ接觸セル部分ハ七十%程度ノ「アルコール」等ヲ浸セル布片ヲ以テ拭淨シタル後十分乾燥スルヲ要ス

汚毒甚シキ場合ノ手入

第十六　防毒服ノ汚毒著シキ場合ニ於テハ晒粉若ハ晒粉乳劑ヲ以テ反復消毒ヲ實施シ且二日以上日乾シタル後ニアラサレハ再ヒ之ヲ使用スヘカラス

泥土附著セルトキ

第十七　防毒服ニ泥土ノ附著セルモノハ布片若ハ刷毛ヲ以テ輕ク摩擦シ若ハ拭淨ス

雨雪天時使用セル

第十八　雨雪天ノ際使用セルモノハ布片ニテ水分ヲ十分除去シタル後防毒服ハ乾燥トシ包布ハ日乾スルヲ要ス

使用セルモノ手入後ノ水洗保存

第十九　手入後ハ各部ヲ檢査シ正シク折シ疊ミタル後包布ニ收ムルモノトス

第二十　包布ノ水洗ハ成ルヘク之ヲ避クルヲ可トス

第二十一　防毒服ノ保存ニ關シテハ一般「ゴム」製品ニ準據スルモノトス

其三　馬防毒面

第一節　構造及機能

防毒面ノ大小區分

第一　馬防毒面ハ覆面ノ大サニ依リ之ヲ大、小二種ニ分ツ大ハ概ネ蹄鐵五號以上、小ハ蹄鐵四號以下ノ馬ニ適合スルモノトス

第二　馬防毒面ハ覆面、吊革及袋ヨリ成ル

覆面ノ構造

第三　覆面ハ其織布層ニ吸收劑ヲ浸潤シテ使用スルモノニシテ氣密革ニ依リ馬ノ上顎部ニ密著シ鼻腔ヲ被包シ吸氣ニ際シテハ含毒空氣ハ覆面ノ織布層ヲ通シテ吸入セラレ其吸收劑ニ依リ瓦斯ヲ吸收濾去スルモノトス

覆面

覆面ノ區分

第四　覆面ハ有底圓筒狀ノ面ト締紐トヨリ成ル

覆面各部ノ構造

第五　面ハ麻布ノ間ニ木綿布ヲ挾ミ之ヲ碁盤目ニ縫綴成形セルモノニシテ之ニ口板、氣密革及整形板ヲ裝ス

口板ハ正方形ノ布入「ゴム」板ノ兩側ニ特種ノ形狀ヲ有スル凸梁ヲ附シタルモノニシテ覆面裝著ノ際之ヲ馬ノ口內ニ入ルルモノトス凸梁ハ馬ノ齒ニ依ル損傷ヲ防止スルニ供ス

氣密革ハ面ノ口緣ヲ成形シ覆面ノ裝著ニ際シ馬ノ口角ヲ通スル上顎部ノ周圍ニ密著シ顏面ト覆面トノ間ノ氣密ヲ確保スルモノニシテ三箇所ニ突起部ヲ有スル褐色牝牛革ヨリ成リ外周ニ半圓形環八ヲ附ス

整形板ハ厚「ゴム」帶ヲ薄麻布製ノ包布ヲ以テ包ミ面ノ內側ニ縫著シタルモノニシテ其彈撥力ニ依リ覆面ノ著用間吸氣等ニ依ル面ノ變形ヲ防止スルニ供ス

半圓形環ハ締紐ヲ之ニ通シ若ハ固定スルニ供ス又面ノ外側ノ鉤ハ覆面ヲ吊革ニ鉤シ之ヲ保持スルニ供ス

締紐

第六　締紐ハ麻製ノ綱ニ締紐止及圓形環ヲ附シタルモノニシテ締紐止ト相俟ツテ氣密革ヲ緊締スルニ供ス

圓形環ハ締紐ノ端末ノ締紐止内ニ沒入スルヲ防止シ且締紐ノ緊締ヲ容易ナラシムルモノトス

吊革

第七　吊革ハ咽革一、三叉革釣革二、三叉革一及鼻梁革一ヨリ成リ覆面ヲ馬ノ頭部ニ固定スルモノニシテ閂形轡環ニ依リ相互ニ連結セラレ且夫々其長サヲ適當ニ加減シ得ルモノトス

咽革ハ吊革ヲ馬ノ頂及咽喉前縁ヲ通スル頸ノ周圍ニ固定スルニ供ス

三叉革釣革ハ一端ヲ咽革ニ裝著シ他端ハ三叉革シ閂形轡環ト相俟ツテ咽革ト三叉革トヲ連繫スルニ供ス

三叉革ハ概ネ三叉形ヲ呈セルモノニシテ其端末ニ夫々閂形轡環ヲ附ス

鼻梁革ハ一端ヲ三叉革ニ連結シ他端ニ方形環ヲ附シタルモノニシテ面ノ鉤ト相俟ツテ覆面ヲ保持スルモノトス

袋

第八　袋ハ覆面及吊革ヲ收納スルモノニシテ外袋及中袋ヨリ成ル

第九　外袋ハ厚麻布製ニシテ其外側ニ吊紐、駐布及吊革入ヲ附ス

吊紐ハ麻製ニシテ携帶ニ際シ之ニ依リ懸吊若ハ縛著スルモノトス

駐布ハ袋ヲ馬具若ハ車輛等ニ裝著スル場合之ニ縛革ヲ通シテ固定スルニ供ス

第十　中袋ハ「ゴム」引薄麻布製ニシテ其胴部ハ外袋ニ縫著セラル

第二節　取扱

第十一　馬防毒面ニ吸收劑ヲ浸潤セシムルニハ先ツ其革具類特ニ氣密革ニ十分塗油シタル後一箇ツツ氣密革ヲ上ニシ約十分間之ヲ吸收劑液中ニ漬ス而シテ織布層全體ニ浸潤セシメタル後取出シ過剰ノ溶液ヲ手ニテ搾リ季節、天候ニ應シ五時間乃至一日間日乾シテ袋ニ收ムルモノトス

第十二　覆面ニ吸收劑ヲ浸潤セシムルニ方リ注意スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一　締紐ハ成ルヘク吸收劑溶液中ニ漬ササルコト

二　面ハ吸收劑浸潤後適度ニ乾燥セシムルコト

三　吸收劑浸潤當日雨天等ノ爲面ヲ乾燥シ得サルトキハ一旦之ヲ袋ニ收メ置キ後日更ニ日乾スルコト

四　覆面ハ吸收劑浸潤後革類、金具及締紐ノ手入ヲ施シタル後之ヲ袋ニ收ムルコト

五　使用セル容器（水嚢、飯盒）ハ用濟ミ後之ヲ水洗スルコト

第十三　吸收劑浸潤後覆面ノ乾燥程度ハ液ノ滴ルコトナカラシムルヲ以テ適度トス

覆面ハ吸收劑ノ乾燥スルニ從ヒ馬ニ對スル呼吸抵抗ヲ減少スルノ利アリト雖著シク乾燥スルトキハ瓦斯ニ對シ吸收能力不良トナルヲ以テ過度ニ乾燥セシムヘカラス又過度ノ乾燥ニ依リ面ヲ硬化セシメ若ハ之カ表面ニ白色粉末ヲ散見スルニ至ルカ如キコトナカラシムルヲ要ス

第十四　覆面ノ過度ニ乾燥セル場合ハ之ニ清水ヲ注キ潤シタル後適度ニ乾燥スルヲ可トス此際吸收劑ヲ流出セシメサル如ク注意スルヲ要ス

第十五　覆面ノ吸收劑ヲ更新スルニハ先ツ之ヲ水洗シテ舊吸收劑及汚物ヲ除

劑ノ更新　去シタル後新吸收劑ヲ浸潤セシムルモノトス

第三節　手入及保存

塵埃土砂等除去　**第十六**　馬防毒面内外ノ塵埃、土砂等ヲ除去ス之カ爲乾燥セル布片若ハ刷毛ヲ以テ輕ク拭淨スルモノトス

發黴發錆ノ防止　**第十七**　覆面ハ常ニ發黴及發錆セサル如ク手入スルヲ要ス中袋ノ濕潤セルトキハ乾燥セル布片ヲ以テ拭淨シ若ハ蔭乾スルヲ要ス

使用後手入　**第十八**　使用後ニ在リテハ特ニ口板、氣密革及締紐等ニ附著セル唾液ヲ乾燥セル布片ヲ以テ除去シ革類ニハ塗油スルヲ要ス

長ク使用セサリシ後ノ格納手入後ノ收納保存　**第十九**　馬防毒面ハ永ク之ヲ使用セサル場合ニ於テハ面ヲ水洗シ吸收劑ヲ除去シタル後乾燥セシメ所要ノ手入ヲ施シタル後格納スルモノトス

第二十　手入後ハ各部ヲ檢査シ機能良好ニシテ吊革各部ハ該馬ニ適合スル如ク爲シ締紐ヲ十分緩解シタル後袋ニ收納スルモノトス

第二十一　馬防毒面ノ保存ニ關シテハ「ゴム」、麻布、革類製品ニ準據スルモノトス

其四　馬防毒脚絆

第一節　構造及機能

馬防毒脚絆ノ大サ　**第一**　馬防毒脚絆ハ其大サニ依リ之ヲ大、小二種ニ分ツ大ハ概ネ蹄鐵五號以上、小ハ蹄鐵四號以下ノ馬ニ適合スルモノトス

脚絆ノ區分　**第二**　馬防毒脚絆ハ脚絆左右各二及袋ヨリ成ル

脚絆ノ構造　**第三**　脚絆ハ「ゴム」引薄麻布ト蹄踵「ゴム」トヲ縫綴成形セルモノニシテ之ニ管革三組（上、中、下）、繫革一組及蹄革一組ヲ附ス蹄踵「ゴム」ハ蹄踵部附近ニ接著シ「ゴム」引薄麻布ハ膝又ハ飛節以下蹄ノ上部ニ至ル下肢ヲ被包防護シ得ルモノニシテ管革ニ依リ管部ニ、繫革ニ依リ繫部ニ又蹄革ニ依リ蹄踵「ゴム」ト相俟ツテ蹄ニ對シ固定ス

脚絆ノ左右ハ諸締革ノ取附位置竝其方向全ク相對稱ナルニ依リ區別シ得ルモノトス

袋

脚絆袋　**第五**　袋ハ脚絆ヲ收納スルモノニシテ外袋及中袋ヨリ成ル

外袋　**第六**　外袋ハ厚麻布製ニシテ其外側ニ吊紐及駐布ヲ附ス

吊紐ハ麻製ニシテ携帶ニ際シ之ニ依リ懸吊若ハ縛著スルモノトス

駐布ハ袋ヲ馬具若ハ車輛等ニ吸著スル場合之ニ縛革ヲ通シテ固定スルニ供ス

中袋　**第七**　中袋ハ「ゴム」引薄麻布製ニシテ其胴部ハ外裝ニ縫著セラル

第二節　取扱

脚絆ノ取扱　**第八**　脚絆ヲ袋ニ收ムルニハ其四箇ヲ重ネ合ハセ中央ヲ通スル線ニ於テ之ヲ縱ニ半折シ蹄踵「ゴム」ヲ内ニシ之ヲ堅ク卷キテ袋ニ收メ中袋ノ上緣ヲ折リ畧〻其上ヲ覆ヒタル後外袋ノ蓋ヲ閉ツルモノトス

第三節　手入及保存

塵埃土砂等除去　**第九**　馬防毒脚絆内外ノ塵埃、土砂等ヲ除去ス之カ爲乾燥セル布片若ハ刷毛ヲ以テ輕ク拭淨スルモノトス

液狀持久瓦斯附著使用後ノ手入

第十 使用間液狀ノ持久瓦斯附著スルカ又ハ附著ノ疑アルトキハ成ルヘク速ニ晒粉ニ依リ消毒スルヲ可トス

第十一 使用後ハ脚絆ノ外面特ニ汚毒ノ疑アル部分ヲ晒粉ニ依リ消毒シタル後布片等ヲ以テ晒粉ヲ十分除去シ又内部ハ七十%程度ノ「アルコール」等ヲ浸セル布片等ヲ以テ拭淨シタル後十分乾燥スルヲ要ス

第十二 馬防毒脚絆ノ汚毒著シキ場合ニ於テハ晒粉若ハ晒粉乳劑ヲ以テ反復消毒ヲ實施シ且十分日乾シタル後ニアラサレハ再ヒ之ヲ使用スヘカラス

第十三 馬防毒脚絆ニ泥土ノ附著セルモノハ布片若ハ刷毛ヲ以テ輕ク摩擦シ若ハ拭淨ス

第十四 雨雪天ノ際使用セルモノハ布片ニテ水分ヲ十分除去シタル後蔭乾スルヲ要ス

第十五 手入後ハ各部ヲ檢査シ正シク折リ疊ミタル後袋ニ收ムルモノトス

第十六 馬防毒脚絆ノ保存ニ關シテハ「ゴム」、麻布、革類製品ニ準據スルモノトス

脚絆雨雪天時ノ使用後手入後收納保存

氣密ヲ良好トナス方法

其五 中(重)掩蔽部ニ於ケル防毒設備

第一節 防毒設備

第一 中(重)掩蔽部ニ在リテハ其氣密ヲ良好ナラシムル爲周壁特ニ入口ノ外圍竝入口ニ近キ頂板ノ上部及側板ノ外側ハ土ヲ以テ密實ニ塡塞スヘシ而シテ瓦斯侵入スルノ虞アルトキ特ニ入口附近ノ匡及板ノ接合部ニ在リテハ粘土或ハ「モルタール」等ニ依リ之ヲ密閉スルヲ要ス

入口ノ制限

第二 掩蔽部ノ内部ニ瓦斯ノ侵入スルヲ防止スル爲ニハ其入口ノ少キヲ有利トス之カ爲中(重)掩蔽部ニ在リテハ瓦斯攻擊ヲ受ケタルトキ使用スヘキ入口其他外氣ニ通スル開口部ヲ最小限ト爲スヲ要ス

焚火ニ依ル瓦斯排除

第三 中(重)掩蔽部ニ於テ焚火ニ依リ瓦斯ヲ排除スル爲ニハ其焚火ノ位置ヲ掩蔽部ノ入口一箇ナルトキハ最奥部ニ、入口二箇ナルトキハ風下ノ入口ノ底部(入口若垂坑道ヨリ成ルトキハ其底部)ニ選定スルヲ要ス然レトモ焚火ニ依リ構築物ヲ燃燒シ若ハ爆藥等ニ危險ヲ及ササル如ク注意スルコト必要ナリ坑道内ニ在リテハ焚火ニ依ル瓦斯ノ排除ヲ禁止ス

濾過裝置

第四 濾過裝置ヲ以テスル中(重)掩蔽部ノ換氣ハ通風管及通風機ニ依リ含毒外氣ヲ吸入シ濾過層ヲ通過セシメ其含有スル瓦斯ヲ吸收濾去シテ新鮮ナル空氣ヲ供給スルモノトス此際掩蔽部内ノ氣壓ハ外部ヨリ稍〻高上スル傾向アルヲ以テ排氣ハ微細ナル間隙ヨリ排出セラレ併セテ此部ヨリスル外氣ノ侵入ヲ防止スルモノトス

換氣ノ爲ノ通風ハ濾函ノ命數ヲ永カラシムル爲必要ノ最小限ト爲スモノトスル而シテ其量ハ狀況ニ依リ異ナルモ棲息者一人ニ對シ毎分概ネ四十立ヲ標準トス

濾函ヲ有セサルトキハ木炭粉、燒キタル鋸屑若ハ藥液ヲ浸ミタル鋸屑及毛布等ノ應用材料ヲ以テ之ヲ急造スルコトヲ得ルモ其濾過能力ハ十數分ヲ出テサルヲ以テ之カ使用ニ注意スルヲ要ス

通風管ハ狀況特ニ周圍ノ地形ニ應シ垂直又ハ斜ニ之ヲ配置シ土地トノ密接ヲ

通風管、通風器

十分ナラシメ且其吸氣孔ハ成ルヘク高キヲ可トスト雖敵眼、敵火ニ對シテ掩蔽スルコト必要ナリ

通風機ハ手動又ハ電動トシ濾函ト共ニ通常掩蔽部内ノ一隅ニ之ヲ設置ス

第五　中(重)掩蔽部ノ附近ニ樹木又ハ高地等アルトキハ之ヲ利用シテ成ルヘク高キ位置ニ吸氣孔ヲ置キ濾過層ヲ設クルコトナク通風管及通風機ニ依リ直ニ掩蔽部ノ内部ニ清淨ナル空氣ヲ吸入スルコトアリ此場合ニ於テハ吸氣孔ノ位置ハ成ルヘク高キヲ可トシ平坦地ニ在リテハ地面上少クモ十米ナルヲ要ス

更新器淨化法

第六　更新器ヲ以テスル中(重)掩蔽部ノ淨化法ハ掩蔽部内ノ空氣ヲ外氣ト全ク遮斷シ掩蔽部ノ内部ニ發生スル炭酸瓦斯ヲ藥品ニ依リ中和セシメ缺損スル酸素ヲ之ニ依リ發生セシメ或ハ壓搾酸素容器ヨリ酸素ヲ放出セシメ又ハ酸素發生劑ニ依リ之ヲ補給スルモノトス

更新器ニ依ル淨化法ハ濾過裝置ニ比シ施設簡單ニシテ外氣ノ瓦斯ノ種類及濃度ニ關係ナク使用シ得ルモ内部ノ氣溫著シク上昇スル不利アルノミナラス氣壓低下ノ爲微細ナル間隙ヨリモ外氣侵入スルノ虞アルニ注意セサルヘカラス

石灰乳塗布

第七　濾過裝置又ハ淨化法等ニ依ルコトナク單ニ掩蔽部ノ内部ニ石灰乳ヲ塗布シタル布片ヲ多數懸吊スルモ應急的ニ炭酸瓦斯ノ增加ヲ防止スルコトヲ得然レトモ之ヲ反復スルニ伴ヒ逐次酸素ノ缺乏ヲ來スヲ以テ之ヲ補給スルコト肝要ナリ

第二節　防毒設備ヲ施シタル掩蔽部使用上ノ注意

通路制限

第八　瓦斯攻撃ヲ受クルノ虞アルトキハ掩蔽部ノ通路ハ必要ノ最小限ヲ殘シ

掩蔽部入口歩哨ノ動作

其他ハ閉鎖シ之ヲ標示スルモノトス

第九　瓦斯攻撃ヲ受クルノ虞アルトキハ掩蔽部ノ入口附近ニ歩哨ヲ配置シテ警戒セシム其歩哨ノ動作概ネ左ノ如シ

一　瓦斯ノ徵候ヲ認ムルカ又ハ瓦斯警報ヲ聞キタルトキハ直ニ内部ニ傳達シ隔障ヲ閉ツ

二　瓦斯流來スルトキハ兩隔障ノ中間ニ位置シ出入者ニ對シ規定ノ實行ヲ監視ス

三　時々隔障外ニ出テ瓦斯ノ有無ヲ檢シ之ヲ指揮官ニ報告ス

四　隔障閉鎖中ハ屢〻之ニ中和劑又ハ水ヲ注キテ其氣密ヲ良好ナラシム

五　隔障ノ外側附近ニハ瓦斯ノ鬱積シアルヲ通常トスルヲ以テ隔障ヲ開クニ方リ先ツ之カ排除ニ注意ス若兩隔障ノ中間ニ瓦斯ノ侵入シタル場合ニ於テハ中和劑ニ依リ消毒シ瓦斯ノ掩蔽部内ニ侵入スルヲ防止ス

六　人員ノ出入ニ方リテハ其可否ヲ告知シ若兩隔障ノ中間ニ瓦斯ノ存在シアルトキハ之ヲ消毒シタル後ニアラサレハ内側隔障ヲ開カシムヘカラス

七　持久瓦斯ヲ被レル者ニ對シテハ掩蔽部外ニ於テ晒粉ヲ以テ消毒シタル後掩蔽部内ニ入ラシムヘシ

掩蔽部内ノ守兵

第十　瓦斯攻撃ヲ受クルノ虞アルトキハ掩蔽部内ノ守兵ハ防毒面ヲ待機參勢ト爲シ瓦斯侵入ノ徵候アルトキハ直ニ指揮官ニ報告ス又火氣ヲ消滅シ燈火ハ電燈ノ外必要ノ最小限ト爲シ豫メ指定セラレタル兵ハ通氣孔ノ開口部ヲ閉鎖シ且必要ニ應シ速ニ豫備ノ隔障ヲ設置シ得ル如ク準備スルヲ要ス

瓦斯攻撃ヲ受ケ掩蔽部内ニ入ル

第十一　敵ノ瓦斯攻撃ヲ受ケタルカ或ハ附近ニ瓦斯滯留シアルトキ掩蔽部入口ノ隔障ヲ通過スルニ方リテハ通常一人ツツ逐次哨兵ニ通過ノ可否ヲ質シ其應答ヲ待ツテ隔障内ニ入ルヘシ如何ナル場合ニ於テモ同時ニ二隔障ヲ開クヘカラス

隔障開閉ノ操作ハ迅速確實ナラサルヘカラス若持久瓦斯ヲ被リタルトキハ掩蔽部ニ入ルニ先タチ晒粉ヲ以テ十分消毒スルヲ要ス

同掩蔽部ヨリ出ツ

第十二　守兵ハ敵ノ瓦斯攻撃後掩蔽部ヨリ出ツルニ方リテハ指揮官ノ指示ヲ受クルモノトス

其六　簡易測候具

第一章　風向風速計

第一節　構造

簡易風向風速計

第一　風向風速計ハ隨處ニ携行シ局地ノ風向、風速ヲ測定シ得ルモノニシテ其風速測定範圍ハ毎秒一乃至十五米トス

同區分

第二　風向風速計ハ本體、脚、支線及屬品ヨリ成ル

構造

第三　本體ハ矢羽根、風速器及風向環ヨリ成ル

矢羽根ハ羽根及錘ヨリ成リ風速毎秒二十糎以上ノ風向ニ追隨シ得

風速器ハ風車、回轉計及匡ヨリ成リ矢羽根ノ回轉ニ伴ヒ正シク風向ニ背面ス

風車ハ八枚ノ「アルミニウム」薄板ヨリ成リ其回轉ナ回轉計ニ傳フ回轉計ハ風車ノ回轉ニ依リ風程ヲ示スモノニシテ長針及短針ヲ備ヘ長針ノ示ス一分畫ハ風程一米ニ、其一回轉ハ百米ニ相當シ短針ハ長針ノ一回轉毎ニ一分畫進ミ其

一回轉ハ風程一粁ニ相當ス匡ハ上面ニ解脱紐ヲ有シ之ヲ矢標ノ方向ニ引クコトニ依リテ回轉計ヲ始動セシメ反對ノ方向ニ引クコトニ依リテ其回轉ヲ解脱セシム又匡ノ下面ニハ一側ニ風向指針ヲ、其反對側ニ止金ヲ附ス止金ハ之ヲ同孔ニ挿シ風速器上ノ旋回ヲ固定スル用ニ供ス

風向環ハ目盛板、羅針及支桿ヨリ成ル目盛板ハ北ヲ零ニ定メ右廻リニ百密位毎ノ六十四分畫、十五度毎ノ二十四分畫及十六方位線ノ三種ノ目盛ヲ有ス羅針ハ目盛板ノ下面ヨリ操作シ得ル制動裝置ヲ備フ支桿ハ割溝及緊定螺ニ依リ本體ヲ脚ニ固定スルニ用フ

脚ノ構造

第四　脚ハ三箇ニ分解シ得ルモノニシテ上部ニハ支線止ノ鍔ヲ有シ下部ノ一端ハ螺錐狀ヲ爲ス

支線

第五　支線ハ一端ニ自在環及鉤ヲ、他端ニ控杭ヲ有シ脚ノ固定ニ用フ

屬品

第六　屬品ハ匡、鞄及脚袋各一ヨリ成リ本體ハ匡ニ收入シ更ニ之ヲ鞄ニ收容シ脚及支線ハ脚袋ニ收容ス

第二節　取扱、手入及保存

使用後手入

第七　風向風速計ハ整置及撤收ニ伴フ結合、分解ノ外妄ニ他ノ部分ヲ分解スヘカラス使用後ハ本體ハ其外部ヲ布片ヲ以テ輕ク拭淨シ風車内部ハ毛筆又ハ軟キ刷毛等ヲ以テ塵埃ヲ除去シ脚及控杭ハ附著セル泥土ヲ十分除去シタル後脚袋ニ收容スルヲ要ス

雨水等ニテ濕潤ノ

第八　使用間雨水等ニ因リ濕潤シタルトキハ乾キタル布片ヲ以テ水分ヲ除去スルヲ要ス此際特ニ回轉計ノ内部ニ水分ヲ浸入セシメサルコトニ注意スルヲ

トキ雨雪强風時等使用上注意

要ス

第九　雨雪中又ハ强風中ニテ使用スルヲ要スル場合ニ於テハ測定後ハ成ルヘク速ニ少クモ本體ヲ脚ヨリ取脫シテ鞘ニ收メ無益ニ雨雪ニ暴露シ若ハ强風ニ空轉セシムヘカラス其他ノ場合ニ於テモ亦測定時以外ハ本體ヲ鞘ニ收メ置クヲ可トス

精度疑ハシキトキ

第十　風向風速計ノ精度疑ハシキトキハ爲シ得レハ自記風速計及自記風向計ノ竝置シ指度ヲ比較點檢シ其器差ヲ求メ置クモノトス此際測定部ノ風ニ對スル關係ヲ同樣ナラシムル如ク注意スルヲ要ス

取扱上注意

第十一　其他取扱上注意スヘキ事項左ノ如シ

一　羅針ノ制動裝置ハ過度ニ力ヲ加ヘテ之ヲ操作スヘカラス又器材ノ撤收ニ際シテ羅針及止金ヲ必ス止メ置クヲ要ス

二　風車解脫紐ノ操作ハ迅速ナルヲ要スルモ之カ爲過度ニ力ヲ加フヘカラス器材ノ高サヲ大ニシテ觀測ヲ行フ場合ニ於テ特ニ然リ

三　矢羽根及風車ハ運搬、使用竝手入等ノ際特ニ注意シ之ヲ變形セシメサルヲ要ス是風向竝風速ノ測定値ニ誤差ヲ生セシムルヲ以テナリ

四　脚端末ノ螺錐部ハ運搬及使用間之ヲ保護シ破損セシメサルヲ要ス

五　風速器匡下端上面ノ注油孔及風車ノ回轉軸部ニハ少クモ二週間ニ一回時計油已ムヲ得サレハ「スピンドル」油ヲ輕ク注油シ置クヲ要ス然レトモ之カ爲風速器等ヲ絶對ニ分解スヘカラス

第二章　携帶溫濕計

携帶溫濕計

第十二　携帶溫濕計ハ野外ニ於テ簡易ニ溫度及濕度ヲ測定シ得ルモノニシテ其氣溫測定範圍ハ攝氏五十乃至零下五十度ニシテ通風速度ハ概ネ每秒二米五十ナリ

第十三　携帶溫濕計ハ本體、注水器、吊桿及屬品ヨリ成ル

區分構造

第十四　本體ハ通風器、通風筒及溫度計ヨリ成ル通風器ハ內部ニ扇車及纏捲ばねヲ備ヘ扇車ノ回轉ニ依リ通風筒ヨリ吸入シタル外氣ヲ通風筒ニ裝著セル溫度計ノ球部ニ流通セシム纏捲ばね一回ノ作動時間ハ七分トス

通風筒ハ溫度計ヲ保持シ且外氣導通ノ用ヲ爲スモノニシテ下端ハ叉狀ヲ成シ象牙環ヲ介シテ二重管ヲ螺著ス通風筒內ノ氣溫ハ扇車ノ始動ヨリ三分間以內ニ於テ一定値ニ達スルモノトス

溫度計ハ測定範圍攝氏五十乃至零下三十度ノ一度目盛ヲ施セル二重管式水銀溫度計二箇ヨリ成リ各其球部ヲ通風筒二重管內ニ位置セシムル如ク同筒ニ挿入セラレ一側ノ溫度計ハ濕球トシテ使用スル爲球部ニ寒冷紗ヲ纏結ス又別ニ測定範圍攝氏零乃至零下五十度ノ一度目盛ヲ施セル低溫用二重管式「アルコール」溫度計一箇ヲ有ス溫度計ノ器差ハ何レモ正負各一度以內トス

第十五　注水器ハ注水具及挾子ヨリ成リ濕球溫度計ニ水ヲ供給スルニ用ノ

注水器吊桿

第十六　吊桿ハ本體ヲ地物ニ懸吊スルニ用ヒ一端ハ鉤狀ヲ爲シ他端ニハ刻螺ス

第十七　屬品ハ濕度表、收容筒、匣及鞘各一ヨリ成ル

濕度表ハ白色「セルロイド」板ニ氣溫攝氏一度、乾濕球示差〇・五度毎ニ算定シタル濕度ヲ彫刻ス

收容筒ハ本體ヲ、匣ハ注水器及吊桿ヲ收容スルニ用フ

鞘ニハ收容筒及匣ヲ收容シ負革及帶革ヲ附シ携行ニ便ナラシム

第二節　取扱、手入及保存

第十八　溫度計ノ入替ハ通常左手ヲ以テ通風筒附近ヲ、右手ヲ以テ通風器ヲ持チ之ヲ右ニ廻ハシテ螺脫シ裝入セラレアル溫度計ノ中央部及頭部ヲ持ツテ之ヲ上方ニ脫シ新溫度計ヲ上方ヨリ裝シ通風器ヲ螺裝ス抽脫セル溫度計ハ木製筒ニ入レ收容筒ニ收メ置クモノトス

第十九　濕球ニ纏結セル布片汚染シ又ハ脂油ノ附著セル場合等ニ於テハ之ヲ交換スルヲ要ス而シテ布片ヲ交換スルニハ二重管ヲ螺脫シテ濕度計ノ球部ヲ露出セシメ布片ニ成ルヘク摺襞ヲ生セサル如クシ一重ニテ球部ヲ卷キ先ツ其上方ヲ細キ木綿糸ニテ縛著シ更ニ生セシ摺襞ヲ除キタル後布片ノ下方ヲ球部ノ尖端ニ接シテ縛著シ餘端ヲ切リ取ルモノトス濕球用布片トシテハ脫脂セル白色ノ寒冷紗最モ適當ニシテ「ガーゼ」已ムヲ得サレハ吉野紙ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

第二十　携帶溫濕計ハ溫度計又ハ濕球布片交換ノ場合ノ外妄ニ分解スヘカラス使用後ハ軟キ布片ヲ以テ輕ク其外面ヲ拭淨シ鍍金面ニ發錆セシメサルヲ要

使用間雨水等ニ因リ濕潤シタルトキハ速ニ溫度計ヲ脫シ乾キタル布片ヲ以テ溫度計、通風器及通風筒ヲ拭淨シ水分ヲ十分ニ除去シタル後結合シ更ニ纏捲ばねヲ捲キテ通風シ置キ鞘ノ乾キタル後之ニ收容ス

第二十一　雨雪中ニテ使用スルヲ要スル場合ニ於テハ測定後ハ成ルヘク速ニ本體ヲ撤シテ鞘ニ收メ徒ラニ雨雪ニ暴露スヘカラス

第二十二　溫度及濕度ノ測定ニ方リ誤リテ乾球ノ球部ヲ濕潤セシメタルトキハ速ニ其象牙環ヲ螺脫シ十分ニ乾球並二重管ノ內部ヲ拭淨シテ之ヲ結合シ一回通風セシメタル後測定ヲ開始スルヲ要ス

第二十三　「アルコール」溫度計ハ低溫用ノモノニシテ氣溫四十度ニ達スルトキハ「アルコール」ノ膨脹ニ依リ破裂スルノ虞アリ故ニ直射日光ニ當テサルト共ニ鞘內ニ容レアル場合ニ於テモ永ク之ヲ日光下ニ暴露シ若ハ煖房裝置、焚火等ニ近ツケサル如ク注意スルヲ要ス

第二十四　溫度計特ニ「アルコール」溫度計ハ運搬間屢〻「アルコール」糸截斷シ管ノ上端ニ滯溜スルコトアリ以テ使用ニ際シテハ常ニ點檢スルヲ要ス而シテ此ノ如キ溫度計ヲ使用スルニ方リテハ之ヲ本體ヨリ脫シ又ハ木製筒內ヨリ取出シ其頭部ニ近ク確實ニ之ヲ持チ球部ヲ下方ニシ四周ニ注意シツツ强ク上下ニ打チ振リ滯溜セル「アルコール」若ハ水銀ヲ下ケ「アルコール」若ハ水銀糸ヲ接續セシメタル後使用スルヲ要ス

第二十五　其他取扱上注意スヘキ事項左ノ如シ

一　纏捲ばねヲ捲クニハ必ス矢標ノ示ス方向ニシ且過度ニ捲キテ之ヲ破損

セシメサルヲ要ス

二　使用セサル場合ニ於テモ溫度計ヲ上下倒置セサルヲ可トス

三　運搬ニ際シテハ勉メテ動搖激突ヲ避クルヲ要ス

四　風車ノ軸部ニハ一年間ニ二、三回時計油ヲ注入スルヲ可トス然レトモ之カ爲通風器ヲ分解スヘカラス

第三章　携帶氣壓計

第一節　構造

携帶氣壓計

第二十六　携帶氣壓計ハ野外ニ於テ簡易ニ氣壓及高度ヲ測定シ得ルモノニシテ其測定範圍ハ氣壓六百六十乃至七百九十粍、高度零乃至千四百米トス

區分

第二十七　携帶氣壓計ハ本體及屬品ヨリ成ル

構造

第二十八　本體ハ空盒、槓桿、指針及目盛板ヲ備ヘ氣壓ノ變化ニ依ル空盒ノ伸縮ヲ槓桿ヲ經テ指針ニ傳ヘ指針ノ移動量ヲ目盛板ニ依リ看讀セシム

空盒ハ兩面輕合金製圓麵板ニシテ內部ノ空氣ヲ拔キ殘ヲ備ヘ且溫度ノ交感ニ對スル自動調節裝置ヲ有ス空盒內ニハ若干ノ空氣ヲ殘置シ槓桿ニ有スル溫度交感ノ自動調節裝置ト相俟ツテ溫度ニ依ル影響ヲ消除ス而シテ氣壓增減スルトキハ空盒ハ之ニ伴ヒ收縮又ハ膨脹シ其作用ハばね、槓桿鎖ヲ經テ針軸ニ擴大傳達セラレ指針ヲ旋回ス此際平衡發條ハ指針ノ旋回ニ釣リ合ハセ指針ヲ振回スルノ作用ヲ爲スばねノ一端ニハ規正螺ヲ有シ規正螺ノ端末ハ匡裏面ニ露出ス

目盛板ハ氣壓目盛及高度目盛ヲ備ヘ氣壓目盛ハ測定範圍六百六十乃至七百九

十粍ノ間一粍目盛ヲ刻シ器差一粍以內トシ高度目盛ハ零乃至千四百米ノ間十米目盛ニシテ氣壓目盛ノ外周ヲ摺動シ得

屬品

第二十九　屬品ハ鞴及螺廻各一ヨリ成ル

螺廻ハ指度ノ規正ニ使用スルモノニシテ鞴ノ外側ニ收容ス

第二節　點檢及規正

規正

第三十　携帶氣壓計ノ規正ハ瓦斯掛將校又ハ其監督ノ下ニ熟練者ヲシテ實施セシメ妄ニ之ヲ行フヘカラス

規正及點檢

第三十一　携帶氣壓計ハ必要ノ都度正確ナル水銀氣壓計ト比較シ其指度ヲ點檢又ハ規正スルヲ要ス

指度ノ點檢ハ水銀氣壓計ト同一ノ場所ニ於テ爲スヘキモノトシ水銀氣壓計ノ指度ニ器差及溫度修正ヲ施シタルモノト比較シ器差ヲ求ム

遠隔セル水銀氣壓計ノ指度ニ依リ點檢スル際ハ前項ノ外更ニ兩地點ノ標高差ヲ高度目盛ニ取リ之ニ相當スル氣壓修正ヲ施シタル値ト比較ス

指度ヲ規正スルニハ本體裏面ニ在ル規正孔ヨリ螺廻ヲ以テ徐々ニ指針ヲ回轉シ前諸項ノ方法ニ依リ修正ヲ施シタル値ニ一致セシム

第三節　取扱、手入及保存

取扱上注意

第三十二　携帶氣壓計ハ特ニ之ヲ要スル場合ノ外一般ニ分解スヘカラス又使用間ト雖勉メテ雨露ニ暴露スヘカラス若濕潤シタルトキハ乾キタル布片ヲ以テ水分ヲ除去シ置クヲ要ス又使用後ハ布片等ヲ以テ外部ノ塵埃ヲ拭淨スルヲ要ス

製作後ノ一年間ノ點檢

第三十三　本器ハ製作後約一年間ハ其器差固定シ難キ習癖ヲ有スルヲ以テ之ニ著意シ時々點檢シ器差表ヲ修正スルヲ要ス

第三十四　其他取扱上注意スヘキ事項左ノ如シ

一　日光ノ直射、其他ノ熱的影響ヲ避ケ雨雪ニ對シ防護スルヲ要ス

二　格納位置ト使用位置トノ標高差ヲ大ナラシメサルヲ可トス

三　運搬ニ際シテハ勉メテ動搖衝突ヲ避クルヲ要ス

四　高度目盛板ノ摺動ハ圓滑緩徐ニ行ヒ急激ナラシメサルヲ要ス

第四節　携帶氣壓計ニ依ル氣壓ノ觀測法

整置

第三十五　携帶氣壓計ニ依リ氣壓ヲ測定スルニハ隨處ニ於テ之ヲ行ヒ得ルモ成ルヘク動搖セサル基臺上ニ整置シ又ハ地物ニ懸吊シテ測定ヲ行フヲ可トス然レトモ器材ノ保存上成ルヘク雨露ヲ防キタル屋蓋下ヲ可トシ煖房裝置ノ附近、日光ノ直射スル場所等特種ノ熱的影響ヲ有スル位置ハ之ヲ避クルヲ要ス

氣壓測定法

第三十六　携帶氣壓計ニ依リ氣壓ヲ測定スルニハ之ヲ整置シタル後左ノ順序、方法ニ依ル

一　指頭ニテ輕ク「ガラス」面ヲ叩キ指針ヲシテ正位ヲ取ラシム

二　一眼ヲ以テ指針ノ直上ヨリ氣壓目盛ヲ耗單位マテハ其刻線ニ依リ、耗ノ十分數ハ目測ニ依リテ看讀ス

三　看讀値ニ器差ノ修正ヲ行ヒ氣壓七百耗以上ナルトキハ七百耗ヲ減シタル値ヲ觀測手簿ニ記入ス

高度測定

第三十七　携帶氣壓計ニ依リ高度ヲ測定スルニハ高度目盛板ヲ摺動シ出發點

法

ノ標高ニ相當スル高度目盛ヲ指針ニ一致セシメタル後所望ノ標高未知點ニ移動シ氣壓測定ノ要領ニ準シ指度ヲ看讀シテ標高又ハ比高ヲ求ムルモノトス但出發點ノ標高未知ナルトキハ之ヲ概定シ又ハ零米ト假定スルモノトス此際測定セシ標高ノ精度ニハ十米以上ノ誤差ヲ伴フコトアルニ注意スルヲ要ス

瓦斯防護教範草案附錄終

第表第一

外國軍ノ使用セル主要ナル瓦斯ノ種類及性狀一覽表

區分	名稱	形態 常溫	形態 戰場時	形態 現出場	色 常態	色 現出場	特臭	戰場持久性	比重 液體(常溫)	比重 氣體	沸點(攝氏度)	水トノ作用	金屬ニ對スル腐蝕作用 鐵	金屬ニ對スル腐蝕作用 鐵ノ以外金屬	症狀 症狀發生マデノ狀況	症狀 主ナル症狀	其他特別ナル性狀
窒息瓦斯	鹽素	氣體	氣體	帶黃綠色	帶黃綠色乃至白色	刺戟臭	一時性	1.4	2.5	-101	溶解	大(水分ノ存在スルトキ)	大(水分ノ存在スルトキ)	吸入直後ハ咽喉、氣管等ヲ烈シク刺戟シ吸入後二、三時間ヲ經テ肺症狀ヲ發生ス	咽喉、氣管等ヲ烈シク刺戟シ疼痛、咳嗽等ヲ起ス次テ肺水腫ノ爲呼吸困難トナリ酸素缺乏ニ因リ顏面蒼白重篤トナル	金屬ニ對スル腐蝕作用ハ水分ノ存在スルトキ、極メテ大ナリ 馬ニ對スル效力ハ人員ニ對スル效力ニ概ネ同シ
	「ホスゲン」	氣體	氣體	無色	無色乃至白色	腐敗林檎臭		1.4	3.5	-118	分解	大(水分ノ存在スルトキ)	稍大(水分ノ存在スルトキ)	吸入直後ハ殆ト何等ノ症狀ナク僅ニ煙草其他ノ味覺ヲ鈍ラシメ吸入後概ネ二、三時間ヲ經テ肺症狀ヲ發生ス	肺水腫ノ爲呼吸困難トナリ酸素缺乏ニ因リ顏面蒼白重篤トナル	鹽素ニ比シ肺水腫ヲ發生スル虞大ナリ 馬ニ對スル效力ハ人員ニ對スル效力ニ概ネ同シ
催涙瓦斯	臭化「ベンジル」	液體	氣體	無色乃至白色	黃褐色	芥子臭芳香性	一時性(俱樂部持久)	1.4	5.9	-3.9	耐水	大	大(但對鋼ハ小ニシテ)	瓦斯ヲ受クルヤ直ニ眼ニ刺戟症狀ヲ發生ス	眼ヲ烈シク刺戟シ流涙ヲ來シ一時的ニ大ナル視力障碍ヲ生シ殆ト失明狀態トナル 溫度大ナルトキハ鼻、咽喉等ヲモ刺戟ス	地上等ニ撒布スルトキハ若干時間氣化ヲ緩慢スルコトアリ 馬ニ對スル效力ハ極メテ小ナリ
	臭化「フェノン」	固體	氣體及液體	無色乃至白色	黃褐色	芳香性刺戟		1.3(固體)	5.3	59	耐水	大(水分ノ存在スルトキ)	對ナルシテモ鋼ニ小ニシテハ大ニ「アルミニウム」等ニ對シテハ小			粘膜及潤セル皮膚ニ疼痛ヲ感セシム 馬ニ對スル效力ハ極メテ小ナリ
「クシャミ」瓦斯	「ヴェ」化砒素「ニル」油	固體	液體及氣體	微粒子	褐色	蒜臭刺戟性	一時性	1.4(固體)	—	39	耐水	小	小	吸入直後ヨリ鼻、咽喉等ヲ刺戟シテ漸次其程度ヲ增大ス	鼻、咽喉及氣管等ヲ刺戟シ異樣ノ苦痛ヲ感スルト共ニ著シク鼻汁、唾液ノ分泌ヲ增加シ咳嗽、嘔吐、胸痛等ヲ發シ其吸入量大ナルトキハ肺ヲ侵ス	防毒面ノ透過性比較的大ニシテ「クシャミ」ハ濃度小ナル瓦斯ヲ吸入セルトキニモ多ク發シ濃度大ナルモノヲ吸入セルトキハ「クシャミ」ヲ發スルコトナク苦痛大ナリ 馬ニ對スル效力ハ極メテ小ナリ
	「ヴェ」化砒素「ニル」青	固體	微粒子	褐色	白色	蒜臭ヲ青臭キ		1.5(固體)	—	32	耐水	小	極メテ小			
糜爛瓦斯	「イペリット」	液體	液體及氣體	褐色	氣體ハ無色液體ハ無色乃至黑褐色	芥子臭	持久性	1.3	5.5	14	溶解及極メテ緩徐ニ分解	大	大	皮膚ハ瓦斯ヲ受ケタル後數時間乃至十數時間ヲ經テ發赤シ更ニ若干時間後ニ於テ水疱ヲ發生ス 眼ハ氣狀瓦斯ヲ受ケタル後三、四時間ヲ經テ又呼吸器ハ吸入後數時間乃至十數時間ノ經テ症狀ヲ發生ス	皮膚ハ發赤及腫脹ヲ來シ疼痛ヲ感シ次テ水疱ヲ生シ遂ニ潰瘍性膿瘡ヲ生起ス 呼吸器ハ上部氣道ノ炎症、肺ノ充血、出血等ヲ來シ續發性肺炎ヲ生ス 眼ハ急性結膜炎ヲ起シ流涙、疼痛大ニシテ失明狀態ニ等シク眼球ヲ冒スニ至レハ永續的ニ視力障碍ヲ起ス 瓦斯傷者ハ重キ貧血及烈シキ胃腸炎ヲ起スコトアリ	皮膚ニ附著スルモ刺戟ヲ與ヘサル爲鐵ヲサルコト多シ 凝固點高キ爲容易ニ凍結ス 馬ニ對スル效力ハ人員ニ對スル效力ニ概ネ同シ
	「ルイサイト」	液體	液體及氣體	淡黃褐色	液體ハ黑褐色乃至無色	刺戟性天竺葵臭		1.9	7.0	-31	分解	小	小	皮膚ハ瓦斯ノ附著後直ニ刺戟ヲ感シ汚斑部位ニ依リ烈シキ疼痛ヲ感ス 呼吸器ニ對スル症狀ノ發生ハ「イペリット」ト同樣ナルモ眼ニ對スル症狀ノ發生ハ「イペリット」ニ比シ遲ナリ	皮膚及眼ノ症狀ハ概ネ「イペリット」ニ同シキモ症狀ノ發生「イペリット」ニ比シ遲ナリ 呼吸器ノ症狀ハ概ネ「イペリット」ニ同シキモ更ニ肺水腫ヲ起シ易シ 瓦斯ノ吸收ニ因リ血液中毒ヲ起シ腎臟、肝臟等ヲ害スルコトアリ	工業品ハ極寒時ニ在リテモ凍結セス 「イペリット」ニ比シ戰場持久性小ナリ 馬ニ對スル效力ハ人員ニ對スル效力ニ概ネ同シ
中毒瓦斯	青酸	液體	氣體	無色	無色乃至無色淡白色	青臭キ臭	一時性	0.7	0.9	-13	溶解	小	小	濃度大ナルトキハ殆ト卽時ニ失神狀態トナリテ死亡ス	濃度小ナルトキハ頭痛、眩暈、惡心等ヲ起シ漸次增惡シ意識ノ障碍ヲ來シ濃度大ナルカ又ハ長時間吸入スルトキハ失神狀態トナリ痲痺ニ陷リテ死亡ス	常溫ニ在リテハ活性炭ニ吸收セラルルコト比較的小ナリ 空氣ヨリ輕ク速ニ發散ス 某濃度ニ達スルトキハ中毒症狀ハ急激ニ增大ス 馬ニ對スル效力ハ人員ニ對スル效力ニ概ネ同シ
	一酸化炭素	氣體	氣體	無色	無色	無		—	0.96	-207	耐水	無	殆ト作用セス	濃度小ナルトキハ症狀ノ發生緩徐ニシテ漸進的ナリ 濃度大ナルトキハ殆ト卽時ニ失神狀態トナル	濃度小ナルトキハ漸次頭痛、眩暈、惡心、嘔吐等ヲ起シ濃度大ナルカ又ハ長時間吸入スルトキハ呼吸中樞ノ痲痺ニ陷リテ死亡ス	活性炭ニハ殆ト吸收セラレス 空氣ヨリ輕ク速ニ發散ス 馬ニ對スル效力ハ人員ニ對スル效力ニ概ネ同シ

各種溶劑ノ持久瓦斯溶解能力表

溶劑	「イペリット」	「ルイサイト」
品質良好ナル揮發油 四鹽化炭素 「エーテル」 「アセトン」 亞麻仁油、菜種油、大豆油等植物性油 動物性油	溫度ニ關係ナク無制限ニ溶解ス	概ネ「イペリット」
「スピンドル」油 機械油 機軸油 時計油	溶解度ハ植物性油及動物性油ヨリ若干劣ル	
品質良好ナラサル揮發油 品質良好ナル「アルコール」	攝氏約一〇〇度以上ニ在リテハ無制限ニ溶解ス 攝氏約一〇〇度以下ニ在リテハ逐次溫度ノ低下ニ伴ヒ溶解度ヲ減少ス 攝氏〇度ニ在リテハ溶劑一立中ニ約〇・三立ノ割合ヲ以テ溶解シ得	

石油	攝氏約二〇度以上ニ在リテハ概ネ無制限ニ溶解ス 攝氏約二〇度以下ニ在リテハ逐次溶解度ノ低下ニ伴ヒ攝氏〇度ニ在リテハ溶劑一立中ニ約〇・二立ノ割合ニ減少スヲ以テ溶解シ得	品質良好ナラサルモ概ネ石油ニ準スル若干溶解度ヲ減少ス 「アルコール」（約一〇%ノ水ヲ混ス）水分ノ增加ニ伴ヒ溶解度ヲ減少ス
備考	石炭酸水溶液「フオルマリン」「グリセリン」ハ殆ト持久瓦斯ヲ溶解セス	

朕軍隊內務書ヲ改定シ之ヲ施行ヲ命ス

御名御璽

昭和九年九月二十七日

陸軍大臣　林　銑十郎

軍令陸第九號

軍隊內務書

七

內務

軍隊内務書 目次

綱領……一頁
第一章 總則……四
第二章 服從……六
第三章 敬稱及稱呼……七
第四章 聯隊長ノ職務……八
第五章 大隊長ノ職務……八
第六章 中隊長ノ職務……八
第七章 聯隊本部諸官ノ職務……一〇
第八章 大隊本部諸官ノ職務……一四
第九章 中隊附諸官ノ職務……一四
第十章 命令下達……一七
第十一章 兵營及室内裝置……一九
第十二章 委員……二一
第十三章 工場及倉庫……二三
第十四章 週番勤務……二四
第十五章 火災豫防、消防及非常呼集……二六
第十六章 風紀衛兵……三九
第十七章 營倉……四四
第十八章 當番勤務……四五
第十九章 檢査……四八
第二十章 起居及容儀……四七
第二十一章 休日及外出……五〇
第二十二章 衞生……五四
第二十三章 馬匹ノ衞生……五八
第二十四章 厩……六〇
第二十五章 炊事場及浴場……六〇
第二十六章 命課布達式及告別……六二
第二十七章 入隊兵取扱……六三
第二十八章 除隊兵取扱……六五
第二十九章 酒保……六六
第三十章 將校集會所及准士官下士官集會所……六八
第三十一章 郵便物及電報取扱……六九
第三十二章 報告……七一
第三十三章 文書及帳簿……七一
第三十四章 雜則……七三

附則……七四
附表第一其一 中隊日報
附表第一其二 大隊本部日報
附表第一其三 聯隊本部日報
附表第二 風紀衞兵報告
附表第三其一 聯、大、中隊備付帳簿
附表第三其二 週番(日直)勤務用帳簿
附表第三其三 風紀衞兵所備付帳簿
附表第三其四 醫務室備付帳簿
附表第三其五 獸醫事務室備付簿帳

軍隊內務書 目次終

軍隊內務書

綱領

軍ノ本義

一 軍ハ天皇親率ノ下ニ皇基ヲ恢弘シ國威ヲ宣揚スルヲ本義トス

軍隊統率ノ本旨

二 軍隊統率ノ本旨ハ將兵ノ心ヲ一誠ニ歸シ一致團結以テ軍ノ本義ニ邁進セシムルニ在リ

兵營生活ノ目的

三 兵營ハ苦樂ヲ共ニシ死生ヲ同ウスル軍人ノ家庭ニシテ兵營生活ノ要ハ起居ノ間軍人精神ヲ涵養シ軍紀ニ慣熟セシメ鞏固ナル團結ヲ完成スルニ在リ

軍人精神

四 軍人精神ハ戰勝ノ最大要素ニシテ其ノ消長ハ國運ノ隆替ニ關ス而シテ名節ヲ尙ヒ廉恥ヲ重ンスルハ我武人ノ世〻砥礪セシ所ニシテ職分ノ存スル所身命ヲ君國ニ獻ゲテ水火尙辭セサルモノ實ニ軍人精神ノ精華ナリ是ヲ以テ上官ハ部下ヲシテ常ニ軍人ニ賜リタル勅諭勅語ヲ奉體シ我國體ノ萬國ニ冠絕セル所以ト國軍建設ノ本旨トヲ銘肝シ且兵役ノ國家ニ對スル崇高ナル實務及名譽タルコトヲ深ク自覺セシメ苟モ思案ノ選ヲ誤ルカ如キコトナカラシムヘシ而シテ精神敎育ハ唯精神ヲ以テ敎育スルヲ得ヘク百ノ言辭ハ一ノ模範ニ如カス上官先ツ至誠ヲ以テ之ニ臨ミ身ヲ以テ部下ヲ感化スルコトヲ期スヘシ

軍紀

五 軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ故ニ軍隊ハ常ニ軍紀ヲ振作スルヲ要ス時ト所トヲ論セス上下齊シク法規ヲ恪守シ熱誠以テ軍務ニ努力シ命令必ス行ハル是ヲ軍紀振作ノ實證ト爲ス

服從六—一〇

服從ハ軍紀ヲ維持スルノ要道タリ故ニ至誠上官ニ服從シ其ノ命令ハ絶對ニ之ヲ勵行シ習性ト成ルニ至ラシムルヲ要ス而シテ服從ハ高潔ナル犧牲的精神ヨリ出テ彈丸雨注ノ間尚克ク身命ヲ君國ニ獻ケ一意上官ノ指揮ニ從フニ至ルヘキモノニシテ其ノ之ヲ致ス所以ノ道ハ上官先ツ自ラ法則ヲ恪守シ命令ヲ遵奉シ以テ服從ノ範ヲ垂ルルニ在リ

軍人ノ志氣

六　軍人ノ志氣ハ旺盛ナラサルヘカラス志氣旺盛ナレハ進テ難局ニ當リ喜テ其ノ責ニ任スルニ至ルモノトス是ニ於テカ軍紀自ラ振肅シ服務自ラ活氣ヲ呈ス上官ハ常ニ部下ノ志氣ヲ振興シ勇往邁進斃レテ後已ムノ氣槩ヲ充溢セシムヘシ

將校ノ責務

七　將校ハ軍隊ノ楨幹ナリ故ニ堅確ナル軍人精神ヲ涵養シ高邁ナル德性ヲ陶冶シ識見技能ヲ向上シ體力氣力ヲ充實シ率先垂範以テ儀表タラサルヘカラス就中隊長ハ一隊團結ノ樞軸ニシテ部下統率ノ全責任ヲ有ス宜シク軍隊統率ノ本旨ニ則リ特ニ抱負ト信念トヲ堅持シ部下ヲシテ積極敢爲服務ニ精進セシメ以テ上下相敬愛シ左右相親和シ軍紀嚴正ニシテ團結鞏固ナル軍隊ヲ練成スヘシ

責任觀念ノ尊重

八　職務ノ存スル所責任自ラ之ニ伴フ各官宜シク其ノ職責ノ存スル所ニ鑑ミ全力ヲ傾注シテ之カ遂行ニ勉ムヘシ關係諸官相互ノ連繫亦固ヨリ忽ニスヘカラスト雖苟モ他人ニ倚頼シ若ハ事毎ニ上官ノ指示ヲ仰キテ責任ヲ免ルルヲ許サス又上官タル者ハ常ニ意ヲ部下ノ指導ニ致シ剴切ナル監督ヲ行フト共ニ嚴ニ其ノ職責ヲ尊重シ其ノ手腕ヲ發揮セシムルヲ要ス

上官ノ心掛

九　上官ハ居常修養ニ勉メ研鑽ヲ累ネ公私ノ別ヲ明ニシテ公明事ニ從ヒ法規ヲ嚴守スルノ間尚部下ヲ遇スルニ骨肉ノ情ヲ以テシ部下ヲシテ上官ハ眞ニ己ノ擁護者タルノ念ヲ懷カシムヘシ斯ノ如クシテ上下相倚リ意思疏通シ部下ノ信賴期セスシテ一身ニ集リ死生ノ間尚克ク部下景仰ノ中心タルヲ得ルモノトス

下士官心掛

下士官ハ特ニ兵ト起居ヲ共ニスルモノナルヲ以テ其ノ擧止言動ノ之ヲ感化スルコト特ニ深甚ナルモノアルヲ思ヒ己レ先ツ法則ヲ遵守シテ服從ノ道ヲ守リ行狀ヲ慎ミ態度服裝ヲ正シ懇切公平ヲ旨トシ躬行以テ之カ善導ニ勉ムヘシ

壯丁指導要領

壯丁ノ始メテ兵營ニ入ルヤ生活狀態ノ急變ニ依リ其ノ心性ニ影響スル甚シキモノアリ故ニ上官ハ懇切ニ之ヲ指導シ漸ヲ以テ營內ノ生活ニ慣熟セシメ終ニ自ラ規律アル生活ヲ樂ミ一擧一動苟モ放肆安逸ニ陷ルカ如キコトナキニ至ラシムヘシ

兵ノ心得

十　兵ハ一意專心上官ノ教訓ニ遵ヒ思想正順ニシテ克ク其ノ本分ヲ自覺シ命令規則ヲ嚴守シ演習、勤務ニ勉勵シ常ニ筋骨ヲ鍛錬シ百折不撓ノ心ヲ養ヒ以テ軍人ノ本領ヲ完ウスヘシ

兵營生活ノ效果

十一　兵營生活ハ軍隊成立ノ要義ト戰時ノ要求トニ基キタル特殊ノ境遇ナリト雖社會ノ道義ト個人ノ操守トニ至リテハ軍隊ニ在ルカ爲ニ其ノ趣舍ヲ異ニスルコトナシ故ニ在營間ノ教養ハ啻ニ全服役間ヲ通シテ軍人ノ本分ヲ完ウスルニ緊要ナル基礎タルノミナラス亦以テ國民道德ヲ涵養シ終世ノ用ヲ爲スヘ

キ習性ヲ賦與スルニ至ルヘキモノニシテ兵ハ鄙鄉ノ後ト雖永ク此ニ由リテ各自ノ業務ヲ勵ミ忠良ナル國民ト爲リテ自ラ克ク鄉黨ヲ薫染シ以テ國民ノ風尙ヲ昂上セシムルヲ得ヘシ

帝國軍隊ノ本領

十二 各級ノ幹部及兵克ク前記ノ趣旨ヲ體シテ各〻其ノ分ヲ盡サハ兵營ハ一大家庭ヲ成シ融々和樂ノ間其ノ團結ヲ鞏固ニシ上下相愛シ緩急相救ヒ有事ノ日欣然トシテ起チ勇奮死ニ赴クヲ樂ムニ至ルヘシ是レ實ニ軍ノ本義ヲ顯彰スル所以ノ道ナリ

第一章 總則

內務省適用ノ範圍

第一 本書ハ陸軍軍隊ニ於ケル各官ノ職責及內務ニ關スル事項ヲ規定ス官衙、學校等ニ在リテモ亦之ヲ準用スルモノトス

軍隊內務ノ實施ニ當リテハ勉メテ其ノ他ノ教育訓練ト連繫ヲ密接ナラシムルト共ニ戰時ノ要求ニ適應セシムルヲ必要トス

同

第二 服從、敬稱及稱呼ハ軍隊ニ屬セサル軍人ト雖本書ノ規定ヲ守リ其ノ他ハ本書ノ精神ヲ準用スルモノトス

適用長官

第三 本書中別ニ定ムルモノノ外左記上段ノモノニ關スル規定ハ下段ノモノニ之ヲ適用ス

一 聯隊(聯隊長) 獨立隊(獨立隊長)
戰車聯隊材料廠、同練習部(戰車聯隊材料廠長、同練習部長)
習部長)
鐵道聯隊材料廠(鐵道聯隊材料廠長)

二 大隊(大隊長)

電信聯隊材料廠(電信聯隊材料廠長)
飛行聯隊材料廠(飛行聯隊材料廠長)
氣球隊材料廠、同練習部(氣球隊材料廠長、同練習部長)
機關銃隊(機關銃隊長)
裝甲自動車隊(裝甲自動車隊長)
高射砲隊(高射砲隊長)
照空隊(照空隊長)
整備隊(整備隊長)
固定無線隊(固定無線隊長)
下士官候補者隊(下士官候補者隊長)

三 中隊(中隊長)

聯隊內ニ在ル大(中)隊長ノ職務中獨立隊長ニ適應スルモノハ之ニ依ルモノトス

包含諸官

第四 本書中士官候補生ト稱スルハ軍醫候補生、見習士官ト稱スルハ見習主計、見習醫官、見習藥劑官及見習獸醫官、少尉候補者ト稱スルハ三等主計候補者、三等看護官候補者及三等獸醫候補者又上等兵ト稱スルハ上等兵勤務一等看護兵ト稱スルハ上等看護兵勤務一等看護兵ヲ含ム但シ特ニ明文アルモノハ此ノ限ニアラス

規定ノ設定

第五 本書ニ規定スルモノノ外特ニ明文アルモノヲ除キ妄ニ規定ヲ設クルヲ許サス

但シ編制、衞戍地、季候其ノ他特殊ノ關係上本書ノ規定ヲ適用シ難キトキハ師團長若ハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ本書ノ規定ニ準シテ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二章 服從

綱領ニノ要則

第六 部下タル者ノ上官ニ服從スルハ如何ナル場合ヲ問ハス必ス嚴重ナルヘシ

部下ニ非サル受令者ノ命令者ニ對スル場合モ亦之ニ同シ

準則

第七 隷屬ノ關係ヲ有セサル上級先任者ト下級新任者トノ間ニ於テモ各〻其ノ職務ニ妨ナキ限リ服從ノ道ヲ守ルヘシ

命令ニ對スル心得

第八 命令ハ謹テ之ヲ守リ直ニ之ヲ行フヘシ決シテ其ノ當不當ヲ論シ其ノ原因理由等ヲ質問スルヲ許サス又受令者ハ通常命令ノ實行ニ關シ適時所要ノ報告ヲ爲スヘキモノトス

新ニ受クル命令ト以前ノ命令ト齟齬スルトキハ徐ニ其ノ趣ヲ申述ヘ指示ヲ請クヘシ

意見上申

第九 軍隊ヲ裨益スルニ足ルト信スル所ハ上官ヲ輔佐スルノ至情ヲ以テ進テ之ヲ上官ニ開陳スルハ各級ノ軍人特ニ幹部ノ責務トス然レトモ其ノ開陳ニ當リテハ秩序ヲ紊ルカ如キコトアルヘカラス又一度上官ノ決定シタル事項ニ對シテハ假令意見ヲ異ニスルトキト雖常ニ己ヲ虛クシテ專心上官ノ意圖ヲ達スルコトヲ勉ムヘシ

決定事項ニ服從

第十 自己ニ對スル他人ノ取扱不條理ト考フルトキハ徐ニ順序ヲ經テ之ヲ事

申

但關係者ノ直上所屬隊長ニ上申スルハ妨ナシ但シ兵ニ在リテハ要スレハ直接特務曹長ニ上申スルコトヲ得又上申ハ二人以上共同シ若ハ勤務中ニ於テ之ヲ爲スコトヲ許サス

第三章 敬稱及稱呼

敬稱

第十一 下タル者上タル者ニ對シテハ直接ト間接トヲ問ハス左ノ敬稱ヲ用フヘシ

天皇	太皇太后	皇太后	皇后ニハ	陛下
皇太子	皇太子妃	皇太孫	皇太孫妃	親王 親王妃
內親王	王 王妃	女王	王世子 王世子妃	公及公妃ニハ 殿下
將官	將官相當官ニハ			閣下
上長官以下ニハ				殿

但シ己ニ隷屬セラレタル皇族、王族、公族ニ對シテハ勤務上ニ限リ又上級先任者ニ對シ其ノ人ヨリ下級新任者ヲ稱呼スルトキハ敬稱ヲ省クコトヲ得

公文書ノ敬稱稱呼

第十二 公文書ノ宛名ニハ總テ殿ノ敬稱ヲ用フヘシ但シ皇族、王族、公族ニ對シテハ前條ノ敬稱ヲ用フルモノトス

第十三 下級者又ハ新任者ヲ稱呼スルニハ直接ト間接トヲ論セス其ノ氏ト官(職)名トヲ用ヒ官職ナキ者ニ對シテハ氏ト等級若ハ氏ノミヲ稱呼スヘシ但シ場合ニ依リ單ニ官、職、等級、特業又ハ勤務上ノ稱呼ノミヲ用フルモ妨ナシ

責任 大一人中二
部下指導 大二中三五

職權 大二〇中三五

責任 聯二四中一八
中隊指導 聯二七中二四

職權 聯一人中三五

第四章 聯隊長ノ職務

第十四 聯隊長ハ聯隊ヲ統率シ軍紀ヲ振作シ風紀ヲ肅正シ部下教育訓練ノ責ニ任ス

第十五 聯隊長ハ聯隊團結ノ中心トナリ特ニ部下就中將校、同相當官ヲ扶掖薫陶シ軍人精神ヲ砥礪シ同心協力以テ聯隊ノ團結ヲ鞏固ナラシムルコトヲ勉ムヘシ

第十六 聯隊長ハ法規ノ定ムル所ニ從ヒテ賞罰及休暇付與ノ權ヲ有シ又人事、動員、兵器、經理、人馬ノ保育衛生、內務等聯隊諸般ノ業務ヲ統理ス

第十七 聯隊長ハ常ニ世相ノ趨向ニ留意シ地方ノ狀況ヲ知悉スルト共ニ國民ヲシテ軍隊ノ實情ヲ理解セシメ以テ軍隊教育ト國民教育トノ連繫ニ勉ムルヲ要ス

第五章 大隊長ノ職務

第十八 大隊長ハ大隊ヲ統率シ軍紀ヲ振作シ風紀ヲ肅正シ部下教育訓練ノ責ニ任ス

第十九 大隊長ハ特ニ中隊ノ教育及內務ヲ指導監督シテ聯隊長ノ意圖ヲ徹底セシムルコトヲ勉ムヘシ

第二十 大隊長ハ法規ノ定ムル所ニ從ヒテ賞罰及休暇付與ノ權ヲ有シ又法規ノ定ムル所ニ從ヒ若ハ聯隊長ノ命ヲ承ケ人事、兵器、經理、人馬ノ保育衛生、內務等大隊諸般ノ業務ヲ監督處理ス

第六章 中隊長ノ職務

責任 聯二四大一八
部下指導 聯一五大一九

職權 聯一六大二〇

幹部指導
下士官候補補充
部下ノ訓育

書籍類所

第二十一 中隊長ハ中隊ヲ統率シ軍紀ヲ振作シ風紀ヲ肅正シ部下教育訓練ノ責ニ任ス

第二十二 中隊長ハ中隊志氣結合ノ核心トナリ特ニ部下ヲシテ軍人ニ賜リタル勅諭勅語ヲ銘肝セシメ且諸種ノ手段ヲ盡シテ軍人精神ヲ涵養シ克ク其ノ本分ヲ理解セシメ以テ鞏固ナル團結ヲ完成スルコトヲ勉ムヘシ

第二十三 中隊長ハ法規ノ定ムル所ニ從ヒ若ハ上官ノ命ヲ承ケ人事、兵器、經理、人馬ノ保育衛生、內務等中隊諸般ノ業務ヲ處理ス

第二十四 中隊長ハ部下幹部ニ統御及教育訓練ノ要領ヲ會得セシメ其ノ威嚴ヲ保タシムルコトニ注意シ又善良ナル下士官候補者ヲ得ルコトヲ勉ムヘシ

第二十五 中隊長ハ部下ノ個性ヲ審ニシ其ノ長ヲ伸ヘ短ヲ訓ヘテ修養ヲ完カラシムルニ勉メ殊ニ賞罰ノ行使ニ注意シ且處罰者ニ對シテハ其ノ犯行ノ動機ヲ究明シテ爾後ノ教化ニ遺漏ナキヲ期スヘシ之カ爲ニハ部下ノ家庭其ノ他個人ノ實情ヲ明ニスルコト緊要ニシテ要スレハ兵ノ父兄、地方官公吏、在鄉軍人會、青年訓練所、青年團、學校等ト連繫スヘシ

第二十六 中隊長ハ內務ノ實施ヲ確實且容易ナラシムル爲兵舍、厩、砲廠、車廠等ノ構造ヲ顧慮シテ若干ノ內務班ヲ設ケ之ニ下士官〔曹長及分課下士官ヲ除ク〕兵、馬匹、火砲、車輛等ヲ分屬スヘシ

內務班ノ區分

第二十七 中隊長ハ聯隊長ノ定ムル範圍ニ於テ下士官、兵ニ書籍、雜誌、新

持品許可

聯一四一六 閲ノ閲讀其ノ他物品ノ所持ヲ許可スルコトヲ得

第七章 聯隊本部諸官ノ職務

責任 大本四一 **第二十八** 聯隊本部諸官ハ聯隊長ノ命ヲ承ケ各分擔ノ職務ニ從事シ聯隊長ニ對シ其ノ責ニ任ス

聯隊副官 大副四四 **第二十九** 聯隊副官ハ聯隊本部ノ事務整理及取締ニ任ス

聯隊副官ハ輕易ノ事項ニシテ恒例アルモノハ自ラ之ヲ處理シ便宜聯隊長ニ報告スルモノトス

聯隊副官ハ聯隊本部書記及喇叭長ニ業務ノ分擔ヲ命シ又聯隊本部附下士官ニ對シテハ特ニ規定アルモノノ外中隊長ノ職務中部下下士官ニ對スル規定ヲ準用ス

命令五三一六六 報告三九二一二九七 文書二九八一三四四

聯隊副官日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一 命令、諸達、通報、報告其ノ他文書ノ起案、發送、受領及傳達ヲ掌ル

二 聯隊歴史ヲ起草ス

三 聯隊本部圖書文書ノ保管ヲ掌ル

四 圖書類ノ受領、分配並印刷ニ關スル業務ヲ掌ル

五 公務運賃割引證、下士官兵旅客運賃割引證及乘船證ヲ發行ス

六 印章ヲ保管シ公用證、外出證、營外居住證、門鑑、郵便切手及葉書ノ保管出納ヲ掌ル

聯隊長ハ聯隊本部附尉官ヲシテ本條ニ規定スル業務ノ一部ヲ分擔セシムルコトヲ得

旗手

書記 大本書四三

第三十 旗手ハ軍旗ヲ捧持シ之ヲ守護スルヲ任トシ傍ラ聯隊副官ノ業務ヲ補助ス

第三十一 聯隊本部書記ハ聯隊副官ノ命ヲ承ケ各、分擔ノ業務ニ服ス但シ聯隊副官及聯隊本部ノ將校不在ノ場合ニ於テ委任外ノ事件生シタルトキハ週番司令ノ指示ヲ請クヘシ

聯隊本部書記日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一 文書ノ發送、受領其ノ他一般ノ庶務ニ服ス

二 定例ニ依ル諸記錄ノ記入及報告、通報等ノ調製並書類ノ淨寫校正ヲ行フ

三 聯隊本部圖書文書〔機、祕密圖書文書ヲ除ク〕ノ整理保管並訂正加除ヲ行フ

四 聯隊本部ノ營繕ニ關スル事務ニ服シ又練習用具、陣營具、同雜品、事務用消耗品其ノ他備付諸物品ノ監守ニ任ス

五 聯隊本部當番ノ勤惰ヲ監督シ火元取締ニ注意ス

六 臨時延燈ヲ許可セラレタル者アルトキハ本部週番下士官ニ通報ス

佐、尉官

第三十二 聯隊本部附佐尉官ハ動員、教育、兵器、經理其ノ他諸般ノ業務ヲ分擔ス

主計

第三十三 主計ハ會計經理ノ業務ニ任ス

高級主計ハ其ノ他ノ主計ノ業務ヲ監督シ經理部准士官及下士官ノ人事並見習主計、三等主計候補者、經理部幹部候補生及經理部准士官以下ノ教育ヲ掌ル

但シ教育ノ一部ヲ其ノ他ノ主計ニ分擔セシムルコトヲ得

計手　計手ハ主計ノ命ヲ承ケ計算記簿及會計經理ニ關スル事務ニ服ス

軍醫　第三十四　軍醫〔軍醫正ノ屬スル部隊ニ在リテハ軍醫正ヲ含ム以下同シ〕ハ衞生業務及擔架術教育ニ任ス

高級軍醫ハ其ノ他ノ軍醫〔大隊本部附軍醫ヲ含ム以下同シ〕ノ業務ヲ監督シ看護長ノ人事並見習醫官、軍醫候補生、衞生部幹部候補生及看護長以下ノ教育ヲ掌リ其ノ他醫務室ニ於ケル諸般ノ業務ヲ處理ス但シ教育及醫務室ニ於ケル業務ノ一部ヲ其他ノ軍醫ニ分擔セシムルコトヲ得

看護長　看護長ハ軍醫ノ命ヲ承ケ患者ノ看護及器具、器械其ノ他備付諸物品ノ監守ニ任シ治療調劑ヲ補助シ火元取締ニ注意シ衞生及營繕ニ關スル事務ニ服ス

獸醫　第三十五　獸醫〔獸醫正ノ屬スル部隊ニ在リテハ獸醫正ヲ含ム以下同シ〕ハ馬匹ノ衞生業務及蹄鐵工兵、同修業者ノ教育ニ任シ食獸ヲ檢査ス

高級獸醫ハ其ノ他ノ獸醫ノ業務ヲ監督シ蹄鐵工長ノ人事並見習獸醫官、三等獸醫候補者、獸醫部幹部候補生及蹄鐵工長ノ教育ヲ掌リ裝蹄業務ヲ監督シ其ノ他獸醫事務至ニ於ケル諸般ノ業務ヲ處理ス但シ教育、裝蹄業務ノ監督及獸醫事務室ニ於ケル業務ノ一部ヲ其ノ他ノ獸醫ニ分擔セシムルコトヲ得

蹄鐵工長　蹄鐵工長ハ獸醫〔獸醫ノ屬セサル部隊ニ在リテハ主任將校〕ノ命ヲ承ケ裝蹄ニ關スル業務、作業品及器具、器械其ノ他備付諸物品ノ監守、工場、病馬厩、隔離厩ノ取締並病馬ノ看護ニ任シ治療調劑ヲ補助シ蹄鐵工兵、同修業者ノ教育ニ從事シ又自ラ作業ヲ行ヒ火元取締ニ注意シ消火後ハ火氣ノ消滅ヲ確メ且

馬匹衞生及營繕ニ關スル事務ニ服ス

喇叭長　第三十六　喇叭長ハ主任將校ノ命ヲ承ケ喇叭手、同修業者ノ教育ニ從事シ傳ラ聯隊副官ノ命ヲ承ケ本部ノ事務ヲ補助ス

縫靴工長　第三十七　縫、靴工長ハ經理委員ノ命ヲ承ケ縫、靴工ノ作業ニ關スル業務、其ノ作業品及器具、器械其ノ他備付諸物品ノ監守並工場ノ取締ニ任シ工務兵、同修業者ノ教育ニ從事シ又自ラ作業ヲ行ヒ且被服經理及營繕ニ關スル事務ニ服ス

炊事掛下士官　第三十八　炊事掛下士官ハ經理委員ノ命ヲ承ケ食物ノ調理、浴場ニ關スル業務ニ從事スルノ外炊事專務兵ノ教育ニ從事シ且糧秣經理及營繕ニ關スル事務ニ服ス

砲工兵諸工長　第三十九　砲、工兵諸工長ハ兵器委員又ハ主任將校ノ命ヲ承ケ武器、彈藥器材、器具、材料、兵器用物品等ノ出納及其ノ作業ニ關スル業務、工場ノ取締並作業品及器具、器械其ノ他備付諸物品ノ監守ニ任シ工務兵、同修業者ノ教育ニ從事シ又自ラ作業ヲ行ヒ且所要ニ應シ主任將校ノ命ヲ承ケ工手、機關員、鐵道聯隊通信手及其ノ修業者ノ教育ヲ分擔シ以上各種ノ業務及營繕ニ關スル事務ニ服ス

器械掛、材料掛、輸送掛　器械掛、材料掛各下士官ノ職務ハ概ネ前項ニ同シ但シ工場及教育ニ關スル事項ヲ除ク

第四十　電信聯隊ノ輸送掛下士官ハ主任將校ノ命ヲ承ケ主トシテ輸送ニ關スル業務ニ從事ス

責任 聯本二八 大隊副官 聯副二九 書記 聯書三二 軍醫 聯本二八—四〇 責任 中隊附將校 中長二—二七 兵委八〇 經委八〇委員 會報三七 特務曹長

第四十一 大隊本部諸官ハ大隊長ノ命ヲ承ケ各、分擔ノ職務ニ從事シ大隊長ニ對シ其ノ責ニ任ス

第四十二 大隊副官ハ大隊本部ノ事務整理及取締ニ任ス

大隊副官ノ業務ハ聯隊副官ノ爲規定シタルモノニ準ス

第四十三 大隊本部書記ハ大隊副官ノ命ヲ承ケ各、分擔ノ業務ニ服ス

大隊本部書記ノ業務ハ聯隊本部書記ノ爲規定シタルモノニ準ス

第四十四 軍醫ハ大隊ノ衛生業務ニ任ス

第四十五 前各條ニ規定セル以外ノ者ノ職務ハ聯隊本部諸官ノ爲規定シタルモノニ準ス

第九章 中隊附諸官ノ職務

第四十六 中隊附諸官ハ中隊長ノ命ヲ承ケ各、分擔ノ職務ニ從事シ中隊長ニ對シ其ノ責ニ任ス

第四十七 中隊附將校ハ中隊長ヲ輔翼シテ教育訓練ニ任シ特ニ中隊長ノ意圖ヲ奉シテ特務曹長以下ノ業務ヲ指導監督シ中隊ノ團結ヲ鞏固ナラシムルコトヲ勉メ其ノ他中隊諸般ノ業務ヲ分擔シ又特務曹長以下ノ人事、賞罰及休暇等ニ關スル意見ヲ上申ス

兵器、練習用具、陣營具及被服等ニ關スル業務ヲ分擔スル將校ハ中隊長ノ旨ヲ奉シテ關係委員ト連繫シ主任下士官ヲ指導シテ其ノ整理ニ任ス

第四十八 特務曹長ノ內一名ハ中隊附下士官ノ業務ヲ指導シ兵ノ身分ヲ參謀

厩 週番ノ二一ノ五 週番下一〇七ノ三、一〇 週番下一〇七ノ五 週士一〇四ノ七 會報六〇 命令三三—六〇 委員八一 曹長

シ下士官以下相互ノ親和及上下意思ノ疎通ヲ圖リ且諸規定及內務ニ關スル中隊長ノ命令意圖ノ實施ヲ監督スルヲ主要ナル任トシ其ノ他教育及人馬ニ關スル事務ニ服シ又下士官以下ノ人事、賞罰及休暇等ニ關スル意見ヲ上申シ尙所要ニ應シ中隊附將校ニ準シ教育訓練ニ任シ中隊諸般ノ業務ヲ分擔シ又特務曹長以下ノ人事、賞罰及休暇等ニ關スル意見ヲ上申ス

一 兵ノ身元調査ヲ爲シ父兄其ノ他外部トノ連繫ニ勉メ又兵ノ性質、技能身心ノ狀態、交友關係及通信等個人ノ實情ヲ審ニシ其ノ行狀、勤惰及諸規定ノ實施ヲ監督ス

二 馬匹ノ性質、能力ヲ審ニシ其ノ保育ニ注意シ週番下士官ヲシテ裝蹄ノ手續ヲ爲サシム

三 教育ノ關係ヲ顧慮シ下士官、兵及馬匹ノ勤務割ヲ爲ス

四 教育、人事、賞罰、休暇及馬匹ニ關スル事務ニ服ス

五 公用證及外出證ノ保管出納ヲ掌リ退營ノ際之ヲ週番士官ニ依託ス

前項以外ノ特務曹長ハ中隊附將校ニ準シ教育訓練ニ任シ中隊諸般ノ業務ヲ分擔シ又下士官以下ノ人事、賞罰及休暇等ニ關スル意見ヲ上申ス

第四十九 曹長ノ內一名ハ命令ノ受領、傳達及經理事務〔兵器掛下士官ノ分擔スルモノヲ除ク〕ニ服シ尙所要ニ應シ教育訓練ニ從事ス其ノ日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一 會報ニ出席シ命令、通報等ヲ受領シ之ヲ傳達ス

二 金錢給與及營繕ニ關スル事務ニ服ス

三 被服、同雜品、同消耗品ノ監守並糧秣ニ關スル事務〔食需(給飼)傳票

郵便二八八
「二九一
報告二九二
—二九七
文書二九八
—三〇四

ノ發行ヲ除ク)ニ服ス

四 練習用具、演習材料、陣營具、同雜品、事務用及演習用消耗品其ノ他內務班ニ屬セサル備付諸物品ノ監守ニ任ス

但シ練習用具及演習材料ノ一部若ハ全部ハ中隊長之ヲ兵器掛下士官ヲシテ監守セシムルコトヲ得

五 圖書文書ノ整理保管竝訂正加除ヲ行フ

六 定例ニ依ル諸記錄ノ記入及報告、通報等ノ調製其ノ他一般ノ庶務ニ服ス

前項以外ノ曹長ハ教育訓練ニ從事シ又所要ニ應シ前項業務ノ一部ヲ分擔ス

兵器掛下士官ハ武器、彈藥、器材、器具、材料、兵器用物品及射擊ニ關スル事務ニ服ス

兵器掛下士官委員八〇

第五十一 內務班長ハ兵ヲ愛護シ相互ノ親和ヲ圖リ諸規定及上官ノ命令意圖ヲ班員ニ傳達普及セシメ且中隊長ノ旨ヲ奉シ自ラ儀表ト爲リ班員ヲ誘掖指導シテ確實ニ內務ヲ實施セシムルヲ任トス又兵ノ身元、性質、行狀、技能、身心ノ狀態、交友關係及通信等個人ノ實情ヲ熟知シ其ノ勤惰ヲ監督シ人事、賞罰及休暇等ニ關スル事項ヲ上申ス

內務班長

內務班長日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一 點呼ノ際ハ週番士官臨場ノ下ニ班ノ人員竝其ノ狀況ヲ檢査ス又通常此ノ前後ニ於テ命令ヲ傳達ス

命令天週番一〇四ノ三

二 兵器、被服其ノ他給與品ノ支給、修理、交換及返納ニ關スル手續ヲ爲シ其ノ保存手入ヲ監督ス

週番下一〇七ノ三

三 火砲、車輛等ノ手入及馬匹ノ飼方手入ヲ指導監視ス

四 班員ノ服裝ニ注意シ常ニ正シク著裝セシム

五 衛生ニ注意シ患者ヲ生シタルトキハ通常日朝點呼ノ際、病馬ヲ生シタルトキハ通常朝手入後週番下士官ニ通報ス

火災二一〇

六 兵舍、厩、砲廠、車廠其ノ他班ニ屬スル場所ノ清潔整頓ヲ監視シ備付裝飾ニ關シ特務曹長ニ意見ヲ具申ス

班附下士官

七 諸物品ノ監守ニ任ス

八 班內ノ火元取締ニ注意ス

要則

第五十二 內務班附下士官ハ班長ヲ輔佐ス

第十章 命令下達

聯隊長ノ責任下達法

第五十三 命令ノ下達ハ迅速確實ニシテ遺漏過誤ナク其ノ趣旨ヲ貫徹セシムルヲ本旨トス是レ統率ノ要義ニシテ平時之ヲ能クスルモノニシテ初メテ戰時匆々ノ際尙其ノ完キヲ期シ得ヘシ故ニ各隊長ハ特ニ意ヲ用ヒ之カ普及徹底ヲ圖ルト共ニ軍隊ヲシテ此ノ良習ヲ增進セシムルニ勉メサルヘカラス

第五十四 軍隊ニ關係アル法令竝關係長官及其ノ他ヨリ受ケタル命令、訓示、講評、達、通報、注意等ヲ隊內ニ普及セシムルハ聯隊長ノ責任トス

第五十五 命令(前條記載ノ總テヲ含ム以下同シ)中簡單ニシテ輕易ナルモノハ之ヲ口達シ否サルモノハ筆記セシメ又ハ筆記シタルモノヲ交付ス而シテ隊長若ハ業務主任者自ラ傳達スルモノノ外第五十六ニ定ムル主任者之カ傳達ノ

傳達責任者　聯隊副二九大副四三曹長五四長五四班長

責任ヲ有ス

命令ヲ受ケタル者ハ通常復唱スルモノトス

第五十六　命令傳達ノ主任者ハ聯、大隊本部ニ在リテハ當該副官、中隊ニ在リテハ曹長及内務班長トス此等ノ諸官不在若ハ差支アルトキノ代理ハ各隊長適宜之ヲ定ム但シ特ニ代理ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

會報參列者

第五十七　命令ノ傳達及隊内ニ於ケル通報報告ハ聯隊長ノ定ムル會報時〔至急ヲ要スルモノハ其ノ都度〕ニ行フヲ例トシ前條ノ主任者〔内務班長ヲ除ク〕及會報事項ニ直接關係アル諸官之ニ參列ス

委員會報

聯隊長必要ト認ムルトキハ前項ノ外所要ノ將校ヲ集メテ自ラ會報ヲ行フ委員及其ノ他ノ者ニシテ其ノ主管事項ニ關シ中隊ノ主任將校、同下士官等ヲ集メ特ニ會報ヲ行フノ必要アルトキハ豫メ聯隊長ノ承認ヲ請クヘシ此ノ場合ニ在リテハ聯隊副官及大隊副官ノ立會ヒヲ求メ若ハ傳達事項ノ要旨ヲ同官ニ通報スルモノトス

隊外命令

第五十八　聯隊外ヨリ受ケタル命令ハ索引ニ便ナラシムル爲要スレハ其ノ種類、番號、月日、官報ノ番號等ヲ併セ傳達スルモノトス

命令傳達法

第五十九　將校、同相當官、准士官、下士官〔伍長勤務上等兵ヲ含ム〕ニ命令ヲ傳達スルニハ命令錄ニ就キ各自ヲシテ閲讀セシムルヲ通常トス

兵ニ命令ヲ傳達スルハ内務班長ノ責任ニシテ要旨ヲ摘ミ注意ヲ加ヘテ口達スルモノトス

第六十　聯隊長ハ命令傳達ノ迅速ト確實トヲ期スル爲必要ト認ムルトキハ兵

中隊箇所

營ノ關係上醫務室、獸醫事務室、委員事務室等ニシテ本部ト離隔セル場所ニ限リ命令ノ下達ヲ概ネ中隊ノ規定ニ準セシムルコトヲ得

第十一章　兵營及室内裝置

建物ノ區分

第六十一　兵營内ノ建物ハ通常本部、兵舍、厩、砲廠、格納庫、車廠、彈藥庫、醫務室、獸醫事務室、工場、風紀衛兵所、營倉、面會所、酒保、集會所、倉庫、炊事場、浴場等ニ區分シ之ニ洗面洗濯所、理髮所、物干場、厠等ヲ附屬ス

本部ノ區分

第六十二　本部ハ通常之ヲ聯、大隊長室、聯、大隊本部事務室、委員事務室、傳令室、兵室、豫備室、物置等ニ區分ス

兵舍ノ區分

第六十三　兵舍ハ中隊毎ニ區分シ通常之ヲ中隊長室、事務室、將校室、下士官室、兵室、豫備室、物置等ニ區分ス

中隊事務室

第六十四　中隊事務室ハ特務曹長〔少尉候補者ヲ除ク〕、曹長〔少尉候補者ヲ除ク〕、分課下士官及週番下士官等ノ事務ヲ取扱フ所トス

中隊將校室

第六十五　中隊將校室ハ中隊附將校、見習士官及少尉候補者ノ詰所ニシテ通常週番士官室ヲ兼ヌルモノトス

下士官室

第六十六　中隊下士官室ハ成ルヘク事務室ト居室トニ分ツヘシ事務室ハ下士官〔少尉候補者、曹長及分課下士官ヲ除ク〕及伍長勤務上等兵ノ事務ヲ取扱フ所トシ居室ハ下士官ノ起居スル所ニシテ中隊長ノ許可スル物品ヲ備ヘ又ハ裝飾ヲ施スコトヲ得

中隊長ハ兵指導上必要ト認ムルトキハ下士官ヲシテ適宜兵室ニ起居セシムル

醫務室　コトヲ得

第六十七　醫務室ハ通常軍醫室、事務室、診斷室、治療室、藥室、休養室、隔離室等ニ區分ス

醫務室衞戍病院若ハ同分院ト隣接セル場合ニハ藥室ヲ置カス當該衞戍病院若ハ同分院ニ於テ調劑スルコトヲ得

第六十八　獸醫事務室ハ通常獸醫室、事務室、診療所、藥室等ニ區分シ蹄鐵工場、病馬厩及隔離厩(數隊共用ト爲スコトヲ得)ヲ附屬ス

獸醫事務室

歩兵聯隊、重砲兵聯(大)隊、工兵大隊及鐵道聯隊ニシテ乘馬部隊ト衞戍地ヲ異ニスルトキハ蹄鐵工場ヲ設クルモノトス

第六十九　見習士官、士官候補生ニハ別室ヲ與ヘ曹長及服役六年以上ノ下士官若ハ聯隊長ノ規定セル下士官ニハ各自一室ヲ使用セシムルコトヲ得又甲種幹部候補生、短期現役兵ハ成ルヘク別室ニ集メ且所要ニ應シ內務班ヲ設クルコトヲ得

見習士官、士官候補生、曹長、下士、幹部候補生、短期現役兵

第七十　聯隊長ハ兵營ノ關係之ヲ許セハ將校、同相當官ニ營內居住ヲ許可スルコトヲ得

將校營內居住

第七十一　聯隊長ハ營內ニ樹木花卉ヲ植ヱ銃架等ヲ設ケ遊戲場又ハ菜園ヲ設クルコトヲ得

樹木花卉

第七十二　土地及建造物ノ保存ニ關スル規定ハ聯隊長之ヲ定ムヘシ

土地建物

第七十三　建物及各室ニハ標札ヲ掲ケ寢臺、手箱、銃架等ニハ氏名札ヲ貼附スヘシ

標札、名札

第七十四　各室、厩、砲廠、格納庫、車廠、彈藥庫、倉庫、物置、工場等ニハ備付物品目、員數表ヲ掲示又ハ備付クヘシ

品目、員數

第七十五　下士官以下ヲシテ各自ニ保管セシムル兵器、被服等ノ員數及裝置下士官以下保管品

第七十六　機、祕密圖書文書ノ容器ニハ各異ノ鑰ヲ用ヒ其ノ他ニ在リテモ勉メテ各異ノ鑰ヲ附シ合鍵(アヒカギ)ヲ以テ開閉シ得サル如ク注意スヘシ

機祕密圖書

第七十七　建物ノ構造上本章ノ規定ヲ適用シ難キモノハ聯隊長ニ於テ適宜本章ノ規定ニ斟酌ヲ加フルコトヲ得

第十二章　委員

委員ノ區分

第七十八　聯隊ニ左ノ委員ヲ置ク

兵器委員	首座佐官(大尉)	委員士官若干名
經理委員	首座佐官(大尉)	委員士官若干名主計ハ全員トス
酒保委員	首座佐官(大尉)	委員士官若干名
將校集會所委員	首座佐官(大尉)	委員士官若干名
准士官下士官集會所委員	首座准士官	委員准士官下士官若干名
共有金保管委員	首座佐官(大尉)ノ經理委員首座之ヲ兼メ	委員主計一名
文庫委員	首座佐官(大尉)	委員士官一名

以上各委員ニハ助手トシテ准士官、下士官若干名ヲ附スルコトヲ得又委員ニ

ハ要スレハ上長官、准士官ヲ、助手ニハ上等兵ヲ充ツルコトヲ得

准士官下士官集會所ニハ委員ノ外特ニ監督將校一名ヲ置ク

委員首座

第七十九 委員首座ハ當該隊長ノ意圖ヲ奉シ委員以下ヲ指揮シ擔任業務ヲ適切整正ナラシムルノ責ニ任ス

委員以下ノ業務ハ聯隊長ノ認可ヲ請ケ委員首座之ヲ規定スヘシ

兵器委員

第八十 兵器委員ハ兵器及兵器費ノ支辨ニ屬スル物品ノ檢査、保管出納、經理〔調辨雜務ヲ除ク〕、並工場ノ監視ニ任シ兵器業務ニ任スル諸工長ノ教育ヲ掌リ工務兵、同修業者ノ教育ヲ監督ス

又材料廠ヲ有スル部隊ニ在リテハ聯隊長ハ前項業務ノ一部若ハ大部ヲ材料廠ニ屬スル將校ニ分擔セシムルモノトス

聯隊長ハ必要ニ應シ兵器委員ヲシテ練習用具及演習費ノ支辨ニ屬スル物品ニ係ル業務ヲ掌ラシムルコトヲ得

經理委員

第八十一 經理委員ハ諸給與ノ計畫及實施、被服、糧秣、陣營具、練習用具、消耗品其ノ他諸物品ノ調辨、檢査、保管出納〔他ノ委員ノ擔任スル檢査、保管出納ヲ除ク〕、金櫃、營繕、炊事、給飼及工場ノ監視、裝蹄馴毛ニ關スル經理ニ任シ炊事下士官及縫、靴工長ノ教育ヲ掌リ縫、靴工兵、同修業者及炊事專務兵ノ教育ヲ監督ス

酒保委員

第八十二 酒保委員ハ酒保ニ係ル業務ニ任ス但シ金錢〔賣上當日ノモノヲ除ク〕、有價證券ノ保管出納ニ係ル業務ヲ除ク

物品ノ調辨ハ首座ノ購入命令若ハ其ノ契約ニ依リ取扱フモノトス

將校集會所委員

第八十三 將校集會所委員ハ當該集會所ニ係ル業務ニ任ス但シ金錢、有價證券ノ保管出納ニ係ル業務ヲ除ク

准士官下士官集會所委員

第八十四 准士官下士官集會所委員ハ監督將校ノ指導ノ下ニ當該集會所ニ係ル業務ニ任ス但シ金錢、有價證券ノ保管出納ニ係ル業務ヲ除ク

監督將校ハ聯隊長ノ意圖ヲ奉シ准士官下士官集會所ノ業務ヲ監督ス

共有金保管委員

第八十五 共有金保管委員ハ酒保、將校集會所及准士官下士官集會所ニ屬スル金錢〔酒保ニ於ケル賣上當日ノモノヲ除ク〕、有價證券ノ保管出納ニ任シ其ノ出納命令ハ聯隊長之ヲ發スヘシ但シ日常ノ出納ニ係ル命令ハ之ヲ委員首座ニ委任スルコトヲ得

文庫委員

第八十六 文庫委員ハ文庫圖書ノ整備保管ニ任ス

委員代理

第八十七 委員首座ハ所屬委員若ハ助手中事故者アルトキハ他ノ委員若ハ助手ヲシテ之ヲ代理セシムルコトヲ得

第十三章 工場及倉庫

工場管理者

第八十八 工場及倉庫ハ關係主任者之ヲ管理ス

主任者ハ一般ノ取締ニ任シ作業用材料及備付諸物品ノ監守ヲ監督ス又聯隊長ノ認可ヲ請ケ當該工場及倉庫ニ關係アル諸官以下ノ業務ヲ規定ス

勤務人員日時

第八十九 工場及倉庫ニ在リテ勤務スヘキ人員及其ノ勤務日時ハ別ニ定ムル所ノ外聯隊長之ヲ規定スヘシ

劇毒藥

第九十 劇毒藥ハ鑰アル容器ニ收容シ其ノ鍵ハ關係主任者ノ定ムル者之ヲ保管シ退營ノ際風紀衛兵司令ニ預ケ工場及倉庫ノ鍵ハ閉鎖後工長若ハ關係下士

官之ヲ風紀衛兵司令ニ預ケ置クヘシ又工長若ハ關係下士官ハ火元取締ニ注意シ閉鎖ノ際火氣ノ消滅ヲ確ムヘシ

工場内禁制

第九十一 工場内ニ於テハ私ニ他人ノ依頼ヲ受ケ諸物品ヲ製作又ハ修理スルコトヲ許サス又火藥、火具、輕油及爆發若ハ發火シ易キ藥品等ヲ取扱フ場所ニハ何人ト雖「マッチ」其ノ他發火ノ誘因トナル虞アルモノヲ携フヘカラス

規定

第九十二 工場及倉庫内ノ規定ハ聯隊長ノ認可ヲ請ケ關係主任者之ヲ定ムヘシ

第十四章 週番勤務

一般ノ任務

第九十三 週番諸官ハ所屬週番勤務者ヲ指揮シテ軍紀風紀ノ維持諸法則ノ實施如何ヲ警視シ以テ營内ノ取締ニ任シ且營内〔當該部隊ニ屬スル兵營附近ノ建造物及諸物件ヲ含ム〕ニ於ケル火災、盜難ノ豫防及消防ノ責ニ任ス

代理

週番士官ハ特ニ中隊長ノ旨ヲ奉シ中隊内務ノ監督指導ニ任スルモノトス

火災

週番諸官ハ主任者不在ノトキハ庶務ノ受理ニ任シ恒例外ノ事項ニシテ急ヲ要スルモノアルトキハ勤務上ノ直上上官ノ指示ヲ請クルモノトス

週番勤務ノ區分

第九十四 週番勤務者ヲ分チテ週番司令、週番副官、週番士官、週番下士官、週番上等兵、既週番上等兵トス

勤務ノ重複

日直看護長〔日直看護兵〕、週番看護兵、不寢番、既當番モ亦週番勤務者ニ準ス

週番勤務者任命官

週番勤務者ハ特ニ規定アルモノノ外二種ノ週番勤務ニ服スルコトヲ得ス

第九十五 週番司令〔週番司令ヲ設ケサル部隊ノ週番士官ヲ含ム以下同シ〕、週番副官ハ聯隊長、聯、大隊本部週番下士官ハ當該副官、日直看護長〔日直看護兵〕及週番看護兵ハ高級軍醫、徒步部隊ニ於ケル既週番上等兵及同當番〔歩兵聯隊機關銃隊ノ既週番上等兵及同當番ヲ除ク〕ハ聯隊長ノ指定スル將校、其ノ他ノ週番勤務者ハ中隊長之ヲ命ス

週番勤務期間

週番勤務ハ通常土曜日正午ニ始リ翌週土曜日正午ニ終ルモノトス

時宜ニ依リ聯隊長ハ週番勤務ヲ日直勤務ト爲スコトヲ得

勤務演習ノ免除

第九十六 週番司令、週番副官、中隊週番下士官、週番上等兵〔徒步部隊ニ在リテハ一名〕既週番上等兵ハ通常勤務、演習ヲ免シ主トシ週番ノ勤務ニ服セシメ週番士官ニハ日常ノ勤務、演習ヲモ行ハシムルヲ例トス但シ週番士官ニ在リテハ週番勤務上必要ト認ムルトキハ中隊長ニ於テ之ヲ免スルモノトス

宿泊ト定位

第九十七 週番諸官ハ總テ營内ニ宿直シ定位ニ在ルヲ本則トス若シ定位ヲ離ルルトキハ其ノ所在又ハ經路ヲ明ニシ置クヘシ

營外ニ出ツル規定

週番勤務者公務ノ爲營外ニ出ツルトキハ週番司令ハ聯隊長ノ、其ノ他ノ者ハ週番勤務上ノ直上上官ノ許可ヲ請クヘシ此ノ場合ニ於テ代理ヲ要スルトキハ外出ヲ許可シタル者之ヲ週番勤務ヲ命シタル上官ニ請求スルモノトス但シ週番士官ニ在リテハ勤務演習ノ爲營外ニ出テントスルトキハ週番司令ニ屆出テ且不在間ニ於ケル週番勤務上所要ノ處置ヲ講スルモノトス

週番勤務者私用ノ爲營外ニ出ツルトキハ週番勤務ヲ命シタル上官ノ許可ヲ請ケ新ニ命セラレタル代理者ト共ニ勤務上ノ直上上官ニ屆告スヘシ

交代報告

第九十八 週番勤務者交代ヲ終レハ上番者ハ週番勤務ヲ命シタル上官及勤務上ノ直上上官ニ報告スヘシ

司令ノ資格

第九十九　週番司令ハ中隊數二以上ノ部隊ニ之ヲ置キ大尉〔聯隊副官ヲ除キ上級職及同職務心得ノ中尉ヲ含ム〕一名之ニ服シ週番司令室ヲ定位トス

週番司令

聯隊長ハ前項ノ勤務ニ服セシムヘキ人員三名以下ナルトキハ四名ニ滿ツル迄先任中尉ヲ以テ週番司令ノ勤務ニ服セシムルコトヲ得

火一三九風一三九—一四九

週番司令ハ週番勤務ヲ統轄シ風紀衛兵、營倉及消防隊ヲ管轄ス

營倉一五〇—一五九

第百　週番司令ハ週番勤務ヲ統轄シ風紀衛兵、營倉及消防隊ヲ管轄ス

酒保一七九—一八九

週番司令ハ緊急ヲ要スル事項ニシテ聯隊長ノ指示ヲ請クル暇ナキトキハ自ラ之ヲ處斷シ聯隊長ニ報告スヘシ

週一〇二ノ二、三

週番司令ヲ設ケサル部隊ニ在リテハ週番士官ハ週番司令ノ勤務ヲ兼ヌルモノトス

週一〇二ノ一

週番司令日常ノ業務概ネ左ノ如シ

風一四六ノ三

一　自ラ營内ヲ巡察シ又風紀衛兵及週番諸官ニ巡察ヲ命ス

週一〇二ノ一

二　諸衛兵及衛戍傳令等ニ服スル人馬ノ數及其ノ軍裝ヲ檢査シ必要ノ訓示ヲ與フ

三　休日ニ於テ營内居住者多數外出シタルトキ要スレハ週番士官及週番副官ニ營外巡察ヲ命ス

週一〇七ノ四

四　取締上必要ト認ムルトキハ臨時點呼ヲ行フ

一〇四ノ二、三

五　氣候ノ關係上要スレハ營内居住者及風紀衛兵ノ服裝ヲ臨時規定ス

風一四六ノ六

六　營内ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得但シ中隊内部ノ參觀ハ先ツ當該中隊長〔不在ノトキハ在營上級先任者〕ノ承認ヲ請クルヲ要ス

聯副二九ノ五

七　聯隊副官退營後公務運賃割引證、下士官兵旅客運賃割引證、乘船證ヲ請求スル者アルトキハ自ラ發行擔任官ト爲リ之ヲ交付ス

聯副二九ノ六

八　聯、大隊副官不在ノトキハ必要ニ應シテ公用證、外出證ヲ交付ス

風紀一四六ノ一四

九　火災、非常其ノ他必要アルトキハ風紀衛兵ノ人員及哨所ノ數ヲ增加ス

火災一三六ノ二

十　犯罪、盜難、物品ノ紛失及拾得等ニ關シ要スレハ憲兵隊、警察署等ト連絡ス

週副一〇七ノ五

十一　營内出火、近火等ノトキ要スレハ火災ノ號音ヲ吹奏セシム

十二　毎月第一回上番ノ週番司令ハ消防演習ヲ行フ

副官ノ資格

第百一　週番副官ハ中隊數二以上ノ部隊ニ之ヲ置キ曹長〔聯隊本部書記及材料廠本部附ヲ除ク〕一名之ニ服シ週番副官室ヲ定位トス

聯隊長ハ前項ノ勤務ニ服セシムヘキ人員三名以下ナルトキハ四名ニ滿ツル迄聯隊本部書記タル曹長及材料廠本部附タル曹長ヲ以テ週番副官ノ勤務ニ服セシムルコトヲ得

週番副官

週司一〇〇ノ二週下一〇七ノ七

第百二　週番副官ハ週番司令ノ指揮ヲ承ケ同官ヲ輔佐シテ細務ニ從事ス

週司一〇〇ノ一

週番副官日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一　上番衛兵集合セハ之ヲ指揮シテ週番司令ノ檢査ヲ受ケシム此ノ際衛兵司令週番副官ヨリ上級先任ナルトキハ列外ニ在ルモノトス

二　風紀衛兵所及哨所ヲ巡察シ其ノ勤務ヲ監督ス

三　聯、大隊本部、醫務室、獸醫事務室、炊事場、工場、彈藥庫、倉庫、營倉、面會所、酒保、集會所、馬繫場、廐〔步兵聯隊及乘馬部隊ヲ除ク〕等中隊ニ屬セ

週下一〇七ノ二、一四六ノ三

サル場所ヲ巡察ス

四　時々聯、大隊本部、醫務室、獸醫事務室、炊事場、營倉、酒保、集會所、厩（步兵聯隊及乘馬部隊ヲ除ク）等中隊ニ屬セサル場所ノ日朝、日夕點呼ニ立會ヒ又臨時點呼ノ際ハ此等全部ノ人員檢査ニ立會ヒ其ノ結果ヲ週番司令ニ報告ス

五　消防具ヲ監守ス

六　營倉入ノ者（營倉留置者ヲ含ム）ノ出入ヲ承知シ風紀衛兵司令ヲシテ其ノ受渡ヲ爲サシメ週番司令ニ報告ス

週下一〇七ノ七

七　風紀衛兵ヨリ提出スル物品持出證ヲ發行者ニ返却ス

週下一〇七ノ二

八　臨時延燈許可ノ通報ヲ受クレハ風紀衛兵司令ニ通報シ週番司令ニ報告ス

週番士官ノ設置ト資格

第百三　週番士官ハ中隊毎ニ中隊附中、少尉（士官勤務ニ服スル見習士官及少尉候補者ヲ含ム）及特務曹長（上級職ノ曹長ヲ含ム以下同シ）ヲ通シテ一名之ニ服シ將校室（少尉候補者以外ノ特務曹長服務スルトキハ中隊事務室）ヲ以テ定位トス

聯隊長ハ前項ノ勤務ニ服セシムヘキ人員三名（本勤務要員ヲ禁闕守衛ノ衛兵又ハ衛戍衛兵ニ派遣スル部隊ニ在リテハ勤務ノ狀況ニヨリ四名）以下ナルトキハ勤務ノ狀況ヲ顧慮シ第百十七ヲ準用シテ週番勤務ヲ律スルコトヲ得

第百四　週番士官ハ週番司令ノ指揮ヲ承ケ且中隊長ノ指示ニ基キ週番下士官以下ヲ指揮シテ其ノ職務ヲ執行ス

週一〇七ノ一

週番士官日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一　人馬ノ員數及狀況ヲ承知シ患者、病馬アルトキハ受診ノ手續ヲ爲サシム若シ軍醫、獸醫退營後受診ヲ必要ト認ムルトキハ當直軍醫又ハ當直獸醫ニ通報シ且週番司令ニ報告ス

衛生三三三

週司一〇〇ノ一

二　兵舍、厩、砲廠、格納庫、車廠等ヲ巡察シ又週番下士官以下ニ巡察ヲ命ス

週下一〇七ノ一

夜間ハ特ニ火災豫防ニ注意シ夜間勤務ニ服スル者ノ勤惰ヲ監視ス

週下一〇七ノ四

三　點呼ノ際ハ週番下士官ヲ隨ヘ中隊ノ人員ヲ檢査シ其ノ結果ヲ週番司令ニ報告ス

週司一〇〇ノ四

四　必要ト認ムルトキハ中隊ノ臨時點呼ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ直ニ週番司令ニ報告ス

五　脫營者、歸營遲刻者其ノ他犯行者アリタルトキハ臨機ノ處置ヲ爲シ速ニ中隊長及週番司令ニ報告ス

六　物品ノ盜難、紛失及拾得等アリタルトキハ臨機ノ處置ヲ爲シ週番司令ニ報告ス但シ輕微ノ事項ハ報告スルニ及ハス

七　特務曹長不在ノトキハ公用證、外出證ヲ保管シ必要ニ應シ之ヲ交付ス以上ノ外勉メテ下士官以下ニ親炙シ起居ノ間中隊內務ノ向上ヲ圖ルモノトス

特務ノ三

週番下士官設置定位

第百五　週番下士官ハ聯、大隊本部ニ在リテハ各本部毎ニ本部附下士官（炊事掛下士官、衛生部及獸醫部下士官ヲ除ク）ヲ通シテ一名、中隊ニ在リテハ軍曹、伍長（伍長勤務上等兵ヲ含ム）ヲ通シテ一名之ニ服シ通常所屬ノ本部事

聯、大隊本部週番下士官	務室〔書記以外ノ者ニ在リテハ其ノ所屬事務室ニ在リテ服務スルコトヲ得〕若ハ中隊事務室ヲ定位トス 聯隊長ハ各本部ノ位置近接シアル場合及週番下士官ノ勤務ニ服スル本部ノ人員三名以下ナルトキハ二箇以上ノ本部ヲ通シテ一名ノ週番下士官ヲ置キ尙三名以下ナルトキハ日直勤務ト爲スコトヲ得 **第百六** 聯、大隊本部週番下士官ハ週番司令ノ指揮ヲ承ケ且聯、大隊副官ノ指示ニ基キ其ノ職務ヲ執行ス 聯、大隊本部週番下士官日常ノ業務ハ中隊週番下士官ノ爲規定シタルモノニ準ス但シ點呼ノ際ハ各室ノ上級先任者ヨリ檢査ノ結果ヲ承知シ之ヲ週番司令ニ報告ス又臨時點呼ノ際ハ週番副官ノ立會ヒヲ受クルモノトス
中隊週番下士官	**第百七** 中隊週番下士官ハ週番士官ノ指揮ヲ承ケ其ノ職務ヲ執行ス 中隊週番下士官日常ノ業務概ネ左ノ如シ
週一〇四ノ一 週二〇〇ノ一 厩二一ノ一	一 人馬ノ員數及狀況ヲ承知シ兵舍、厩、砲廠、格納庫、車廠等ヲ巡察ス 二 夜間ハ特ニ火災豫防ニ注意シ消燈後ハ必ス火氣ノ消滅ヲ確メ不寢番及厩當番〔歩兵聯隊及乘馬部隊ニ限ル〕ノ勤務ヲ監督ス 三 患者アルトキハ自ラ之ヲ率キテ診斷ヲ受ケシメ患者名簿ニ所要ノ記入ヲ爲シ軍醫ノ認印ヲ受ケ又病馬アルトキハ病馬名簿ニ其ノ馬名ヲ記入シ厩週番上等兵ヲシテ受診ノ手續ヲ爲サシメ共ニ其ノ結果ヲ中隊長、週番士官、特務曹長、曹長及內務班長ニ報告又ハ通報ス 入(退)院、入(退)厩人馬アルトキハ週番上等兵又ハ厩週番上等兵等ヲシテ其ノ處置ヲ爲サシム
班長五一ノ五 衛生二六 馬衛生二五 一	

週一〇四ノ五 厩二一ノ二 特四八ノ五 週一〇四ノ七	四 點呼ノ際ハ週番士官ニ隨行ス 時々厩ノ日朝、日夕點呼ニ立會フ 五 公用證、外出證ノ必要アルトキハ特務曹長〔不在ノトキハ週番士官〕ヨリ受領シ公用證ニ在リテハ本人ニ、外出證ニ在リテハ內務班長ニ之ヲ交付ス
週一〇〇ノ二 週一〇二ノ一	六 日々演習ニ出場スル人馬數ヲ調査シ演習開始前中隊長、關係將校及特務曹長ニ報告ス 七 上番衛兵ノ軍裝ヲ檢査シ之ヲ集合所ニ引率ス但シ衛兵司令週番下士官ヨリ上級先任ナルトキハ同官ハ直ニ集合所ニ至ルモノトス又週番下士官ノ服裝ハ上番衛兵ニ同シ唯背嚢、外套ヲ負ハサルヲ異ナリトス
外出一〇〇	八 炊事準備ノ爲週番士官ノ認印ヲ得タル食需傳票ヲ適時炊事掛下士官ニ送付ス 外出スル下士官以下ニシテ兵營ニ歸リ食事セサル人員、辨當ヲ要スル人員及不食料ノ支給ヲ受クヘキ者ノ官等級氏名ヲ調査シ不食料ニ在リテハ曹長ニ其ノ他ハ炊事掛下士官ニ通報ス 九 週番士官ノ認印ヲ得タル給飼傳票ヲ經理委員ニ送付シ馬糧ヲ受領シ厩週番上等兵ヲシテ之ヲ分配セシム
特務曹長 四八ノ二	十 特務曹長ヨリ裝蹄手續ヲ命セラレタルトキハ裝蹄請求簿ニ所要ノ記入ヲナシ厩週番上等兵ヲシテ裝蹄ヲ受ケシメ其ノ結果ヲ中隊長、週番士官

週副一〇三ノ八
週士一〇四ノ三、六
週副一〇三ノ六
風紀一四六ノ三
風紀一四六ノ六
特務四八ノ一

及特務曹長ニ報告ス

十一　臨時延燈ヲ許可セラレタルトキハ週番士官ノ閲ヲ經テ週番副官ニ通報ス

十二　脱營者、歸營遲刻者其ノ他ノ犯行者アリタルトキ及物品ノ盜難、紛失、拾得等アリタルトキハ週番士官ニ報告ス

十三　營内居住者多數外出シタルトキハ歸營時限ニ於テ異狀ノ有無ヲ週番士官ニ報告ス

十四　營倉入ノ者アルトキハ週番副官ニ通報シ其ノ服裝及所持品等ヲ檢査シタル上罰目、日數、隊號、等級、氏名ヲ記シタル覺紙ト共ニ風紀衛兵司令ニ引渡シ又營倉ヨリ出ツル者アルトキハ之ヲ同司令ヨリ受領ス

十五　面會人アルコトヲ風紀衛兵ヨリ通知シ來ルトキハ下士官以上ニ在リテハ直接本人ニ、兵ニ在リテハ通常特務曹長〔不在ナルトキハ週番士官〕ニ報告シ所要ノ指示ヲ承ケ速ニ本人ニ傳達シ若シ本人不在ナルトキハ其ノ行先及豫定ノ歸營時刻ヲ風紀衛兵ニ通報ス

週番上等兵ノ人選

十六　甲種幹部候補生、短期現役兵、下士官候補者、特業者、同修業者、工務兵、同修業者等ニシテ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ出場シ能ハサル者アルトキハ之ヲ教官又ハ主任工長等ニ通報ス

十七　前各號ノ外週番勤務上必要ナル事項ハ其ノ都度週番士官ニ報告ス

第百八　週番上等兵ハ中隊ノ上等兵〔伍長勤務上等兵ヲ除ク〕二名〔步兵聯隊機關銃隊、裝甲自動車隊、乘馬部隊、固定無線隊及飛行中隊ニ在リテハ一名〕

週番上等兵

第百九　週番上等兵ハ週番下士官ノ指揮ヲ承ケ火災、盜難ノ豫防、兵舍内外ノ清潔其ノ他ノ細務ニ從事ス

週下一〇七ノ一、二
週下一〇七ノ八
炊二四七—二三〇

週番上等兵ハ週番士官ノ指揮ヲ承ケ火災、盜難ノ豫防、兵舍内外ノ清潔其ノ他ノ細務ニ從事ス

一　兵舍ノ内外ヲ巡察シテ諸物品ノ保存、整頓、掃除ノ良否及火災、盜難ノ豫防ニ注意シ日夕點呼後ハ特ニ各室ヲ巡察シ火鉢、煖爐等ノ消火ヲ點檢シ週番下士官ノ檢査ヲ受ク

二　食事分配ノトキハ豫メ食事數ヲ週番下士官ヨリ承知シ定時所要ノ當番ヲ率キテ食事ヲ受領シ之ヲ各班ニ分配シ食事終レハ食器ヲ集メテ炊事掛下士官ニ返納ス

三　毎日當番ヲ集メテ内務班ニ屬セサル區域ヲ掃除セシメ以テ兵舍内外ノ清潔ヲ保チ又掃除器具ノ保存ニ任ス

四　營倉入ノ者ニ食事、寢具等ヲ差入ルルトキハ檢査ノ上風紀衛兵衛舍掛ニ引渡シ用濟後ハ之ヲ衛舍掛ヨリ受領ス

五　入(退)院及入(退)室患者アルトキハ軍醫及週番下士官ノ指示ヲ承ケ所要ノ處置ヲ爲ス

風紀一四七ノ三
週下一〇七ノ三
衛生二一七

厩週番設置

第百十　厩週番上等兵ハ步兵聯隊機關銃隊及乘馬部隊ノ各中隊毎ニ上等兵〔伍長勤務上等兵ヲ除ク〕一名之ニ服シ厩ヲ定位トス

徒步部隊〔步兵聯隊ヲ除ク〕ニ在リテハ前項ニ準シ聯隊ニ厩週番上等兵ヲ置クコトヲ得

厩週番上等兵 週下一〇七 一ノ

第百十一 厩週番上等兵ハ週番下士官ノ指揮ヲ承ケ厩ノ取締ニ任ス

厩週番上等兵日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一 厩ノ内外ヲ巡察シ厩當番ノ勤務ヲ監視シ中隊共用ノ物品ヲ監守シ火災豫防、馬匹ノ狀態、窓戸ノ開閉、寢藁等ニ注意シ診斷又ハ裝蹄ヲ要スル馬匹アルトキハ内務班長ニ通報ス

週下一〇七 ノ四

二 日朝、日夕點呼ノ際ハ厩當番ノ人員ヲ檢査シ異狀ノ有無ヲ週番下士官ニ報告ス

臨時點呼ノ際ハ週番士官臨場ノ下ニ人員ヲ檢査ス

週下一〇七 ノ九

三 週番下士官ヨリ馬糧ヲ受領シ毎飼之ヲ各馬又ハ内務班ニ分配シ又水與ノ準備ヲ爲ス

週下一〇七 ノ三

四 病馬名簿ヲ週番下士官ヨリ受取リ定時限ニ於テ病馬ノ診療ヲ受ケシメ馬厩、隔離厩ニ入リ若ハ之ヨリ出ツルモノアルトキハ獸醫及週番下士官ノ指示ヲ承ケ所要ノ處置ヲ爲ス

特務四八ノ 週下一〇七 ノ一〇

五 裝蹄請求簿ヲ週番下士官ヨリ受取リ所要ノ當番ヲ指揮シテ裝蹄ヲ受ケシメ蹄鐵工長ヨリ裝蹄請求簿ニ所要ノ記入ヲ受ケ週番下士官ニ差出ス

徒歩部隊〔歩兵聯隊ヲ除ク〕ノ厩週番上等兵ハ週番副官ノ指揮ヲ承ク其ノ勤務ハ本條ニ準ス

日直看護長(兵) **第百十二** 日直看護長(日直看護兵)ハ各部隊〔獨立中隊ヲ除ク〕毎ニ看護長、上等看護兵ヲ通シテ一名之ニ服シ醫務室ノ事務室ヲ定位トス

日直看護長(兵)ノ勤務 **第百十三** 日直看護長(日直看護兵)ハ週番司令ノ指揮ヲ承ケ且高級軍醫及當直軍醫ノ指示ニ基キ一般任務ノ外隊内ノ衛生ニ注意ス

一 醫務室内外ヲ巡視シ要スレハ週番看護兵ニ巡察ヲ命ス

二 夜間ハ特ニ火災豫防ニ注意シ消燈後ハ必ス火氣ノ消滅ヲ確ム

三 炊事場、浴場、酒保、厠等ヲ巡察シ衛生上諸規定ノ服行ニ注意シ其ノ狀況ヲ週番司令及軍醫ニ報告ス

四 諸官退營後ハ入室患者ノ看護及患者ノ救急處置ヲ行ヒ急病又ハ重症患者アルトキハ當直軍醫來診マテ應急ノ處置ヲ爲ス

五 日朝、日夕點呼ノ際ハ人員ヲ檢査シ其ノ結果ヲ週番司令ニ報告ス臨時點呼ノ際ハ週番副官ノ立會ヒヲ待テ人員ヲ檢査ス

六 規定以外ノ時期ニ休養室、診斷室等ニ暖室ノ處置ヲ爲シタルトキ及臨時延燈ヲ許可セラレタルトキハ週番副官ニ通報ス

七 藥室ノ鍵ヲ保管シ掃除器具ヲ監守ス

衛生三六

週副一〇二 ノ三

週副一〇二 ハ

不寢番 週下一〇七 ノ二

第百十四 不寢番ハ通常日夕點呼後ヨリ翌朝起床時限迄中隊〔要スレハ本部〕毎ニ之ヲ設ケ週番下士官ノ指揮ヲ承ケ主トシテ火災、盜難ノ豫防及衛生ニ注意スルヲ任トス其ノ實施ニ關シテハ聯隊長之ヲ規定スヘシ

聯隊長ハ前項ノ外上等看護兵一名ヲ週番看護兵ト爲シ日直看護長(日直看護兵)ノ指揮ヲ承ケ其ノ勤務ヲ補助セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ前項ノ勤務ニ服スヘキ者ト本項ノ勤務ニ服スヘキ者トノ區分ハ聯隊長之ヲ定ム

廠當番

第百十五 廠當番ハ通常歩兵聯隊機關銃隊及乗馬部隊ノ各中隊毎ニ之ヲ設ケ廠週番上等兵ノ指揮ヲ承ケ馬匹ノ保護、廠内外ノ清潔及火災、盜難ノ豫防ニ任ス其ノ實施ニ關シテハ聯隊長之ヲ規定スヘシ

徒歩部隊〔歩兵聯隊機關銃隊ヲ除ク〕ニ在リテハ前項ニ準シ廠當番ヲ置クコトヲ得

第百十六 聯隊長ハ必要ニ應シ本章ノ規定ニ準シテ材料廠、工場等ニ週番又ハ日直勤務者ヲ置クコトヲ得

第百十七 聯隊長ハ編制其ノ他ノ關係ニヨリ本章ノ規定ニ據リ難キ場合ニ在リテハ本章ノ規定ニ準シテ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得但シ此ノ場合通常師團長若ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請クルモノトス

日直勤務ニ付テハ特ニ規定スルモノノ外週番勤務ノ規定ヲ準用ス

第十五章 火災豫防、消防及非常呼集

要旨

第百十八 火災豫防ハ多クハ懈怠過失ヨリ生スルモノナルヲ以テ上下一致全幅ノ注意ヲ以テ其ノ危害ヲ未然ニ豫防セサルヘカラス

火災豫防責任者

第百十九 火災豫防ハ週番諸官ノ任スルトコロナリト雖火元取締者亦火氣ノ使用ニ付其ノ責ニ任スルモノトス

火氣消滅

第百二十一 火氣使用者ハ使用終リタルトキハ其ノ始末ヲ爲シ確實ニ火氣ヲ消滅スヘシ

禁烟禁火氣

第百二十二 營内ニ於テハ所定ノ場所以外ニ於テ喫烟スルヲ禁ス又彈藥庫、脂油庫、砲廠、格納庫、車廠及薪炭ノ格納所等爆發若ハ發火シ易キ物品アル場

彈藥爆發

第百二十三 彈藥其ノ他爆發若ハ發火ノ虞アルモノヲ營内ニ置クヘカラス已ムヲ得サルトキハ彈藥ニ限リ封鎖ノ上一時風紀衛兵司令ノ監視ニ託スルコトヲ得

煙突

第百二十四 煙突ノ裝置ニハ火氣ノ漏レサルコトニ注意シ鐵板煙突ハ毎週、其ノ他ノ煙突ハ毎月少クモ一回責任者監視ノ下ニ掃除スルモノトス

電燈、瓦斯

第百二十五 電氣、瓦斯、蒸汽機關及暖房ノ裝置、機能等ニハ常ニ注意ヲ怠ラス且毎年少クモ一回技術者ヲシテ檢査セシムルモノトス

消火器

第百二十六 營内緊要ノ場所ニハ輕便消火器若ハ消火水桶ヲ備ヘ常ニ一定ノ位置ニ置キ又兵ヲシテ輕便消火器、水道消火栓竝電路(瓦斯)開閉器等ノ位置及其ノ使用法ヲ熟知セシムヘシ

火災報知

第百二十七 火災報知ノ電話ヲ取扱フ地方ニ在リテハ其ノ通話法ヲ必要ノ兵ニ熟知セシメ置クヘシ

電話

彈藥庫

第百二十八 彈藥庫ノ傍ニハ目塗土及梯子ヲ、脂油庫及發火シ易キ油ヲ使用スル建物ノ傍ニハ消火用土砂等ヲ備ヘ置クヘシ

消防隊

週司100

第百二十九 聯隊長ハ消防具及用水ノ狀況ヲ顧慮シ消防隊ヲ編成シ置クヘシ

將校ト火災號音

第百三十 營内出火、近火等ニシテ急ヲ要スル場合ニ限リ將校、週番士官タル特務曹長及週番副官ハ自ラ其ノ責ニ任シ火災ノ號音ヲ吹奏セシムルコトヲ得

出火ノ際ノ處置

第百三十一 出火ノ際ニ於ケル處置ハ其ノ場ニ現在スル者臨機ノ處置ニ依リ遺策ナキヲ期スルヲ本旨トス然レトモ一般ノ場合ニ於ケル動作ヲ示スコト概

ネ左ノ如シ

一 營内ノ出火ヲ知リタル者ハ各所ニ備付アル成ルヘク多數ノ輕便消火器等ヲ使用シテ防火ニ從事ス

二 火災ノ號音アルトキハ各本部、中隊等ハ速ニ命令受領者ヲ週番司令ノ許ニ出ス

三 軍旗、御眞影、勅諭等ニ延燒スルノ虞アリテ上官ノ指示ヲ待ツノ遑ナキトキハ當該歩哨ハ勿論其ノ附近ニ居合ス者ハ之ヲ他ニ奉移シ之カ警護ニ任ス

週司一〇五

四 機密圖書ニハ特ニ監視者ヲ附シ其ノ散逸ヲ防クモノトス

五 厩ニ延燒ノ虞アルトキハ馬匹ヲ安全ノ地ニ牽出シ然ル後馬具、厩具ヲ持出スヘシ事急ニシテ之ヲ牽出ス遑ナキトキハ寢張綱又ハ頭絡ヲ解キ或ハ之ヲ切リテ馬匹ヲ救出ス但シ成ルヘク營門外ニ出ササルコトヲ勉ム

六 必要ノ營外居住者ニハ週番諸官ヨリ急報ス

兵營官衙等

第百三十二 兵營、官衙、學校、公署、將校以下ノ家宅及其ノ附近ニ火災アルトキハ聯隊長〔不在ナルトキハ週番司令〕ハ救援ノ爲必要ノ人員〔要スレハ消防具ヲ附シ〕ヲ派遣スルコトヲ得

水風雹災

第百三十三 水災、風災、震災等ノ場合ニハ概ネ本章ニ準シ適宜處置スルモノトス

非常、要旨

第百三十四 非常ノ際ハ現在スル上級先任者ノ機宜ノ處置ニ任シ遺策ナキヲ期スルコト勿論ナリト雖概ネ火災ノ爲定メタル諸件ヲ準用スヘシ

非常號音ト整列

第百三十五 非常呼集ヲ要スルトキハ聯隊長若ハ現在スル上級先任者ハ非常ノ號音ヲ吹奏セシムヘシ此ノ號音ニテ下士官以下携帶兵器ヲ携ヘ舍前ニ整列スルモノトス但シ兵舍、砲廠、格納庫、車廠、兵器庫等ニハ必要ノ監視者ヲ配置スルモノトス

命令受領

非常ノ號音アルトキハ各本部、中隊等ハ速ニ命令受領者ヲ聯隊本部ニ出スヘシ

週番諸官

第百三十六 非常呼集ノ際週番諸官ハ特ニ營内ノ警戒、取締及火災豫防ニ注意スヘシ

衛戍司令官ヘ命令受領

第百三十七 非常ノ際各部隊ハ衛戍司令官ノ許ニ命令受領者ヲ出スヘシ

必要ノ事項

第百三十八 本章ニ規定スルモノノ外火災豫防、消防其ノ他危害豫防ニ關シ聯隊長之ヲ規定スヘシ

任務

第十六章 風紀衛兵

第百三十九 風紀衛兵ハ兵營毎ニ之ヲ設ケ週番司令ノ指揮ニ屬シ營内〔當該部隊ニ屬スル兵營附近ノ建造物及諸物件ヲ含ム〕ノ取締竝警戒ニ任シ營門出入ノ者ヲ監視スルヲ以テ任トス

衛戍衛兵一五—四八編成

第百四十 風紀衛兵服務ノ爲ニハ本章ニ規定スルモノノ外衛戍衛兵ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス

第百四十一 風紀衛兵ハ司令、衛舍掛、歩哨掛、歩哨及喇叭手ヨリ成リ其ノ哨所ハ通常軍旗、營門、營倉、彈藥庫トス

司令 上等兵

第百四十二 風紀衛兵司令ハ通常下士官ヲ以テ、衞舍掛及歩哨掛ハ上等兵ヲ以テ之ニ任ス但シ衞舍掛ヲシテ一時歩哨掛ノ勤務ヲ執ラシメ又衞兵ノ人員少キトキハ上等兵一名ヲシテ此ノ兩勤務ヲ兼ネシムルコトヲ得

彈藥 閱讀書籍

第百四十三 風紀衞兵所ニハ必要ノ場合彈藥ヲ備付ケ置クモノトス

第百四十四 風紀衞兵ハ聯隊長ノ指定スル書籍ノ外閱讀スヘカラス

衞戍 假眠、寢具ノ使用

第百四十五 聯隊長ハ風紀衞兵ニ假眠ヲ許シ且毛布、蚊帳、枕ノ使用ヲ許スコトヲ得

週司令 週副

第百四十六 風紀衞兵司令ハ週番司令ノ命ヲ承ケ衞兵ヲ指揮シ營倉ヲ警守シ日課ノ諸號音ヲ定時限ニ吹奏セシメ且衞兵所、哨舍、營倉、面會所及備付諸物品ノ清潔保存ヲ監視ス

週司令

一 衞兵司令日常ノ業務概ネ左ノ如シ

上番衞兵司令ハ下番衞兵司令ヨリ申送ヲ受ケ衞舍掛ヲシテ其ノ監守ニ屬スル諸物品ヲ受取ラシメ歩哨掛ヲシテ歩哨ヲ交代セシム又營倉ニ在ル者ノ人員、著裝、所持品等ハ自ラ之ヲ檢査ス

右終レハ上下番衞兵司令ハ之ヲ週番司令ニ報告ス

下番衞兵司令ハ此ノ際報告ヲ週番司令ニ、物品持出證ヲ週番副官ニ差出スモノトス

二 點呼ノ際ハ衞兵ヲ整列セシメ人員ヲ檢査シ營倉ヲ巡視シ異狀ノ有無ヲ週番司令ニ報告ス

三 週番司令ヨリ命セラレタル時刻其ノ他時々自ラ巡察シ又ハ部下ニ命シ

ノ一

テ巡察セシメ營内ノ取締、警戒及火災豫防ニ注意ス

四 衞兵所ノ時計ハ毎日正午之ヲ規正ス

五 表門ハ通常起床號音ニテ開キ夕食號音ニテ閉チ其ノ他ノ諸門ハ聯隊長ノ定ムル時刻ニ於テ開閉ス

外來人取扱

週下士官

六 外來人ノ取扱概ネ左ノ如シ

下士官以上ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ氏名ヲ尋ネ直接又ハ週番下士官ヲ經テ之ヲ該官ニ通報シテ所要ノ處置ヲ爲ス

週副

兵ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ兵ノ隊號、等級、氏名及面會人ノ住所、氏名並兵トノ間柄ヲ面會簿ニ記入シ面會所ニ案内ノ後週番下士官ニ通報ス

地方官公吏及團體等ニシテ慰問ノ爲來營シタルトキハ聯隊副官〔不在ナルトキハ週番司令〕ノ指示ヲ請ク

面會人及其ノ携行品ニ注意シ軍紀風紀及衞生上有害ナリト認ムルモノアルトキハ週番司令ニ申出テ其ノ指示ヲ請ク

營内參觀ヲ請フ者アルトキハ週番司令ノ指示ヲ請ク

週司令 物品持出

七 准士官以上、見習士官、少尉候補者、之等ニ準スヘキ者及其ノ隨從者並營外居住下士官ノ外營外ニ物品ヲ持出サントスル者アルトキハ其ノ持出證ト物品トヲ照合ノ上持出證ニ檢印シ若シ持出證ナキ者又ハ證明外ノ物品ヲ携フル者アルトキハ之ヲ止メ週番司令ニ屆出ツ

營内ニ持入ラントスル兵ノ所持品ニ對シテモ必要ト認ムルトキハ之ヲ檢

表門出入

八　表門ノ出入ヲ許スヘキ者左ノ如シ

指揮者ニ依リ引率セラレタル者

下士官以上及其ノ隨從者竝制服ヲ著ケ若ハ所定ノ徽章ヲ附シタル陸軍文官但シ休日以外ノ日及休日ニ於テ外出ノ規定時限以外ニ出入スル下士官ハ公用證、外出證明書、外泊證明書又ハ營外居住證ヲ所持スルヲ要ス

兵ニシテ公用證又ハ休日ノ外出ノ規定時限以内ニ於テ外出證ヲ、其ノ他ノトキニ於テ外出證明書若ハ外泊證明書ヲ所持スル者

憲兵、傳令及郵便電信集配人

門鑑ヲ所持スル者

特ニ聯隊長ノ許可セル者

九　下士官（營外居住者ヲ除ク）以下休日以外ノ日及休日ニ於テ外出ノ規定時限以外ニ營門ヲ出入スル者アルトキハ自ラ之ヲ檢ス

週下一〇七ノ三

十　遲刻シテ歸營シタル者アルトキハ隊號、官等級、氏名及入門時刻ヲ記シ週番司令ニ報告シ且本人所屬部隊ノ週番下士官ニ通報ス

十一　衛兵所、哨舍、營倉、面會所及備付諸物品中破損紛失等アルトキハ其ノ事由ヲ調査シ修理申立帳ニ記入シ聯隊本部ニ申出テ消耗品ハ衛舍掛ヲシテ聯隊本部ヨリ受領セシム

週下一〇七ノ四

十二　營倉入ノ者アルトキハ週番副官ノ指示ヲ承ケ週番下士官ヨリ之ヲ受領シ服裝及所持品等ヲ檢査シ營倉ニ錮シ入倉者ノ動靜、營倉內ノ清潔及

換氣等ニ注意ス

演習、入浴其ノ他取調等ニテ營倉入ノ者ヲ出ス爲週番下士官來ルトキハ週番副官ノ許可ヲ請ケ本人ヲ引渡ス其ノ授受ニ關シテハ入倉ノトキニ準ス

營倉入ノ者ニ面會ヲ許可セラレタル者アルトキハ自ラ之ニ立會フモノトス

營倉ノ開閉ハ自ラ之ヲ爲シ物品出シ入レノ際ニハ之ニ立會フモノトス

週司一〇〇

十三　衛兵及營倉入ノ者診斷ヲ願出ツルトキハ週番副官ニ屆出テ所屬中隊ノ週番下士官ニ通報シ診斷ヲ受ケシム

衛兵中疾病、事故等ニテ服務セシメ難キ者アルトキハ週番副官ニ報告シ所屬中隊ニ代人ヲ請求ス

十四　非常又ハ火災アルトキハ直ニ週番司令ニ急報シ衛兵ヲ整列セシメ其ノ指揮ヲ受ク又火災ニシテ瞬時モ猶豫スヘカラサルトキハ號音ヲ吹奏セシメ要スレハ營倉入ノ者ヲ他ニ移シ監視者ヲ附シ其ノ他臨機ノ處置ヲ爲ス

衛舍掛

第百四十七　衛舍掛ハ風紀衛兵司令ノ命ヲ承ケ衛兵所、營倉、面會所等內外ノ清潔保存及火元取締ニ注意シ備付諸物品ヲ監守ス

衛舍掛日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一　當番ヲ割出シ營門、衛兵所其ノ他受持場ヲ掃除セシメ又備付諸物品ノ手入ヲ爲サシム

二　營倉内ノ掃除ハ營倉入ノ兵アルトキハ毎日之ヲシテ實施セシメ否サルトキハ當番ヲシテ實施セシム

三　營倉入ノ者ノ寢具及食事ノ授受ヲ爲ス

第百四十八　步哨掛ハ風紀衞兵司令ノ命ヲ承ケ步哨ノ交代ヲ行ヒ哨舍ノ清潔保存ニ注意シ步哨ヲシテ服裝ヲ正シクシ守則ヲ熟知シ之ヲ嚴密ニ實施セシムルヲ以テ任トス

第百四十九　本章ニ規定スルモノノ外風紀衞兵ノ編成、服務竝步哨ノ特別守則ハ聯隊長之ヲ規定スヘシ

第十七章　營倉

第百五十　營倉ハ重(輕)營倉ニ處セラレタル者ヲ錮シ悔悟謹愼セシメ又犯行者ニシテ處分未決ノ者及一時營倉入ヲ必要トスル者ヲ留置スル所トス

第百五十一　營倉入ノ者ハ成ルヘク一人宛別房ニ錮スヘシ

第百五十二　營倉各房ノ入口ニハ營倉入ノ者ノ隊號、等級、氏名、罰目、留置等其ノ他必要ナル件ヲ記シタル札ヲ掲クルモノトス

第百五十三　營倉入ノ者ハ常ニ謹愼ノ意ヲ表シ喧噪ニ亘ル等ノ行爲アルヘカラス又起床時限ヨリ消燈時限迄ハ横臥スルヲ禁ス

第百五十四　輕營倉入ノ者ニハ消燈時限ヨリ起床時限迄毛布、蚊帳、枕ヲ與ヘ食物ハ平常ニ異ナルコトナシ又必要ノトキ中隊長ハ入浴ヲ許可スルコトヲ得

第百五十五　營倉入ノ者ニハ物品ヲ所持スルコトヲ許サス但シ用紙及中隊長ノ許可スル書籍ノ内一册ハ此ノ限ニアラス

第百五十六　營倉入ノ者ニハ准士官以上、見習士官、少尉候補者竝中隊長若ハ週番司令ノ許可シタル者ノ外面會スルコトヲ許サス

第百五十七　犯行者ニシテ處分未決ノ者及一時營倉入ヲ必要トスル者ヲ留置スル場合ノ取扱ハ取締上必要アル限リ適宜前諸條ノ規定ニ準ス

第十八章　當番勤務

第百五十八　當番トハ兵ノ傳令其ノ他雜務ニ服スルヲ當番勤務ト稱ス

第百五十九　當番勤務ニ服スル兵ノ人員、服裝、服務場所、勤務及時間其ノ他聯隊長規定ス

第百六十　當番勤務ニ服シ屢〻交代セシメ難キ者ト雖同一兵ヲ三箇月演習檢査等ノ免否ハ聯隊長之ヲ規定スヘシ

第百六十一　特種ノ當番勤務ニ服シ連續服務セシムルコトヲ許サス但シ徒步部隊ノ貸與馬ヲ取扱フ兵ニ在リテハ四箇月以内服務セシムルコトヲ得而シテ此ノ種ノ當番ト雖毎週少クモ二日演習ニ出場セシムヘシ

第百六十二　聯隊長ハ營内及勤務上ニ於テ傳令、兵器、被服ノ拭淨及貸與馬ノ手入等ヲ行ハシムル爲必要ト認ムルトキハ隊附准士官以上〔旅團副官ヲ含ム〕、見習士官、少尉候補者ニ當番トシテ其ノ隊中ヨリ兵一名ヲ採リ服務セシムルコトヲ得

第百六十三　聯隊長ハ部下ノ病氣看護ヲ要スル等必要已ムヲ得サルトキニ限リ下士官、兵ヲ病院又ハ營外ニ宿泊セシムルコトヲ得

第百六十三　聯隊長ハ部下若ハ其ノ家族ニ死亡者アルトキハ其ノ葬儀ノ爲所

要ノ人員ヲ差遣スルコトヲ得

當番心得

第百六十四 當番勤務ニ服スル兵一般ノ心得左ノ如シ

一 服務スヘキ室内、倉庫等ハ常ニ清潔ナラシメ備付物品ハ其ノ數ヲ明ニシ破損紛失ナキ樣取扱ヒ且妄ニ定メラレタル位置ヲ變スヘカラス又特ニ火氣ノ取扱ニ注意スヘシ

二 私用ノ爲妄ニ其ノ服務ノ場所ヲ離ルヘカラス

三 當番ノ交代ハ定メラレタル時刻ニ於テ上下番ノ者立會ヒノ上申送ヲ爲シ監督者ニ報告スヘシ又諸物品ノ受渡ヲ爲スニハ品目表ニ照シ破損紛失ノ有無ヲ檢シ若シ破損紛失アルトキハ之ヲ監督者ニ報告スヘシ

四 當番中取締ヲ命セラレタル者ハ他ノ當番ヲ指揮シ之ト共ニ命セラレタル業務ニ服スヘシ

第十九章 檢査

檢査ノ主眼

第百六十五 各隊長ハ部下ヲシテ馬匹ヲ愛護シ兵器ヲ尊重シ又被服、建物其ノ他一般ノ供用品及官給品等ヲ大切ニ取扱ヒ能ク之ヲ保存節約スルノ慣習ヲ養成シ且常ニ戰時ノ要求ニ應シ得シムルヲ要ス

各隊長ハ各種檢査ハ前項ノ精神ヲ發揮セシムルヲ主眼トシ之カ實施ニ當リテハ教育訓練等ノ關係ヲ顧慮シ能ク其ノ輕重本末ヲ稽ヘ實施ノ時機、方法等ヲ適切ナラシムルヲ要ス

各隊長ノ檢査

第百六十六 各隊長ハ兵器、被服、器具、材料、建物、陣營具其ノ他諸物品ノ整備及各部分ノ手入保存竝修理ノ良否ヲ檢スル爲適時檢査ヲ行フヘシ

副官、軍醫、獸醫及各委員ノ檢査

第百六十七 各隊長ハ軍裝ノ良否ヲ檢スル爲適時檢査ヲ行フヘシ

馬匹檢査

第百六十八 各隊長ハ馬匹ノ健康狀態、保育ノ適否ヲ檢スル爲適時檢査ヲ行フヘシ

獸醫ハ前項ノ檢査ニ立會フモノトス

上官ノ檢査ヲ受クルトキノ例トス

第百六十九 檢査ノ爲上官巡視ノ際中隊長ハ必要ノ將校以下ヲ隨ヘ適宜ノ位置ニ之ヲ迎ヘ所要ノ報告ヲ爲シ自ラ其ノ先導ヲ爲シ其ノ他ノ者ハ隨行スルヲ例トス

中隊長ノ檢査下命

本部及各委員ニ於テ管理スル場所ノ檢査ニ在リテモ前項ニ準シ其ノ管理ニ屬スル諸物件ノ險査ヲ行フヘシ但シ他ニ供用セル物件ノ檢査ニ付テハ豫メ聯隊長ノ承認ヲ請クルモノトス

第百七十 各隊長ハ部下ヲシテ本章ニ規定スル諸檢査ヲ實施セシムルコトヲ得

第二十章 起居及容儀

兵營起居ノ目的

第百七十一 兵營ニ於ケル起居ハ教練ト相俟チ軍人ノ修養ヲ完ウスヘキモノナリ故ニ上官ハ全幅ノ注意ヲ此ニ致シ克ク節制ヲ保チ放縱ニ陷ルヲ戒メ寛嚴其ノ宜シキニ從ヒ和氣靄々ノ裡軍隊家庭ノ實ヲ擧クルヲ要ス品性ノ陶冶、公德心ノ養成等亦此ノ間ニ期セラレサルヘカラス

起床、消燈

第百七十二 起床及消燈ノ時刻ハ衞戍地所在ノ上級先任ノ軍隊指揮官之ヲ定ムルモノトス

日課時限

聯隊長ハ教育其ノ他ノ都合ニ依リ前項ノ時刻ヲ一時伸縮スルコトヲ得

第百七十三　教育上ニ關スル日課及其ノ時限等ヲ定ムルハ當該職責者ノ任スル所ナリト雖聯隊一般ノ勤務時限ハ聯隊長之ヲ規定スヘシ而シテ起床、點呼、食事、會報、消燈等ハ通常喇叭號音ヲ用フルモノトス

日朝點呼

第百七十四　營内居住者ハ毎朝起床ノ號音ニテ起床シ日朝點呼ノ號音ニヨリ所定ノ位置ニ於テ人員檢査ヲ受クヘシ

班長ニ一人

酒保、集會所、炊事場等週番(日直)ヲ設ケサル場所ハ上級先任者日朝點呼ヲ爲シ異狀ノ有無ヲ週番司令ニ報告スヘシ

週下一〇七ノ三、四

診斷ヲ受ケントスル者ハ此ノ際(急ヲ要スル者ハ其ノ都度)其ノ旨ヲ内務班長ニ屆出ツルモノトス

日夕點呼

第百七十五　日夕點呼ハ通常消燈時限前三十分乃至一時間ニ於テ行フモノニシテ其ノ方法ハ日朝點呼ニ同シ命令訓示等ハ通常此ノ際傳達セラルルモノトス

班長ニ一人

臨時點呼

第百七十六　臨時點呼ノ方法ハ日朝點呼ニ同シ但シ中隊ニ屬セサル場所ハ週番副官ノ立會ヒヲ受クルモノトス

延燈

第百七十七　消燈後常時延燈ヲ許可スル場所及時刻ハ聯隊長之ヲ定メ臨時ニ延燈ヲ要スル者ハ中隊ニ在リテハ中隊長(不在ノトキハ週番士官)其ノ他ニ在リテハ當該副官、委員等(不在ノトキハ週番司令)ノ許可ヲ請クヘシ

寢具、蚊帳

第百七十八　寢具ヲ展ヘ蚊帳ヲ張ル時刻ハ中隊長長之ヲ定ムヘシ

寢臺上

第百七十九　起床後ヨリ夕食時限マテハ寢臺上ニ横ハルコトヲ許サス但シ一

ニ横ハル

休日及特ニ許可セラレタル場合ハ此ノ限ニアラス

服裝及容儀

第百八十　常ニ服裝ヲ整ヘ頭髮ヲ通常短ク剪リ身體、被服ヲ清潔ニシ容儀ヲ正クスヘシ

廉アル場合ノ外室内及聯隊長ノ許可スル場所ニ於テハ上衣ノ釦ヲ外シ又ハ全ク脱クコトヲ得

世論政治印刷物配布

第百八十一　世論政治ニ關スル集會又ハ演說會等ニ臨ミ或ハ自己ノ發意若ハ他ノ依頼ニ依リ印刷物ヲ配布スルヲ禁ス

講演會

學術技藝ニ關スル講演會及之ニ關スル集會ヲ催シ若ハ之ニ臨席セムトスルトキハ所屬隊長ノ許可ヲ請クヘシ

讀書許可

第百八十二　典令範及勤務書以外ノ書籍竝新聞雜誌類ハ所屬隊長ノ許可シタルモノニ非サレハ讀ムコトヲ許サス

犯罪嫌疑者

第百八十三　犯罪ノ嫌疑者ヲ互選投票シ又ハ私ニ懲戒糺問スル等ノ行爲アルヘカラス

貸借、賭事

第百八十四　官給品及金錢ハ之ヲ貸借スヘカラス又一時ノ娛樂ト雖勝負ヲ爭フ行爲ニ物品ヲ賭スルコトヲ禁ス

水ノ使用

第百八十五　水ノ使用ハ節約スルコトニ慣レシムヘシ

官給品ノ取扱

第百八十六　官給品ノ取扱ヲ鄭重ニシ特ニ定メラレタルモノノ外之ニ自己ノ氏名、符號等ヲ記入彫刻シ又ハ私ニ革條ニ孔ヲ穿ツヘカラス

釘打ニ立入

第百八十七　建物其ノ他諸器具ニ妄ニ釘ヲ打ツヘカラス

第百八十八　厩、砲廠、格納庫、車廠、工場、倉庫、炊事場、浴場、蒸汽機關室等ニ

ラメ所ハ妄ニ立入ルヘカラス

物品ノ持入持出

第百八十九 許可ナキ物品ヲ營内ニ持入リ又ハ妄ニ官給品ヲ營外ニ持出スヲ禁ス

私服ニ五七

第百九十 下士官以下ニハ私服ヲ所持スルヲ許サス但シ聯隊長ハ下士官又ハ時期ニ依リ兵ニ之カ所持ヲ許可スルコトヲ得

事故ノ屆出

第百九十一 兵ニシテ事故アリタルトキハ何事タルヲ問ハス速ニ内務班長ニ屆出ヘシ

遺失紛失破損拾得娯樂

第百九十二 物品ヲ遺失、紛失又ハ破損シタルトキハ直ニ内務班長若ハ週番下士官ニ屆出ヘシ之ヲ發見シ又ハ拾得シタルトキ亦同シ

第百九十三 聯隊長ハ營内ニ於テ演藝其ノ他ノ娯樂ヲ許可スルコトヲ得

第二十一章 休日及外出

休日

第百九十四 祭日、祝日、靖國神社例大祭日、陸軍始、陸軍記念日ニ在リテハ儀式等ヲ終リタル後又年末年始、日曜日其ノ他定メラレタル休日ハ通常演習ヲ休ミ休養セシム

外出

第百九十五 休日ニ於テ教育、勤務等ニ差支ナキ營内居住者ハ之ヲ外出セシムルコトヲ得但シ患者〔就業者ヲ除ク〕及犯行取調中ノ者ハ外出スルヲ許サス

外出時限

第百九十六 外出ハ通常朝食後ヨリ兵ニ在リテハ夕食時限迄、下士官ニ在リテハ日夕點呼時限迄トス但シ一月一日、紀元節、天長節、明治節、靖國神社例大祭日ニハ兵ハ日夕點呼時限迄、下士官ハ午後十二時迄外出セシムルコトヲ得

休日ノ勤務ト代日

第百九十七 休日ニ於テ勤務等ノ爲休養スルコト能ハサル者ニ對シテハ代日休暇ヲ與フルコトナシ但シ演習、檢閲等ノ爲部隊一般ニ休日ヲ廢シタルトキハ各隊長ハ隊務ニ妨ナキ日〔日次ノ選定ニ付テハ大、中隊長ハ聯隊長ノ承認ヲ請ク〕ヲ選ヒ該部隊ニ休暇ヲ與フルコトヲ得

部隊一般ニ慰勞休暇實施ノ當日當該休暇ヲ付與セラレタル者ニシテ勤務ニ服スル場合ニ於テハ各隊長ハ之カ代日休暇ヲ與フルコトヲ得

大中隊ノ休日實施

第百九十八 聯隊一般ノ休日ニ非サルトキ大、中隊ノミ休日ヲ實施スル場合ニハ當該隊長ハ之ヲ週番司令及風紀衛兵司令ニ通報スヘシ

休暇致日ト歸省

第百九十九 各隊長ハ休暇致日ニ亙ル場合ニ於テ教育、勤務等ニ差支ナキ者ニ歸省ヲ許スコトヲ得但シ大、中隊長ハ其ノ時日及人員ニ付豫メ聯隊長ノ認可ヲ請クルモノトス

外出者ト食事

第二百 總テ外出スル營内居住者ニシテ兵營ニ歸リ食事スルコト能ハサル者ハ各内務班毎ニ〔本部附ハ各本部毎ニ〕取纏メ〔内務班ニ屬セサル者ハ直接〕之ヲ週番下士官ニ通報スヘシ

臨時外出

第二百一 營内居住者臨時外出ヲ願出テ其ノ事情已ムヲ得サルモノト認メタルトキハ各隊長、副官〔不在ナルトキ事急ヲ要スル場合ニハ中隊ニ屬スル者ニ在リテハ週番士官、其ノ他ニ在リテハ週番司令〕ニ於テ四十八時間以内ノ臨時外出ヲ許可スルコトヲ得

下士官業

第二百二 各隊長、副官ハ教育、勤務等ニ差支ナキ限リ下士官〔下士官ノ階

間外出
下士官外泊

級ニ在ル士官候補生、幹部候補生及勤務演習召集中ノ者ヲ除ク〕ニ對シ午後課業濟ヨリ日夕點呼時限迄外出ヲ許可スルコトヲ得又各隊長ハ服役六年以上ノ下士官ニ對シテハ教育、勤務等ニ差支ナキ限リ聯隊長ノ定ムル所ニ依リ日夕點呼後ヨリ翌朝食時限迄〔休日ノ場合ハ其ノ日夕點呼時限迄〕外泊ヲ許可スルコトヲ得

公用外出

第二百三 公用ノ爲下士官以下ヲ外出セシメントスル者ハ中隊長、副官〔不在ナルトキハ中隊ニ屬スル者ニ在リテハ週番士官、其ノ他ニ在リテハ週番司令〕ノ許可ヲ請ケ公用證ヲ受領シ本人ニ交付ス但シ中隊ニ在リテハ通常週番下士官ヲシテ本人ニ公用證ヲ交付セシムルモノトス

歸營シタルトキハ週番下士官ニ屆出テ公用證ハ中隊ニ在リテハ週番下士官ニ其ノ他ニ在リテハ之ヲ受ケタル職員〔不在ナルトキハ週番司令〕ニ速ニ返納スヘシ

外出證

第二百四 一般休日〔大、中隊ノミノ休日ヲ含ム〕ニ外出セントスル兵ハ內務班長ニ外出先ヲ告ケテ外出證ヲ受ケ歸營シタルトキハ速ニ之ヲ週番下士官ニ返納スヘシ

外出證明書、外泊證明書

第二百五 前條以外ノ日ニ外出セントスル者若ハ休日ニ於テ外出ノ規定時限以外ニ外出又ハ歸營セントスル者ハ中隊ニ在リテハ內務班長ヲ經テ〔班附以外ノ下士官ハ直接〕中隊長〔不在ナルトキハ週番士官〕ニ、本部附ノ者ニ在リテハ副官〔不在ナルトキハ週番司令〕ニ願出テ外出證明書又ハ外泊證明書ヲ受ケ週番下士官ニ屆出テ外出スヘシ

軍隊手牒氏名札

歸營シタルトキハ速ニ週番下士官ニ屆出テ證明書ハ中隊長〔本部附ハ副官〕ニ返納スルモノトス

第二百六 外出スル下士官以下ハ軍隊手牒ヲ携帶スルモノトス

第二百七 下士官ハ外出ノ際中隊備付ノ氏名札ヲ各自ニ裏返シ歸營セハ直ニ之ヲ表面ニ復シ置クモノトス

外套脚絆

第二百八 旅行又ハ歸省ヲ許サレタル者ハ外套ヲ携ヘ脚絆ヲ穿ツヘシ

下士官以下營門出入

第二百九 下士官休日ニ於テ外出ノ規定時限內ニ營門ヲ出入スル者ヲ除ク〕以下ニシテ營門ヲ出入スルトキハ公用證若ハ外出證〔外出證明書、外泊證明書、營外居住證〕ヲ步哨ニ示スヘシ但シ下士官〔營外居住者ヲ除ク〕以下ニシテ休日以外ノ日及休日ニ於テ外出ノ規定時限以外ニ營門ヲ出入スルトキハ自ラ風紀衞兵司令ニモ前記外出許可ノ證ヲ示スモノトス

物品持出

第二百十 下士官〔營外居住者ヲ除ク〕以下ニシテ物品ヲ營外ニ持出サントスルトキハ中隊ニ在リテハ准士官以上ニ、其ノ他ニ在リテハ關係准士官以上ニ物品持出證ヲ請求シ營門ヲ出ツルトキ風紀衞兵司令ノ照合ヲ受ケ物品持出證ヲ步哨ニ渡スヘシ出入商人其ノ他ノ者物品ヲ持出サントスルトキ亦同シ

非常、火災事故

第二百十一 外出中非常其ノ他兵營及其ノ近傍ニ火災アルコトヲ知リタルトキハ直ニ歸營スヘシ

時限ニ歸

第二百十二 外出先ニ於テ事故アリタルトキ其ノ他必要ト認ムル事項ニ關シテハ歸營後速ニ所屬上官及週番下士官ニ報告又ハ通報スヘシ

歸營スルコト能ハサルトキハ速ニ所屬隊ニ報告シ且其ノ定メラレタル時日ニ歸營

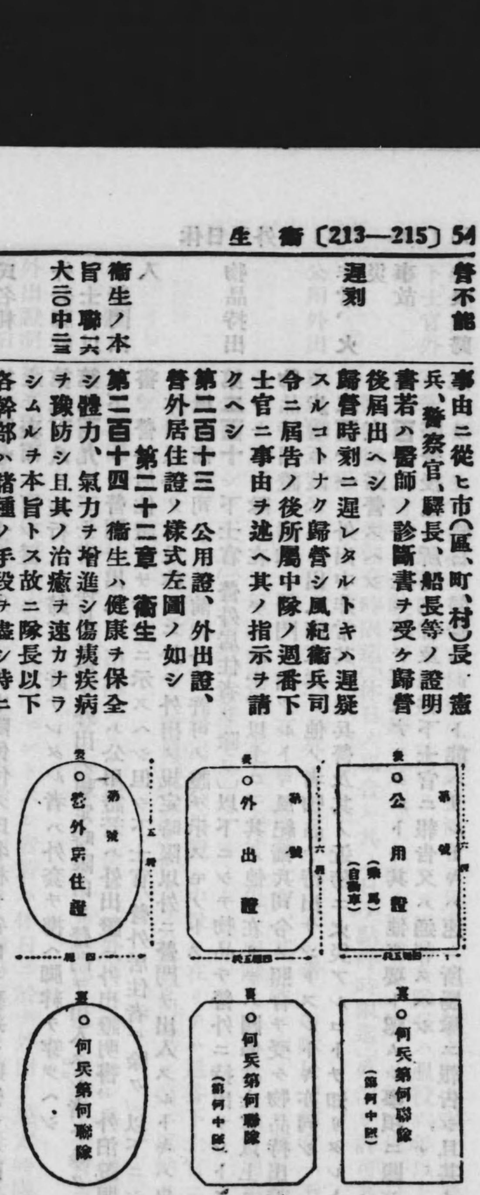
營不能

事由ニ從ヒ市(區、町、村)長、憲兵、警察官、驛長、船長等ノ證明書若ハ醫師ノ診斷書ヲ受ケ歸營後屆出ヘシ

遲刻

歸營時刻ニ遲レタルトキハ遲疑スルコトナク歸營シ風紀衛兵司令ニ屆告ノ後所屬中隊ノ週番下士官ニ事由ヲ述ヘ其ノ指示ヲ請クヘシ

第二百十三 公用證、外出證、營外居住證ノ樣式左圖ノ如シ



衛生ノ本旨

大三〇中三三

第二百十四 衛生ハ健康ヲ保全シ體力、氣力ヲ增進シ傷痍疾病ヲ豫防シ且其ノ治癒ヲ速カナラシムルヲ本旨トス故ニ隊長以下各幹部ハ諸種ノ手段ヲ盡シ特ニ積極的ニ保健ノ勵行ヲ圖リ之カ向上ニ勉ムルヲ要ス

第二百十五 軍醫ハ時々兵舍、酒保、炊事場、浴場、工場等ノ內外ヲ巡視シ常ニ衛生ニ關スル諸規定服行ノ狀況及兵營諸設備、兵業等ノ衛生ニ及ホス影響ニ

軍醫ノ注意事項

注意シ又下士官以下ノ榮養狀態並兵食ノ良否ヲ調査シ時々養價ヲ算定シ用水及糧食品(酒保賣品ヲ含ム)ヲ檢査ス

傷二百十六 軍醫ハ所屬隊長ノ認可ヲ請ケ各中隊ノ診斷順序ヲ定メ定時限ヨリ患者ヲ診療スヘシ

診斷順序

區分

週下一〇七ノ三

聯、大隊本部附下士官ノ受診ハ給與ヲ指定セラレタル中隊ニ於テ取扱フモノトス

患者ノ區分

第二百十七 診斷ノ結果ニ依リ患者ヲ左ノ五種ニ區分ス

就業〔總テノ業ニ就カシムルモノ〕

練兵休〔教練、演習、衛兵其ノ他勞力ヲ要スル勤務ヲ休マシムルモノ〕

乘馬休〔乘馬ニテ行フ教練、演習ノミヲ休マシムルモノ〕

入室〔休養室ニ入ラシムルモノ〕

入院

右ノ外寢臺ニ就クコト、外套又ハ手袋ヲ用フルコト若ハ脫靴ヲ許スコト、酒保ニ就キ飲食品ヲ買フヲ禁スルコト等又病症ニ依リ食物ノ變更ヲ要スルトキハ其ノ種類、數量、日時等ヲ決定ス

軍醫ハ引率者ニ病名、診斷區分、傷病等差、發病月日、前項ノ決定事項及豫防、攝生等ニ關スル必要ノ事項ヲ示シ患者名簿ノ記入ヲ檢ス

劇毒藥

第二百十八 劇毒藥ハ鑰アル容器ニ收容シ其ノ鍵ハ軍醫之ヲ保管シ軍醫不在ノトキハ風紀衛兵司令ニ預ケ置クモノトス

休養室

第二百十九 入院治療ヲ要セサル患者ニシテ概ネ三日以內靜養ヲ要スル者ハ

休養室ニ於テ療養セシム

中隊ノ兵ヲシテ休養室ノ患者ヲ看護セシムル必要アルトキハ軍醫ハ之ヲ其ノ所屬中隊長ニ請求スルモノトス

入室患者ノ寢臺ニハ病名、中隊號、入室月日、官等級、氏名ヲ記シタル札ヲ掲ケ置クモノトス

點燈ト暖室

入室患者ノ守ルヘキ規定ハ聯隊長ノ認可ヲ請ケ高級軍醫之ヲ定ムヘシ

第二百二十 軍醫ハ消燈時限後必要ニ應シ休養室ニ點燈セシメ又時期ニ拘ラス休養室、診斷室等ニ暖室ノ處置ヲ爲サシムルコトヲ得

入院手續

第二百二十一 入院ヲ要スヘキ患者アルトキハ主任軍醫ハ前日〔臨時入院ノ場合ハ其ノ都度〕必要ノ事項ヲ病院ニ豫報シ又患者ノ送院ニ關シ運搬ノ方法、附添人等其ノ他必要ノ事項ヲ患者所屬ノ中隊長〔不在ノトキハ週番士官〕ト協議シ之ヲ所屬隊長ニ報告ス

當直軍醫週下ノ二

第二百二十二 軍醫退營後及休日ニ於テ急病者ノ診療其ノ他所要ノ衛生業務ヲ處理セシムル爲各部隊毎ニ若ハ最寄部隊ト共同シテ一名ノ當直軍醫〔軍醫正ヲ除キ士官勤務ニ服スル見習醫官ヲ含ム〕ヲ置キ營内〔衛戍病院ト共同スルトキハ病院〕ニ宿直セシム其ノ共同スヘキ部隊ハ師團長若ハ之ト同等以上ノ權アル長官之ヲ定ム但シ同一衛戍地ニ在リテ所屬ヲ異ニスルモノハ相互協議ノ上之ヲ定ムルモノトス

前項ノ勤務ニ服セシムヘキ人員三名以下ナルトキハ聯隊長〔共同スル部隊ニ在リテハ上級先任ノ聯隊長〕ハ宿直ヲ宅直ト爲スコトヲ得

高級軍醫〔共同スル部隊ニ在リテハ其ノ全般ヲ通シテ上級先任ノ軍醫、衛戍病院ト共同スルトキハ病院長〕ハ勤務割ヲ爲シ宅直ノ場合ニ在リテハ住所ヲ附記シ豫メ之ヲ關係聯隊副官ニ通報スルモノトス

師團司令部所在地外ノ部隊ニ在リテハ衛戍病院宿直軍醫ハ同時ニ部隊ノ當直ヲ兼ヌルモノトス

地方醫診療

第二百二十三 營内居住者ハ許可ナク地方醫師ノ診療ヲ受ケ又ハ藥物ヲ用フルコトヲ得ス

身體檢査

第二百二十四 營内居住者ノ身體檢査ハ毎月概ネ一回之ヲ行ヒ其ノ他特種ナル演習ノ前後及入隊者アリタルトキ等要スレハ其ノ都度之ヲ行フモノトス

前項ノ檢査ニハ中隊附將校若ハ特務曹長之ニ立會フモノトス

營外居住者ノ身體檢査ハ聯隊長適宜之ヲ命ス

第二百二十五 聯隊長ハ衛生上必要ヲ認ムルトキハ廚夫及出入商人等ニ軍醫ノ身體檢査ヲ受クルニ非サレハ營内ニ入ルコトヲ禁スルモノトス

商人馬丁身體檢査

第二百二十六 入隊者アリタルトキハ營内ニハ種痘ヲ行ヒ又適宜ノ時期ニ於テ所要ノ豫防接種ヲ施スヘシ但シ短期在營者ニ對シテハ時宜ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

種痘、接種

傳染病患者

第二百二十七 被服、防具等ハ所要ニ應シ消毒スヘシ又傳染病患者ノ爲ニハ洗面器、浴槽ヲ區別スヘシ

衛生講話

第二百二十八 衛生思想ヲ向上セシムル爲時々講話ヲ行フヘシ而シテ軍醫ノ行フ衛生講話ニハ將校若ハ特務曹長之ニ立會フモノトス

馬匹衛生本旨（一六大三中三三）

第二百二十九　馬匹ノ衛生ハ軍馬ヲ強健ニ保育シ其ノ能力ヲ增進シ傷痍疾病ヲ豫防シ且其ノ治癒ヲ速カナラシムルヲ本旨トス故ニ隊長以下各幹部ハ諸種ノ手段ヲ盡シ特ニ積極的ニ强健ヲ圖リ之カ向上ニ勉ムルヲ要ス

獸醫ノ注意

第二百三十　獸醫ハ時々厩ヲ巡視シテ馬匹衛生ニ關スル諸規定服行ノ狀況特ニ其ノ榮養並護蹄ノ狀態ニ注意シ又馬匹勞働ノ衛生ニ及ホス狀況ヲ視察シ以テ軍馬能力ノ保全ニ勉メ且馬糧納入ノ際ハ其ノ檢査ニ立會フヘシ

第二十三章　馬匹ノ衛生

診斷順序區分

第二百三十一　獸醫ハ聯隊長ノ認可ヲ請ケ各中隊ノ診斷順序ヲ定メ定時限ヨリ病馬ヲ診療スヘシ

聯、大隊本部ノ馬匹ノ受診ハ給與ヲ指定セラレタル中隊ニ於テ取扱フモノトス

急病馬

獸醫退營後急病馬ヲ生シタルトキハ在營蹄鐵工長又ハ蹄鐵工兵ハ獸醫來營マテ其ノ救急手當ヲ爲スヘシ

病馬區分

第二百三十二　診斷ノ結果ニ依リ病馬ヲ左ノ四種ニ區分ス

就業　總テノ業ニ就カシムルモノ

休業（厩ニ於テ休業セシムルモノ）

入厩（病馬厩ニ入ラシムルモノ）

隔離（隔離厩ニ入ラシムルモノ）

厩上二ノ四

獸醫ハ引率者ニ病名、診斷區分、看護ニ關スル注意、運動ノ程度及飼方等ニ關スル必要ノ事項ヲ示シ病馬名簿ノ記入ヲ檢ス

劇毒藥三八

第二百三十三　劇毒藥ハ鑰アル容器ニ收容シ其ノ鍵ハ獸醫之ヲ保管シ獸醫不在ノトキハ風紀衛兵司令ニ預ケ置クモノトス

病馬厩、隔離厩

第二百三十四　病馬厩及隔離厩ニ在ル病馬ハ蹄鐵工長及蹄鐵工兵ヲシテ之カ看護ヲ爲サシムヘシ但シ蹄鐵工兵不足ノトキハ其ノ他ノ兵ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

當直獸醫

前項蹄鐵工兵等ノ人員ハ獸醫之ヲ定メ病馬所屬ノ中隊長ニ請求スルモノトス

第二百三十五　獸醫退營後及休日ニ於テ急病馬ノ診療其ノ他所要ノ馬匹衛生業務ヲ處理セシムル爲最寄部隊ト共同シテ一名ノ當直獸醫（獸醫正ヲ除キ士官勤務ニ服スル見習獸醫官及三等獸醫候補者ヲ含ム）ヲ置キ宿直若ハ宅直セシム其ノ共同スヘキ部隊並宿直、宅直ノ決定ハ師團長若ハ之ト同等以上ノ權アル長官之ヲ定ム但シ同一衛戍地ニ在リテ所屬ヲ異ニスルモノハ相互協議ノ上之ヲ定ムルモノトス

高級獸醫（共同スル部隊ニ在リテハ其ノ全般ヲ通シテ上級先任ノ獸醫）ハ勤務割ヲ爲シ宅直ノ場合ニ在リテハ住所ヲ附記シ豫メ之ヲ關係聯隊副官ニ通報スルモノトス

馬匹檢査

第二百三十六　獸醫ハ新馬入隊、傳染病流行、特種ナル演習ノ前後其ノ他衛生上必要アルトキハ聯隊長ノ命ヲ承ケ馬匹ノ檢査ヲ行フヘシ前項ノ檢査ニハ中隊附將校若ハ特務曹長之ニ立會フモノトス

馬匹衛生講話

第二百三十七　馬匹ニ關スル衛生思想ヲ向上セシムル爲時々講話ヲ行フヘシ而シテ獸醫ノ行フ衛生講話ニハ將校若ハ特務曹長之ニ立會フモノトス

獸醫ナキ部隊

第二百三十八　獸醫在ラサル部隊ニ於ケル馬匹ノ衛生業務ハ聯隊長ノ指定スル將校之ヲ擔當スルモノトス但シ病馬ノ診療、去勢ヲ要スルトキ竝裝蹄設備ヲ有セサル部隊ニ於テ裝蹄若ハ剔毛ヲ要スルトキハ獸醫附屬ノ最寄部隊ト協議ノ上之ヲ行ハシメ已ムヲ得サルトキハ地方獸醫、同蹄鐵工ヲシテ之ヲ實施セシムルコトヲ得

第二十四章　厩

馬名札

第二百三十九　馬房ニハ馬名、用役（乘、輓、駄馬）毛色、年齢及毛附者ノ氏名ヲ記セル馬名札ヲ掲クヘシ但シ辯馬、新馬ニ在リテハ其ノ旨ヲ附記スヘシ病馬房ニハ別ニ病名、發病月日及診斷區分等ヲ記シタル札ヲ掲ケ又飼方及取扱上特別ノ注意ヲ要スルモノニハ之ヲ明示シ置クモノトス

厩清潔

第二百四十　厩ハ常ニ清潔乾燥ヲ保チ特ニ空氣ノ流通ヲ適當ニスヘシ又妄ニ辯馬中咬辯馬ニハ鬃ニ、蹴辯馬ニハ尾毛ニ白布ヲ結著スルモノトス

馬手入

第二百四十一　馬匹ノ手入ハ朝夕二回行フヲ例トス厩内ニ於テ水ヲ使用スルコトヲ禁ス

火災豫防

第二百四十二　厩ニ於テハ特ニ火災ノ豫防ニ注意スヘシ又厩及其ノ周圍ニ於テハ裸火ノ使用及喫烟ヲ禁ス

食事ノ主旨委員ト軍

第二百四十三　軍隊ノ食事ハ榮養ヲ主トシ簡易ヲ旨トスヘシ

第二十五章　炊事場及浴場

第二百四十四　經理委員ハ絶エス兵業ノ實情、物價、食品ノ配合、調理法、

嗜好等ニ注意シテ給養ヲ良好ナラシムルコトヲ勉メ翌週ニ於ケル献立豫定表ヲ調製シ聯隊長ニ差出スヘシ又日々糧食品ノ原料ヲ檢査スルノ外時々試食ヲ行フモノトス

食中毒

第二百四十五　食中毒アリタルトキ檢査ニ供スル爲每食一食分（米麥飯ヲ除ク）ヲ二十四時間炊事場ニ存置スヘシ

炊事掛下士官

第二百四十六　炊事掛下士官日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一　炊事專務兵、當番及厨夫等ヲ指揮シ食物ノ調理分配及浴場等ニ關スル業務竝炊事專務兵ノ教育ニ從事シ又糧食品、薪炭類及備付諸物品ノ監守ニ任シ且計算記簿ノ事務ニ服ス

二　每朝炊事專務兵、當番及厨夫等ノ人員檢査ヲ行ヒ其ノ健康狀態ニ注意シ又服務中病氣其ノ他ノ事故ニ依リ交代ヲ要スル者アルトキハ之ヲ中隊ニ請求ス

三　炊事中及食事分配ノ際ハ成ルヘク現場ニ在リテ之ヲ監視ス

四　日々殘飯、殘菜等廢物ノ數量ヲ記牒シ經理委員ニ報告ス

五　炊事場ノ清潔整頓ニ注意シ煙突ハ其ノ使用ノ度ニ應シテ屢、掃除セシメ消

六　特ニ火元取締ニ注意ス

七　火後ハ火氣ノ消滅ヲ確ム

炊事場浴場規定

第二百四十七　炊事場（蒸汽機關室ヲ含ム）及浴場ニ於テ守ルヘキ規定ハ聯隊長ノ認可ヲ請ケ經理委員之ヲ定ムヘシ

出入商人ハ用務終レハ速ニ炊事場ヲ立去ラシム

第二十六章　命課布達式及告別

命課布達式ヲ行フヘキ場合

第二百四十八　將校新ニ命課セラレタルトキハ之ヲ隊内ニ布達スル爲命課布達式ヲ行フモノトス但シ同一部隊内ニ於テ同職務ヲ以テ配屬ヲ變更セラレタル場合及其ノ隊ニ於テ常時服務セサル場合ヲ除ク

布達式ノ整列

將校相當官ノ命課ハ要スレハ各隊長適宜紹介ノ方法ヲ講スルモノトス

第二百四十九　命課布達式ニハ所屬聯隊整列〔聯隊ハ布達者以外ノ上級先任ノ將校之ヲ指揮ス〕シ聯隊長ノ爲ニハ軍旗ヲ樹テ旅團長、旅團編制ナキモノ及旅團編制ヲ有スルモ該司令部ト衞戍地ヲ異ニシ師團司令部所在地ニ在ルモノハ師團長、師、旅團長在ラサルトキ及分屯隊ニ在リテハ該隊内上級先任ノ將校之ヲ布達スルモノトス

布達者

布達方法

第二百五十　布達セラルル將校ハ聯隊ノ中央前ニテ之ニ面シ肩刀ヲ爲シ布達者ノ左側ニ位置ス是ニ於テ布達者ハ「氣ヲ著ケ」ノ號音ヲ吹カシメ軍隊ハ「注目」ノ號令ヲ以テ布達セラルル將校ニ注目シ布達者ハ概ネ左ノ例ニ依リ布達スヘシ

天皇陛下ノ命ニ依リ陸軍何兵何官何爵何某今般何職ニ補セラル因テ同官ニ服從シ各〻軍紀ヲ守リ職務ニ勉勵シ其ノ命令ヲ遵奉スヘシ

布達者布達セラルル者ヨリ下級ナルトキハ其ノ左側ニ位置シ敬稱ヲ附シ且「因テ同官ニ服從シ」ノ代リニ「因テ我等一同同官ニ服從シ」ト唱フヘシ

布達終レハ軍隊ハ「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニシ捧銃(捧刀)ヲ爲シ布達セラレタル將校ニ注目シ喇叭手ハ「皇御國」ヲ吹奏ス布達者及布達セラレタル者ハ

相對向シ刀ヲ以テ敬禮ヲ行フ

以上ノ式終リタル後布達セラレタル者聯、大、中隊長ナルトキハ其ノ部下軍隊〔戰車隊、自動車又ハ徒步編制ノ砲兵隊、飛行隊及氣球隊ヲ除ク〕ハ新隊長ニ對シ分列式ヲ行フヘシ

初年兵

第二百五十一　第一期教育ヲ終ラサル初年兵及之ニ類スル者ハ本隊ノ後方ニ整列スルヲ例トス

告別式

第二百五十二　聯、大、中隊長他ニ轉スルトキハ其ノ部下タリシ軍隊ヲ集メ告別ノ辭ヲ述ヘ軍隊〔戰車隊、自動車又ハ徒步編制ノ砲兵隊、飛行隊及氣球隊ヲ除ク〕ハ之ニ對シ分列式ヲ行フヲ例トス

第二十七章　入隊兵取扱

現役兵配當

第二百五十三　聯隊長ハ聯隊區司令官ヨリ送付スル現役兵壯丁名簿及身上明細書ニ依リ入隊兵ノ素養、職業、體格、本籍地ノ關係等ヲ顧慮シ豫メ之ヲ各大隊ニ、大隊長ハ更ニ之ヲ各中隊ニ配當シ其ノ名簿及書類ヲ各中隊ニ交付ス

現役兵交付

第二百五十四　現役兵入隊スルトキハ聯隊副官ハ前條ノ現役兵連名簿ニ基キ各中隊ハ之ニ基キ現役兵連名簿ヲ調製シ大隊ヲ經テ聯隊ニ報告シ置クヘシ

現役兵受領セハ

第二百五十五　中隊長ハ入隊兵ヲ受領セハ豫メ受ケタル名簿ト本人ノ所持セル現役兵證書トヲ照合シ不參者アルトキハ其ノ所屬聯隊區、本籍地、氏名ヲ調査シ大隊長ヲ經テ聯隊長ニ報告スヘシ

聯隊長ハ前項ノ報告ヲ集メ其ノ本籍地、氏名ヲ當該聯隊區司令官ニ通報スヘ

身體檢査

第二百五十六　各中隊ニ入隊兵ノ引渡ヲ終レハ聯隊長ハ軍醫ヲシテ身體檢査シ
ヲ行ハシムヘシ

被服支給

第二百五十七　中隊長ハ入隊兵ヲ内務班ニ編入シ被服其ノ他所要ノ物品ヲ支
給スヘシ各自ノ私服ハ聯隊長ノ許可シタルモノノ外成ルヘク本人ヨリ附添人
私服一九〇
ニ渡サシメ又ハ本人ノ望ニ依リ一時中隊ニ預リ置クコトヲ得

入隊訓示

第二百五十八　中隊長ハ現役兵入隊ノ後中隊ヲ上級先任ノ將校ノ指揮ヲ以テ
整列セシメ入隊兵ニ對シ中隊ニ編入セラレタル旨ヲ告達シ所要ノ訓示ヲ爲ス
但シ徒手帶劍(刀)ニシテ入隊兵ヲ第一列ニ配ス
右終リタル後入隊兵ヲシテ御眞影ヲ拜セシム

入隊式

第二百五十九　聯隊長ハ左ノ方法ニ依リ入隊式ヲ行フヘシ
一　聯隊ハ上級先任ノ將校ノ指揮ヲ以テ式場ニ徒步整列ス但シ入隊兵ハ徒
手帶劍(刀)ニシテ第一列ニ配ス
二　聯隊長聯隊ノ中央前ニ至レハ軍旗ハ隊列ヲ離レ聯隊長ノ右側ニ至ル
三　聯隊長ハ明治十五年及昭和元年陸海軍人ニ賜リタル勅諭ヲ奉讀シ所要
ノ訓示ヲ爲ス
四　聯隊長ノ訓示終レハ軍旗ハ定位ニ復ス

入隊式ヲ行ハヌ者

第二百六十　入隊式ヲ行フハ現役兵定期入隊ノトキニ限ル
入隊式ヲ行ハサルトキ勅諭ノ奉讀ハ中隊ニ於テ之ヲ行フヘシ

入隊兵報告

第二百六十一　中隊長ハ入隊兵ノ人員、事故者、入隊ノ景況、教育ノ程度、

思想ノ狀況、體格及健康狀態等ノ概況ヲ大隊長ヲ經テ聯隊長ニ報告スヘシ

士官候補生其他

第二百六十二　聯隊長ハ前項ノ報告ヲ纏メ順序ヲ經テ師團長ニ報告スルモノトス
士官候補生、短期現役兵、短期在營ノ現役兵及演習又ハ教育
ノ爲召集セラレタル者等ノ入隊ニ關シテモ亦本章ノ規定ヲ準用スヘシ

第二十八章　除隊兵取扱

除隊式

第二百六十三　聯隊長ハ現役兵定期除隊前ニ於テ左ノ方法ニ依リ除隊式ヲ行
フヘシ
一　聯隊ハ隊内上級先任ノ將校ノ指揮ヲ以テ式場ニ徒步整列ス
二　聯隊長式場ノ中央前ニ至レハ軍旗ハ隊列ヲ離レ聯隊長ノ右側ニ移ル
三　聯隊長ハ除隊ノ旨ヲ告達シ次ニ大正三年在鄕軍人ニ賜リタル勅語ヲ奉
讀シ且所要ノ訓示ヲ爲ス
四　訓示終レハ聯隊長ハ善行證書、適任證書及伎倆證明書等ヲ付與ス
五　右終レハ步兵聯隊及騎兵聯隊ハ軍旗ニ對シ其ノ他ノ徒步部隊、戰車隊、
徒步編成シタル乘馬部隊、自動車又ハ徒步編制ノ砲兵隊、飛行隊及氣球
隊ヲ除ク〕ハ隊長ニ對シ分列式ヲ行フ

除隊式ヲ行フ者

第二百六十四　除隊式ヲ行フハ現役兵〔同日除隊スル其ノ他ノ者ヲ含ム〕定期
除隊ノ時ニ限ル臨時ニ除隊スル者アルトキハ除隊前所屬隊長ハ證書付與ノ手
續ヲ爲シ且所要ノ訓示ヲ爲ス

兵籍、成績調書

第二百六十五　中隊ハ除隊兵ノ兵籍ニ關スル書類及在隊間成績調書ヲ大隊本
部ヲ經テ聯隊本部ヘ提出スヘシ

償勤者　償勤者アルトキハ同年次ノ現役兵定期除隊ノ際其ノ旨ヲ併セ報告スルモノトス

軍隊手牒　**第二百六十六**　除隊兵ノ軍隊手牒ハ其ノ所屬部隊ニ於テ所要ノ記入ヲ爲スモノトス

第二百六十七　幹部候補生、短期現役兵、短期在營ノ現役兵及演習又ハ教育ノ爲召集セラレタル者等ノ除隊ニ關シテモ亦本章ノ規定ヲ準用スヘシ

第二十九章　酒保

酒保ノ目的　**第二百六十八**　酒保ハ營内居住者ニ質素ニシテ品質良好且廉價ナル日用品及飲食物等ヲ販賣スル所トス

聯隊長ハ酒保ニ裝飾ヲ爲シ又圖書、新聞、雜誌竝娯樂及運動器具等ヲ備付クルコトヲ得

販賣日目　**第二百六十九**　酒保ノ販賣日時及其ノ物品ハ聯隊長之ヲ規定スヘシ

營外居住者酒保經營　**第二百七十**　營外居住者ニハ酒保ノ物品ヲ販賣スルコトヲ得ルモ之カ爲特種ノ賣品ヲ置クコトヲ得ス

第二百七十一　酒保ハ軍隊ニ於テ自營スルヲ例トス但シ聯隊長ハ一部ノ物品ヲ受託販賣セシメ若ハ嚴選シタル商人ヲシテ請負販賣セシムルコトヲ得

行軍演習等酒保品飲食所　**第二百七十二**　行軍、演習中其ノ他一時衞戍地ヲ離レ駐屯スル軍隊ハ必要ニ應シ酒保ヲ携行シ又ハ商人ヲ指定シテ酒保ヲ開設セシムルコトヲ得

第二百七十三　酒保ニ於テ販賣スル飲食物ハ下士官ニ在リテハ其ノ集會所、兵ニ在リテハ酒保ニ於テ飲食スルヲ例トス但シ聯隊長ヨリ特ニ許サレタル場

所及飲食物ハ此ノ限ニアラス

試食ト存置　**第二百七十四**　飲食物ハ委員時々之ヲ試食シ且食中毒アリタルトキ檢査ニ供スル爲毎日必要ノ數量ヲ二十四時間存置スヘシ

酒保止　**第二百七十五**　處罰中及犯行取調中ノ者竝診斷ニ依リ禁セラレタル患者ハ酒保ニ就キ飲食物ヲ買フコトヲ得ス

賣價ト規定　**第二百七十六**　賣品價格及酒保内ニ於ケル規定ハ聯隊長ノ認可ヲ請ケ酒保委員首座之ヲ定ムヘシ

酒保金預入　**第二百七十七**　酒保金ハ當座用ノ外聯隊長ノ名義ヲ以テ確實ナル銀行又ハ郵便局等ニ預ケ置クヘシ

委員助手　**第二百七十八**　酒保委員助手ハ委員ノ命ヲ承ケ酒保ニ關スル業務及其ノ取締ニ從事ス

酒保委員助手日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一　上等兵以下ヲ指揮シテ酒保内一般ノ取締及物品ノ販賣ニ從事シ又請負商人ヲ監督ス

二　書類及諸帳簿ノ整理保存ニ任シ備付諸物品ヲ監守ス

三　日々閉鎖後賣上金高ト殘品トヲ對照シテ精算記牒シ其ノ賣上金ハ酒保當座用金櫃ニ收藏シテ風紀衞兵司令ニ保管ヲ託シ翌日（休日ナルトキハ其ノ翌日）正午マテニ委員主計ノ認證アル賣上日計表ト對照シテ共有金保管委員ニ納付ス

四　賣品ノ仕入ヲ要スルトキハ委員ノ指示ヲ承ケ注文傳票發行ノ手續ヲ爲

ス

五 仕入賣品ヲ受領シタルトキハ委員ノ檢査ヲ請ケ簿表ニ記入ノ上之ヲ保管ス

六 請負販賣品ハ委員ノ檢査ヲ終リタル後日々其ノ持込高、賣上高及殘高ヲ檢査シ之ヲ簿表ニ記入シ委員ノ認證ヲ請ク

七 日朝、日夕點呼ノ際ハ酒保及准士官下士官集會所ノ人員ヲ檢査シテ其ノ結果ヲ週番司令ニ報告ス又兩所ニ於ケル火元取締ニ注意シ消燈後ハ火氣ノ消滅ヲ確ム

臨時點呼ノ際ハ週番副官ノ立會ヒヲ待テ兩所ノ人員ヲ檢査ス

八 毎月賣品仕入高、同賣上高、同殘高等ヲ調査記牒シ翌月五日〔休日ナルトキハ其ノ翌日〕委員ニ差出シ現品ト共ニ檢査ヲ受ク

週番司令

第二百七十九 週番司令ハ取締上又ハ衛生上必要ト認ムルトキハ一時某品ノ販賣ヲ停止シ若ハ酒保ヲ閉鎖セシムルコトヲ得然ルトキハ速ニ聯隊長ニ報告シ酒保委員ニ通報スヘシ

第三十章 將校集會所及准士官下士官集會所

將校集會所

第二百八十 將校集會所ハ將校團員〔見習士官及少尉候補者ヲ含ム〕相會シ團欒和樂ノ中ニ德性ヲ陶冶シ一致團結ヲ圖リ兼テ學術ヲ講習スル所トス

第二百八十一 將校集會所ニ賣品所ヲ設クルコトヲ得其ノ實施ニ關シテハ聯隊長之ヲ規定スヘシ

准士官下士官集會

第二百八十二 准士官下士官集會所ハ准士官、下士官相會シ品位ヲ進メ德性

ヲ陶冶スルト共ニ相互ノ親睦ヲ圖リ兼テ學術ヲ講習スル所トス

集會所ノ使用

第二百八十三 將校、同相當官、見習士官、少尉候補者及士官候補生ハ將校集會所ニ於テ又准士官、下士官及第二年度下士官候補者ハ准士官下士官集會所ニ於テ外來人ニ面會スルヲ例トス

甲種幹部候補生ニハ其ノ階級ニ從ヒ准士官下士官集會所ヲ使用セシムルコトヲ得

裝飾娛樂等費用

第二百八十四 集會所ニハ聯隊長ノ許可ヲ請ケテ裝飾ヲ施シ又ハ圖書新聞、雜誌竝娛樂及運動器具等ヲ備付クルコトヲ得

第二百八十五 集會所ノ費用ハ特ニ規定アルモノノ外各自ノ醵金ヲ以テ辨スルモノトス

規約

第二百八十六 將校集會所ノ規約ハ將校團長、准士官下士官集會所ノ規約ハ聯隊長ノ認可ヲ請ケ准士官下士官集會所委員首座之ヲ規定スヘシ

物品監守

第二百八十七 備付諸物品ノ監守ハ委員若ハ委品助手之ニ任ス又將校集會所委員助手ハ火元取締ニ注意シ消火後ハ火氣ノ消滅ヲ確ム

第三十一章 郵便物及電報取扱

受渡ノ確實

第二百八十八 郵便物及電報ノ受渡ハ確實迅速ヲ旨トシ苟モ紛失盜難等ノコトナキヲ期スヘシ

總テ信書ハ祕密ヲ守ルヲ要スト雖軍ノ紀律ヲ維持スル爲眞ニ必要ト思料スル場合ニ於テハ所屬隊長ハ之ヲ開披スルコトヲ得

爲替盜難

第二百八十九 聯隊長ハ爲シ得レハ其ノ地ノ郵便局長ト協議シ爲替ノ盜難ヲ

豫防受渡擔任者

豫防スル方法ヲ設クルヲ要ス

第二百九十　郵便物及電報ノ受渡擔任者ハ聯、大隊本部ニ在リテハ當該副官ノ指定スル書記、中隊ニ在リテハ曹長〔不在ノトキハ週番下士官〕トシ各本部、中隊毎ニ郵便受取函ヲ備ヘ置クモノトス但シ聯、大隊本部ハ郵便受取函ヲ共用ト爲スコトヲ得

受渡手續

第二百九十一　郵便物及電報ノ受渡手續概ネ左ノ如シ

一　受渡擔任者ハ郵便受取函ノ鍵ヲ保管シ副官又ハ中隊長ノ定ムル時刻ニ開函シ受取人ニ分配ス但シ封書ニ在リテハ受渡簿ニ差出人ノ住所、氏名及受取人ノ氏名ヲ記シ受取人ノ認證ヲ受ク

二　郵便物ハ副官又ハ特務曹長ノ指示ヲ請クルモノトス、特定ノ宛名人ナキ郵便物ハ受渡擔任者之ヲ受取リ直ニ受取人ニ交付ス

三　電報及速達郵便物ハ受渡擔任者受取人ニ代リ書留、價格表記、別配達、配達證明及小包ハ受渡擔任者受取人ニ代リテ受領シ其ノ種類、差出人ノ住所、氏名及受取人ノ氏名ヲ受渡簿ニ記入ノ上受取人ニ交付シ其ノ認證ヲ受ク

四　受渡擔任者ノ受領シタルモノニシテ他ニ轉送ヲ要スルモノアルトキハ速ニ之ヲ處置シ前各號ニ準シテ授受ヲ明ニシ置クヘシ但シ隊内ニ在リテハ通常會報時ニ於テ授受ヲ行フモノトス

五　郵便料未納又ハ不足ノ郵便物及料金追徵ヲ要スル電報ハ受取人ノ諾否ヲ質シタル後處置スルヲ例トス

六　受渡擔任者ハ常ニ郵便物ノ性質ニ注意シ取締上必要ト認ムルトキハ郵便物又ハ電報ヲ受取人ニ交付スルニ先ヲ副官又ハ特務曹長ノ指示ヲ請クルモノトス

第三十二章　報告

報告ノ要

第二百九十二　報告ノ要ハ上司ヲシテ適時軍隊ノ狀況ニ通曉セシムルニ在リ故ニ報告者ハ事ノ緩急輕重ヲ顧慮シテ機宜ノ處置ヲ採リ苟モ形式ニ拘泥シテ時機ヲ失スルカ如キコトナキニ注意スルヲ要ス

報告ノ形式

第二百九十三　特ニ規定アルモノ、重要ナルモノ又ハ將來參考ト爲ルヘキモノハ筆記報告スルハ勿論ナリト雖其ノ他ノ事項ハ勉メテ口頭又ハ覺紙ヲ以テシ事務ノ簡捷ヲ期スヘシ

事急ヲ要スルモノニ在リテハ筆記シテ提出スルモノニ在リテモ取敢ヘス口頭其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ報告スルヲ要ス

日報

第二百九十四　日報ハ隊長ヲシテ軍隊ノ現狀ヲ知悉セシムル爲聯、大隊本部及中隊毎ニ調製シ前日ノ起床ヨリ當日ノ起床マテニ於ケル事故及豫報事項ヲ記載スルモノトス但シ報告事項ナキトキハ覺紙ニテ其ノ旨ヲ報告スヘシ

日報ノ樣式附表第一ノ如シ

日報差出時刻

第二百九十五　日報ノ差出時刻ハ聯隊長之ヲ規定スヘシ大、中隊ノ日報ハ用濟ノ上之ヲ當該隊ニ返却スルモノトス

風紀衛兵報告

第二百九十六　風紀衛兵報告ハ衛兵司令之ヲ作リ交代ノ際週番司令ニ差出スヘシ同官ハ日々之ヲ聯隊長ニ差出スモノトス

風紀衛兵報告ノ樣式附表第二ノ如シ本報告ハ聯隊本部日報ト共ニ聯隊本部ニ

保存スルモノトス

重要報告

第二百九十七　准士官ノ命課及下士官ノ異動ニシテ師團司令部未知ノモノ、賞罰ノ著シキモノ、逃亡、收禁、留置等ハ官等級、氏名ト共ニ其ノ都度順序ヲ經テ師團司令部ニ報告シ行軍、演習等ニシテ二日以上ニ亘ルモノハ豫メ之ヲ報告スヘシ

將校同相當官准士官職員表ハ隨時差出スヘシ

第三十三章　文書及帳簿

文書、用語

第二百九十八　軍人ノ文書用語ハ簡明確切ニシテ平易ナルヲ要ス

永久ト一時

第二百九十九　文書ハ永久ニ亘リ效力ヲ有スルモノト一時限〔一箇年ヲ限リトス〕ノモノトニ分チ其ノ種類毎ニ綴込ムモノトス

帳簿ノ種類

第三百　軍隊ニ備フヘキ帳簿ノ種類及其ノ保存期限ヲ定ムルコト附表第三ノ如シ但シ聯隊長ハ必要已ムヲ得サルモノニ限リ補助簿ヲ設クルコトヲ得

凡例

第三百一　諸帳簿ニハ其ノ卷首ニ凡例ヲ掲ケ之ニ記スヘキ要件ヲ示スヘシ又帳簿及書類綴ニハ索引ヲ附ケ置クモノトス

索引

第三百二　聯隊本部主任書記ハ公用書翰ニシテ封筒上ニ「親展」「祕」「祕人」ノ表記ナキモノハ之ヲ開キ其ノ要旨、宛名、發翰者及發翰番號ヲ「親展」「祕」「祕人」ノ表記アルモノハ其ノ宛名、發翰者及發翰番號〔封筒上ニ發翰番號ナキモノハ副官ノ指示ニ依リ〕ヲ共ニ來翰受付配付簿ニ記シ親展書ハ其ノ儘宛名ノ者ニ屆ケ其ノ他ハ副官ニ差出スヘシ

受付書簡ノ取扱

副官ハ前項ノ書類ヲ關係者ニ送リ若ハ閲覽者ヲ定メ回覽セシムヘシ

閲覽捺印

第三百三　總テ文書ヲ閲覽シタルトキハ其ノ證トシテ捺印若ハ花押スルモノトス

隊外發送品

第三百四　隊外ニ發送スル文書ハ聯隊長若ハ聯隊ノ名ヲ以テシ職印又ハ部隊印ヲ捺スヲ普通トス但シ特ニ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第三十四章　雜則

代理ト勤務

第三百五　聯隊副官ノ代理者タル將校ハ通常週番及衛戍勤務ヲ、大、中隊長ノ代理者タル將校ハ通常衛戍勤務ヲ免スルモノトス

勤務ト責任

第三百六　士官候補生〔將校銓衡會議可決後ノ見習士官ヲ除ク〕、少尉候補者〔將校銓衡會議可決後ノ者ヲ除ク〕、甲種幹部候補生ニハ勤務上ノ責任ヲ負擔セシメサルモノトス

勤務ニ服セシメ者

下士官候補者ハ衛兵勤務ノ外、初年兵ハ第一期間不寢番ノ外諸勤務ニ服セシメサルヲ例トス

士官候補生等取扱

第三百七　士官候補生、幹部候補生及短期現役兵ハ特ニ明文アルモノノ外其ノ階級ニ相當スル取扱ヲ爲スモノトス

聯隊長ハ士官候補生及下士官ノ居室ノ掃除、物品ノ清拭等ノ爲當番ヲ服務セシムルコトヲ得

給養上分屬

第三百八　給與ノ爲聯、大隊本部附下士官及馬匹ハ聯、大隊長ノ指定スル中隊ニ分屬スルモノトス

乘車乘船證

第三百九　公務運賃割引證、下士官兵旅客運賃割引證又ハ乘船證ヲ要スル者ハ中隊ニ在リテハ內務班長ヲ經テ曹長ニ、聯、大隊本部ニ在リテハ當該副官

〔退營後ハ週番司令〕ニ請求スルモノトス

大隊副官及曹長ハ公務運賃割引證、下士官兵旅客運賃割引證、乘船證ノ受渡簿ヲ以テ聯隊副官〔退營後ハ週番司令〕ニ請求シ同官ハ公務運賃割引證、下士官兵旅客運賃割引證、乘船證ニ本人ノ官等級、氏名、年齢及番號等必要ノ記入ヲ爲シ付與スルモノトス

第三百十 敍位、敍勳、任免、補職、轉職等身上ニ異動アリタル場合ニ於テハ關係上官ニ對シ申告ヲ爲スモノトス

附則

本令ハ昭和九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

編制、制度ノ改正等ノ爲必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ陸軍大臣ハ一時所要ノ規定ヲ設クルコトヲ得

軍隊內務書 終

附表第三　其一

聯、大、中隊備付帳簿

名稱	保存期限	摘要
聯隊歷史	永久	聯隊歷史ニ記載スヘキ件概ネ左ノ如シ 一　聯隊長ノ異動 二　戰役經過ノ概要 三　戰功ニ依ル感狀及行賞ニ關スル概要 四　駐劄、派遣 五　編制改正、秋季演習等ノ要項 六　特命檢閱、輜重移轉、增築、改築ノ主 七　兵營ノ移轉、增築、改築ノ主 八　ナルモノ及災害等ノ著シキ變化 九　兵器、被服等ノ每年度末其ノ年內ニ於ケル准士官以上ノ職及轉出入チ明カナル職員表ノ如ク調製シ添附ス 十　右ノ外特ニ主要ナル事項

兵籍	戰時名簿	考科表	兵（幹部候補生、短期現役兵）身上明細簿	褒賞（處罰）錄	人馬（人員）異動錄
●	●	●		●	●
●	●	●		●	●
●	●	●	●	●	●
本人在隊間	本人在隊間	本人在隊間	本人ノ豫備役ヲ終ル迄	三年	二十年
			各人ノ現役兵壯丁名簿及身上明細書ヲ合綴シ入隊後ノ成績其ノ他必要ト認ムル事項ハ現役兵壯丁名簿ノ裏面ニ要スレハ適宜記入スルモノトス紙葉ヲ貼付シ	聯、大隊本部及中隊ニ於テ褒賞（處罰）ヲ受ケタル者ノ褒賞種類（罰目）、善行（犯行）ノ概要、月日、官等級、氏名ヲ記入スルモノトス	將校以下轉出入、分遣、派遣、敍位、敍勳、進級、命課、賞與、逃亡、留置、刑罰、懲罰、償勤、員外、入院、休暇、持業者、證書、徽章、死亡、除隊等人馬ニ關スル諸件ヲ集メルモノトス

申請（上申）簿	人事ニ關スル書類綴	就空加算勤務日誌	見習士官（士官候補生、少尉候補者、幹部候補生、短期現役兵）ニ關スル書類綴	將校同相當官准士官下士官聯員表	准士官下士官實役停年名簿	イロハ名簿
	●	●	●	●	●	●
●	●	●		●	●	●
●	●	●		●	●	
用済廃棄	恩給ニ關スルモノハ三十年其ノ他ハ發來輪ニ同シ	本人在隊間	恩給ニ關スルモノハ三十年其ノ他ハ發來輪ニ同シ	用済廃棄	用済廃棄	本人ノ後備役ヲ終ル迄大隊本部ノモノハ本人在隊間
聯隊内ニ於ケル申請、上申ヲ記入スルモノトス	聯隊本部ニ在リテハ將校以下ノ教育成績書類、恩給書類等ハ別綴トシ爲スコトヲ得又祕ノ取扱ヲ要スルモノハ之ヲ區分シ置クモノトス			概ネ將校實役停年名簿ノ例ニ依リ全聯隊ヲ通シテ作ルモノトス	兵ノ氏名ヲ徵集年次毎ニ分チイロハ順ニ列記シ大・中隊號要スレハ聯隊區、原籍地ヲ記入スルモノトス	

機密書類保管(調製)原簿	●		書類廢棄後五年		
秘密書類保管(調製)原簿	●		書類廢棄後五年		
勤員ニ關スル書類綴	●		一時ノモノハ一年	永久ト一時トニ區分ス	
機秘密書類貸付簿	●		用済廢棄		
機秘密書類ニ關スル綴	●		用済廢棄		
普通圖書簿	● ● ●		二年		
普通圖書貸付簿	● ● ●		用済廢棄		
發輪來輪綴	● ● ●		毎暦年末ニ整理シ不用ノモノハ廢棄スヘシ	種類件數ニ應シ適宜區分ス	發輪來輪綴ノ卷首ニ掲ケ置クコトヲ得事件ノ要旨ヲモ記入シ置クモノトス
發輪番號簿	●		三年		
來輪受付配付簿	●		三年	右ニ準ス	
送達簿	● ● ●		一年	聯隊本部ノモノハ永久ト一時トニ分チ其ノ他ノモノハ分ツコトナク命令受領者ノ手簿ヲ以テ代フルコトヲ得	
命令錄	● ● ●		聯隊一時ノモノ及大、中隊ノモノハ一年		
訓令訓示綴	● ● ●		五年	秘ノ取扱ヲ要スルモノハ之ヲ區分シ置クモノトス	
講評綴	● ● ●		二年		
教育書類綴	● ● ●		二年		
射擊ニ關スル書類綴	● ● ●		二年	保存期限ニ關シ特ニ規定アルモノハ之ニ據ルモノトス	
飛行記錄		●	三年		
學術科豫定實施表	● ●	●	當該兵科ノ在營年數ニ同シ	聯、大隊本部ニハ各、其ノ主管ノモノノミヲ備フ	
下士官兵演習勤務出場表	● ● ●		用済廢棄	演習ハ特ニ必要ナルモノノミニ付テ記入スルモノトス	

勤務割出簿	●	●	用済廃棄	將校以下ノ勤務ヲ割出スモノトス
報告綴	●	●	二年	陸軍報告例ニ依ル報告及日報ヲ綴リ置クモノニシテ部類ニ依リ區分ス
患者名簿		●	一年	
病馬名簿		●	一年	
馬匹名簿	●	●	馬匹ノ在隊間	正副二通ヲ備ヘ副本ハ戰地ニ携行スルモノトス
馬匹體重表		●	五年	
裝蹄表		●	用済廃棄	
裝蹄請求簿		●	用済廃棄	
供用兵器受拂簿		●	用済廃棄	
兵器配當簿		●	用済廃棄	中隊内支給兵器ノ番號及被配當者氏名ヲ記入スルモノトス
兵器交付返納拂出票		●	三年	
兵器修理傳票		●	三年	
兵器履歴		●	兵器主管中	
現金出納簿		●	十年	
金錢給與原簿		●	五年	
需用、修理、返納傳票	●	●	二年	
食需傳票		●	二年	
給飼傳票		●	二年	
修理申立帳	●	●	用済廃棄	其ノ内容ヲ被服、兵器、陣營具、練習用具、營繕等ニ區分ス
營繕圖書類綴	●		毎暦年末ニ整理シ不用ノモノハ廃棄スヘシ	

備												
一 諸綴中保存年限ヲ定ムルモノノ内一時用ノモノハ用済後取除クヘシ 二 諸帳簿ハ當該年度ニ依リ改冊ヲ要スルモノノ外勉メテ紙數ノ盡クル迄使用スルモノトス	郵便切手葉書受拂簿	郵便物受渡簿	公務運賃割引證下士官兵旅客運賃割引證、乘船證受渡簿	門鑑公用證外出證配付簿	營外居住者宿所簿	器具材料練習用具備付簿	陣營具備付簿	増減ノ頻繁ナラサルモノニ在リテハ備付表ヲ以テ代用スルコトヲ得				
	●	●	●	●	●	●	●					
		●	●			●	●					
		●	●			●	●					
	三	一	三	用済廃棄	用済廃棄	三	一	右ニ準ス				
	年	年	年			年	年					

三 帳簿類ノ年限ハ動員、教育、經理ニ關スルモノハ當該動員、教育、會計年度經過後ヨリ其ノ他ハ改冊若ハ帳簿ノ紙數盡キタル後ヨリ起算スルモノトス

四 ●印ハ備付アル箇所ヲ示ス以下同シ

五 各委員所要ノ帳簿ハ別ニ定ムル所ニ據ル

六 訓令訓示若ハ教育書類ニシテ必要アルモノハ本表ノ期限ニ拘ラス用済迄保存スルモノトス

附表第三 其二

週番（日直）勤務用帳簿

名稱	司令官	副官	士官	下士官	厩	保存期限	摘要
入倉者人名簿	●	●				用済廃棄	
週番（日直）勤務錄	●	●	●	●	●	一年	週番勤務中ニ於ケル著シキ出來事及將來ノ爲必要ナル申送事項ノミヲ記入スルモノトス
紛失拾得物處理簿	●					一年	

附表第三　其三

風紀衛兵所備付帳簿

名稱	保存期限	摘要
申送簿	用済廃棄	風紀衛兵ニ關スル事柄ニシテ永久ニ效力ヲ有スルモノト一時限ノモノトニ區別シ記入スルモノトス
入倉者人名簿		
面會簿		
日課時限表		
營外居住者宿所表		
風紀衛兵特別守則		
修理申立帳		
消耗品請求簿		

備考　本表ノ外必要ニ應シ「イロハ」名簿ヲ備付クルコトヲ得

附表第三　其四

醫務室備付帳簿

名稱	保存期限	摘要
健康簿	二十年	
衛生錄	永久	
診斷簿	十年	
處方箋綴	三年	
入院患者名簿	十年	

病床日誌綴	十年	
現認證明書診斷書綴	恩給ニ關スルモノハ三十年其ノ他ハ十年	
衞生材料受拂簿	器械ニ關スルモノハ十年其ノ他ハ三年	
備付物品簿	三年	
命令錄	一年	命令受領者ノ手簿ヲ以テ代フルコトヲ得
訓令訓示綴	五年	祕ノ取扱ヲ要スルモノハ之ヲ區分シ置クモノトス
講評綴	二年	
教育書類綴	二年	
報告綴	二年	陸軍報告令ニ依ル報告ヲ綴リ置クモノトス
發翰來翰綴	毎暦年末ニ整理シ不用ノモノハ廢棄スヘシ	

附表第三　其五

獸醫事務室備付帳簿

名稱	保存期限	摘要
送達簿	一年	
修理申立帳	用濟廢棄	
需用修理返納傳票	二年	
馬匹衞生錄	永久	●
病馬錄	五年	●
馬匹診斷簿	用濟廢棄	●
馬匹保育簿	五年	

馬匹體重表	五年	●	
馬匹治療日誌綴	五年		
診斷書類綴	十年	●	
藥物消耗品受拂簿	三年	●	
獸醫材料器械簿	三年	●	
備付物品簿	三年	●	
蹄鐵工場作業簿	三年	●	
裝蹄簿	三年	●	
保護裝蹄簿	五年	●	
裝蹄剔毛器械簿	三年	●	
蹄鐵工場材料受拂簿	三年	●	
蹄鐵工兵出場簿	用済廢棄	●	命令受領者ノ手簿ヲ以テ代フルコトヲ得
命令錄	一年		
訓令訓示綴	五年		祕ノ取扱ヲ要スルモノハ之ヲ隔分シ置クモノトス
講評綴	二年		
教育書類綴	二年		
報告綴	二年		陸軍報告例ニ依ル報告ヲ綴リ置クモノトス
發翰來翰綴	毎年末ニ整理シ不用ノモノハ廢棄スヘシ		
送達簿	一年		
修理申立帳	用済廢棄		

需用
返修理
納傳票

年

二

備考

●印ヲ附シアルモノハ蹄鐵工長ノミ配屬シアル部隊ニ在リテモ備付クルモノトス

朕衛戍條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十二年四月二十八日

内閣總理大臣　林　銑十郎

陸軍大臣　杉山　元

勅令第二十六號（明治四三、三、一八）

衛戍令

改正
大正九年八月七日勅令第二百三十三號
大正十年一月二十五日勅令第二百三十號
昭和十二年四月二十八日勅令第百五十二號

加除

衛戍令

衛戍、軍隊ノ任務

第一條　陸軍軍隊ノ永久一地ニ駐屯スルヲ衛戍ト稱シ當該軍隊ニ於テ其ノ地ノ警備及陸軍ノ秩序軍紀風紀ノ監視竝陸軍ニ屬スル建築物等ノ保護ニ任ス

衛戍司令官

第二條　衛戍勤務ハ一地ニ駐屯スル團隊（憲兵隊及陸軍教化隊ヲ除ク）ノ長及其ノ地所在ノ要塞司令官（朝鮮軍司令官、臺灣軍司令官及師團司令部所在地ニ在ル要塞司令官ヲ除ク）中上級先任者衛戍司令官ト爲リ之ヲ管掌スルモノトス

衛戍地

第三條　衛戍勤務執行ノ區域ハ衛戍司令官之ヲ定メ其ノ區域ヲ衛戍地ト稱シ其ノ地名ヲ冠シテ某衛戍地ト謂フ

勤務ノ統督

衛戍勤務ニ關シ師團長ハ師管內（朝鮮ニ在リテハ軍司令官ノ定ムル區域內）ノ各衛戍司令官（東京衛戍司令官及朝鮮ニ在リテハ要塞司令官又ハ飛行團長ニシテ衛戍司令官タルモノヲ除ク）ヲ、朝鮮軍司令官ハ朝鮮ニ在ル各衛戍司令官（師團長ノ監督ヲ受クル者ヲ除ク）ヲ、臺灣守備隊司令官ハ其ノ守備區域內ノ各衛戍司令官（要塞司令官又ハ飛行團長ニシテ衛戍司令官タルモノヲ除ク）ヲ、臺灣軍司令官ハ臺灣ニ在ル各衛戍司令官（臺灣守備隊司令官ノ監督ヲ受クル者ヲ除ク）ヲ監督シ朝鮮軍司令官ハ朝鮮ニ在ル師團長ヲ、臺灣軍司令官ハ臺灣守備隊司令官ヲ統督ス

衛戍參謀

第四條　衛戍參謀又ハ衛戍副官ハ衛戍司令官タル部隊長ノ部隊ノ參謀又ハ副官ノ中ヨリ衛戍司令官タル部隊長之ヲ命ス

衛戍副官

衛戍司令官管轄外ノ部隊ハ衛戍司令官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

衛戍参謀及衛戍副官ハ衛戍司令官ノ管轄ニ屬セサルモノト雖衛戍司令官ノ定メタル衛戍ニ關スル諸規則ヲ遵守スヘキモノトス

第五條 衛戍司令官ハ衛戍勤務ニ關シテハ其ノ地駐屯ノ軍隊（憲兵隊及陸軍教化隊ヲ除ク）及陸軍病院ヲ管轄ス

第五條ノ二 衛戍勤務ハ近衛師團ノ禁闕守衛勤務ヲ妨クルコトナシ

第六條 衛戍司令官ハ警備上必要アリト認ムルトキハ其ノ衛戍地ニ在ル憲兵ニ對シ地方ノ狀況ニ關スル報告ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ緊急ノ必要アルトキハ衛戍司令官ハ直ニ前項ノ報告ヲ命スルコトヲ得但シ衛戍司令官當該憲兵ヨリ上級先任ナラサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 （削除）

第八條 衛戍地ニ在ル部隊ハ衛戍司令官ノ管轄ニ屬セサルモノト雖衛戍司令官ノ定メタル衛戍ニ關スル諸規則ヲ遵守スヘキモノトス

第九條 衛戍司令官ハ災害又ハ非常ノ際ニ於ケル治安維持ニ關スル處置ニ付テハ當該地方官ト協議スルモノトス

第十條 衛戍司令官ハ豫メ災害又ハ非常ノ際陸軍ニ屬スル諸建築物其ノ他ノ物件ノ救防及警戒ニ關スル處置ヲ規定シ置クヘシ皇族邸宅、官衙、公署等ノ救防及警戒ニ關シ必要アルトキ亦同シ

東京衛戍司令官ハ前項ノ事項ニシテ宮闕ニ關聯スルモノハ近衛師團長ト協議スヘシ

第十一條 軍隊ハ衛戍地外ニ在ルトキト雖其ノ任務ニ妨ナキ限リ本令ニ準シ衛戍勤務ヲ行フヘシ

衛戍地外ニ在ル時

關東州ト南滿洲

衛戍勤務ヲ行フヘシ

第十二條 關東州及南滿洲ニ在ル軍隊ハ本令ニ準シ衛戍勤務ヲ行フヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（大正九勅令二三三）

本令ハ大正九年八月十日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和一二勅令一五二）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕衛戍勤務令ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス

御名御璽

昭和十二年四月二十六日

陸軍大臣　杉山元

軍令陸第三號（明治四三、三、一八）

衛戍勤務令

改正
大正五、一二、二七軍令陸第五號
大正九、八、七軍令陸第一五號
大正一〇、六、二三軍令陸第五號
大正一一、八、九軍令陸第四號
昭和三、一一、二軍令陸第七號
昭和一二、四、二六軍令陸第三號

加除

衛戍勤務令　目次

第一章　總則……一頁
第二章　衛戍司令官ノ職務……一
第三章　衛戍勤務……二
第一款　通則……二
第二款　衛戍衛兵……三
第三款　衛戍巡察……八
第四款　暗號……一〇
第五款　削除……一〇
第四章　雜則……一〇

衛戍勤務令　目次終

衛戍勤務令

第一章　總則

第一　衛戍勤務ハ本令及衛戍令ニ依リテ之ヲ行フ

第二　本令ニ於テ師團長ト稱スルハ臺灣軍司令官及臺灣守備隊司令官ヲ含ム

第二ノ二　朝鮮ニ在ル師團長若ハ臺灣守備隊司令官ノ統轄スル衛戍司令官ノ兵力ノ使用、衛戍勤務執行ノ區域及兵器ノ使用ニ關スル報告ハ第七、第八及第十二ニ依ルノ外朝鮮軍司令官若ハ臺灣軍司令官ニ報告シ又ハ同官ヲ經ヘキモノトス

第二章　衛戍司令官ノ職務

第三　衛戍司令官ハ衛戍勤務ニ關シ其ノ管轄スル部隊ヲ指揮ス

第三ノ二　衛戍司令官ハ警備上必要ト認ムルトキハ其ノ管轄ニ屬セサルモノト雖其ノ衛戍地ニ在ル部隊ニ對シ援助ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ緊急ノ必要アルトキハ衛戍司令官ハ直ニ當該部隊ニ對シ前項ノ援助ヲ命スルコトヲ得但シ衛戍司令官當該部隊長ヨリ上級先任ナラサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三ノ三　衛戍司令官ハ衛兵ヲ以テ警備スヘキ個所、衛兵差遣部隊、衛兵ノ編成竝其服務ニ關スル事項ヲ規定スヘシ

第四　衛戍司令官ハ巡察ヲ出スヘキ兵科、部隊、巡察ノ人員、日時及地域ニ

定移牒、命令訓示、通報、報告

關スル事柄ヲ定ムヘシ

第五 衛戍司令官ハ衛戍勤務ニ關シ衛戍地ニ在ル諸部隊ノ長官ニ對シ移牒、命令、訓示ヲ發シ所要ノ通報、報告ヲ求ムルコトヲ得但シ其内務ニ及フコトナシ

地方官及憲兵ニ通報

衛戍司令官ハ警備上必要ト認ムル諸情報ヲ機ヲ失セス之ヲ所要ノ部隊長竝地方官ニ通報スヘシ

第六 衛戍司令官ハ衛戍勤務ニ關スル規定中必要ナル事柄ハ地方官及憲兵ニ通報スヘシ

災害又ハ非常時ノ計畫

第六ノ二 衛戍司令官ハ豫メ災害又ハ非常ノ際ニ方リ必要ナル衛戍地ノ警備竝治安維持ノ方法ヲ計畫スヘシ

災害非常時ノ兵力使用

第六ノ三 衛戍司令官ハ災害又ハ非常ニ際シ地方官ヨリ兵力ノ請求ヲ受ケタルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應スルコトヲ得其ノ事地方官ノ請求ヲ待ツノ遑ナキトキハ兵力ヲ以テ便宜處置スルコトヲ得

兵力使用ヲ報告

第七 衛戍司令官ハ災害又ハ非常ノ際ニ方リ兵力ヲ用ヰムトスルトキ若ハ用ヰタルトキハ之ヲ陸軍大臣及參謀總長ニ報告スヘシ但シ師團長ノ統轄ニ屬スル衛戍司令官ニ在リテハ之ト同時ニ當該師團長ニ報告スヘシ

勤務執行區域

第八 衛戍勤務執行ノ區域ハ衛戍司令官之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ師團長ノ統轄ニ屬スル衛戍司令官ニ在リテハ當該師團長ヲ經ヘキモノトス

衛兵所備付海軍關係

第九 衛戍司令官ハ衛兵所備付物品ノ品目員數ヲ定ムヘシ

第十 軍港、要港又ハ海軍部隊所在地ノ衛戍司令官ハ職務ノ執行ニ關シ海軍

ニ關聯スル事柄ハ豫メ海軍官憲ト協議スヘシ

第三章 衛戍勤務

第一款 通則

勤務區分

第十一 衛戍勤務ハ主トシテ衛戍衛兵及衛戍巡察ヲ以テ之ヲ行フ

勤務ト兵科

衛戍勤務ニ服スル者ハ其必要ニ應シ各兵科「憲兵科ヲ除ク」ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

兵器ノ使用

第十二 衛戍勤務ニ服スル者ハ左ニ記スル場合ニ非サレハ兵器ヲ用ユルコトヲ得ス

一 暴行ヲ受ケ自衛ノ爲止ムヲ得サルトキ

一 多衆聚合シテ暴行ヲ爲スニ當リ兵器ヲ用ユルニ非サレハ鎮壓スルノ手段ナキトキ

一 人及土地其他ノ物件ヲ防衛スルニ兵器ヲ用ユルニ非サレハ他ニ手段ナキトキ

衛戍勤務ニ服スル者兵器ヲ用ヰタルトキハ直ニ衛戍司令官ニ報告シ衛戍司令官ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ師團長ノ統轄ニ屬スル衛戍司令官ニ在リテハ之ト同時ニ當該師團長ニ報告スヘシ

犯人逮捕

第十三 衛戍勤務ニ服スル者ハ其任務ニ妨ナキ限リ左ニ掲クル者ヲ逮捕スルコトヲ得又軍人外ノ犯罪者ト雖之カ逮捕ノ爲憲兵又ハ警察官ヨリ援助ノ請求アルトキハ之ニ應スルコトヲ得但シ衛兵司令及其衛兵ノ約半數ハ何レノ場合ニ於テモ衛兵所ヲ離ルルコトヲ許サス

一　暴行、殺人、逃亡、放火、賭博、強盜、竊盜ノ現行犯人
一　營内居住ノ下士兵卒勤務ニ依ラス又ハ規定ニ反シテ營外ニ在ル者

總テ逮捕シタル者ハ軍人軍屬又ハ常人タルトニ依リ成ルヘク速ニ憲兵、警察官又ハ所屬部隊ニ引渡スヘシ

現行犯認議

第十四　衛兵司令及巡察勤務ニ服スル者ハ軍人軍屬ノ現行犯ヲ認ムルトキハ其氏名所屬部隊ヲ尋問シ必要アルトキハ憲兵又ハ所屬部隊ニ引渡スヘシ

第二款　衛戍衛兵

名稱

第十五　衛戍衛兵ハ其警備スル官衙等ノ名稱ヲ冠シ某衛戍衛兵ト稱ス

服務時限

第十六　衛戍衛兵ノ服務ハ通常二十四時間トシ一哨所ニ兵卒三名ヲ充テ單哨ト哨所ノ人員及交代ニシテ概ネ一時間毎ニ交代スルモノトス但シ衛戍司令官ハ必要ニ應シ其兵數ヲ增加シ哨所ノ數ヲ增シ又ハ複哨、下士哨ト爲スコトヲ得

第十七　衛戍司令官ハ衛戍衛兵ヲ衛戍地外ニ在ル彈藥庫火藥庫等ニ備フルトキ（分遣隊ト稱ス）又ハ警備上其他必要ト認ムルトキハ衛戍衛兵ヲシテ約一週間若ハ必要期間連續服務セシムルコトヲ得

服裝

第十八　衛戍衛兵ノ服裝ハ陸軍服裝規則ノ定ムル所ニ依ル

背嚢

第十九　衛戍衛兵ハ其服務中通常背嚢ヲ負ハサルモノトス

書籍閱讀

第二十　衛戍衛兵ハ衛戍司令官ノ指定セル書籍ノ外閱讀スヘカラス又許可ナクシテ衛兵所ヲ離ルヘカラス衛兵司令衛舍ヲ離ルルヲ要スルトキハ代理者ヲ命シ置クヘシ

內務一四九

第二十一　衛戍司令官ハ夜間衛兵ノ約三分ノ一ニ衛兵所ニ於テ假眠ヲ許シ又

假眠

毛布、枕、蚊帳ノ使用ヲ許スコトヲ得

交代就眠

第二十二　衛戍司令官ハ數日間連續服務スル衛戍衛兵ニシテ必要ト認メタルモノニ限リ其人員ヲ指定シテ之ニ晝夜共就眠又ハ假眠ヲ許スコトヲ得

實包

第二十三　衛兵所ニハ非常用トシテ實包ヲ備フ但シ其彈藥函ノ鍵ハ衛兵司令之ヲ保管シ衛戍司令官ノ命令アルカ又ハ萬已ムヲ得サルニ非サレハ實包ヲ分配スヘカラス

重要箇所

第二十四　緊急ノ場合ニ備フル爲衛兵所ニハ衛兵司令官、最寄軍隊、憲兵隊、警察署、消防署等ノ所在及之ニ通スル道路ヲ示シタル要圖ヲ備ヘ必要ナル電話番號等ヲ記シ置クヘシ

要圖ト電話番號

第二十五　衛兵司令ハ勤務ノ輕重ニ應シ將校、准士官又ハ下士ヲ以テ之ニ充テ衛舍掛歩哨掛ハ下士若ハ上等兵ヲ以テ之ニ充ツ

司令、衛舍掛、歩哨掛ノ階級

第二十六　衛兵司令ハ衛戍司令官ノ命ヲ承ケ其任務ニ服シ且衛兵所及備付物品ノ清潔保存ノ責ニ任ス

衛兵司令

第二十七　衛兵司令ハ歩哨ヲ出スヘキ哨所ノ數、巡察若ハ斥候ノ規定、災害又ハ非常ノトキニ於ケル處置竝門ノ出入ヲ許スヘキ者及物品持出ニ付テハ豫メ衛戍司令官ノ指示ヲ受クヘキモノトス

衛戍司令官ノ指示

第二十八　衛兵交代ノ際下番衛兵ハ通常衛兵所ノ前ニ於テ其左方ニ上番衛兵

衛兵交代

ノ爲餘地ヲ置キ整列シ兩衛兵ハ部隊相互ノ敬禮ヲ行ヒ下番衛兵司令ハ必要ノ申送ヲ爲シ歩哨ノ交代、物件ノ受渡ヲ了ヘタル後再ヒ部隊相互ノ敬禮ヲ行ヒ下番衛兵ハ退場ス

司令ノ巡察

第二十九 衛兵司令ハ衛戍交代後直ニ各哨所ヲ巡視シ歩哨ニ其守則ヲ試問スヘシ爾後屢〻巡察シ歩哨ノ勤惰ヲ監視シ非違ヲ戒メ特ニ火災豫防ニ注意スヘシ

門ノ出入、倉庫ノ開扉歩哨増加

第三十 衛兵司令ハ門ノ出入若ハ倉庫ノ開扉等ヲ請フ者アルトキハ自ラ之ヲ檢シ疑ナキコトヲ確認スルニ非サレハ許スヘカラス但シ守警若ハ守衛ニ於テ之ヲ檢スルノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第三十一 衛兵司令ハ門ノ出入多キトキ又ハ倉庫開扉中等必要ト認ムルトキハ一時哨兵ヲ増スヘシ

衛兵ノ教練

第三十二 數日間連續服務スル衛戍衛兵ノ司令ハ警備ニ差支ナキ限リ衛兵ヲシテ教練ヲ行ハシムヘシ

病者犯人ノ交代備付物品

第三十三 衛兵司令ハ衛兵中勤務ニ堪ヘ難キ病者ヲ生シ又ハ刑法ニ該ル犯人アリテ交代ヲ要スルトキハ直ニ當該所屬隊ニ交代者ヲ請求スヘシ

第三十四 衛兵司令ハ衛兵所備付物品中修理又ハ交換ヲ要スルモノ及消耗品ハ之ヲ衛兵所所屬ノ官廳ニ請求スヘシ但シ故意又ハ過失ニ依ル破損缺失ニ付テハ始末書ヲ徵シ衛戍司令官ニ差出スヘシ

報告

第三十五 衛兵司令ハ火災及非常ノ際至急ヲ要スルモノハ即時、其他服務中ノ出來事ハ衛兵交代ノトキ報告表ニ記入シ衛戍司令官ニ報告スヘシ

衛舍掛ノ任務

衛舍掛ノ交代

第三十六 衛舍掛ハ衛兵司令ノ命ヲ承ケ當番卒ヲ指揮シ衛兵所竝之ニ屬スル建物等内外ノ清潔保存ニ任シ備付物品ヲ監守シ特ニ火元取締ニ任スヘシ

第三十七 上番衛舍掛ハ衛兵交代ノトキ下番衛舍掛立合ニテ衛兵所哨舍其他諸物品ヲ檢シ之ヲ受領スヘシ若シ破損缺失アルトキハ下番衛舍掛ヨリ其證明書ヲ徵シ之ヲ衛兵司令ニ差出スヘシ

歩哨掛ノ任務

第三十八 歩哨掛ハ衛兵司令ノ命ヲ承ケ歩哨ノ交代ヲ掌リ哨舍ノ清潔保存ニ任シ歩哨ヲシテ服裝ヲ正フシ守則ヲ熟知シ且嚴密ニ之ヲ實施セシムヘシ

歩哨交代

第三十九 衛兵交代ノトキ歩哨掛ハ上番歩哨ヲ率キテ哨所ニ至リ下番歩哨ニ向キ合ヒ又ハ之ニ竝ハシメ下番歩哨掛立合ニテ守則ノ申繼及其服務中見聞セシ事件ノ傳告ヲ受ケシムヘシ

守則警戒委勢動作

第四十 歩哨ハ嚴ニ守則ヲ守リ常ニ耳目ヲ働カシ警戒ヲ怠ルヘカラス

第四十一 歩哨ハ常ニ委勢動作ヲ正クシ用務ノ外他人ト談話スヘカラス又頭巾ヲ冠ルコトヲ禁ス

哨舍ノ出入

第四十二 歩哨ハ雨雪ノトキ哨舍ニ入ルコトヲ得但シ特ニ警戒ヲ要スルトキ又ハ敬禮ヲ行フ際ハ哨舍ヨリ出ツヘシ

守則ヲ語ル人

第四十三 歩哨ハ衛戍勤務ニ關係アル上官及直屬系統ノ團體長ニ非サレハ之ニ守則ヲ語ルヘカラス

行動地域

第四十四 歩哨ハ特ニ定メラレタル場合ノ外哨所ノ位置ヨリ三十歩以外ノ地

ニ行動スルコトヲ禁ス

警報

第四十五　歩哨ハ衛兵所又ハ鄰リ歩哨ニ警報セムトスルトキハ「氣ヲ者ケ」ト呼ヒ且機ヲ失セス携帶スル警報器其他固定警報器ヲ使用スル等ノ手段ニ依リ迅速ニ目的ヲ達成スルコトニ努ムヘシ

著劍

第四十六　歩哨ハ左ノ場合ヲ除クノ外銃ニ劍ヲ著クヘカラス

一　夜間

一　警備上必要アルトキ

歩哨敬禮

第四十七　歩哨ノ敬禮ハ哨所ノ位置ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ其位置ニ復スルノ遑ナキトキハ現位置ニ於テ行フモ妨ナシ

衛兵ノ敬禮

衛舍前ニ在ル歩哨ハ陸軍禮式ニ依リ衛兵整列ノ敬禮ヲ受クヘキ者來ルトキハ「整列」ト呼フヘシ

陣中要務準用

第四十八　衛兵ノ勤務ニ關シテハ本款ノ外陣中要務令前哨勤務ノ規定ヲ準用ス

第三款　衛戍巡察

任務

第四十九　衛戍巡察ハ衛兵ノ勤惰ヲ監察シ定メラレタル場所ヲ巡回シ軍人軍屬ノ非違ヲ戒メ又災害若ハ非常ノ際ニ方リテ治安維持ノ爲指定ノ地域ヲ巡視スルモノトス

巡察ノ階級

第五十　衛戍巡察ハ將校又ハ准士官ヲ以テ之ニ充テ必要ニ應シ之ニ下士兵卒ヲ附屬ス

巡察ノ規定

第五十一　衛戍司令官ハ巡察ノ數、種類、日時及巡察スヘキ場所又ハ區域ヲ定ム若シ巡察スヘキ區域廣キトキハ數箇ニ分チ巡察セシム

巡察ノ區分

第五十二　衛戍巡察ヲ分チテ第一種巡察第二種巡察トス

第一種巡察

第五十三　第一種巡察ハ主トシテ衛兵ノ勤惰ヲ監察シ兼テ軍人軍屬ノ非違ヲ戒ムルモノトス

第一種巡察ハ通常一週間服務スルモノニシテ毎日少クモ一回定メラレタル箇所ヲ巡察ス

第二種巡察

第五十四　第二種巡察ハ主トシテ軍人軍屬ノ非違ヲ戒ムルモノニシテ休日其他臨時ニ外出ヲ許シタル場合ニ於テ定メラレタル區域ヲ各隊ヨリ巡察セシムルモノトス

服裝

第五十五　衛戍巡察勤務ニ服スル者ノ服裝ハ第十八ニ同シ

巡察ノ實施

第五十六　衛戍巡察ハ衛兵ヲ巡視シ若シ過誤懈怠等ノ所爲アリタルトキハ之ヲ矯正シ其狀況ヲ當該衛兵司令ニ通告スヘシ

衛戍巡察ハ衛兵ヲ整列セシメ之ヲ檢査スルコトヲ得但シ衛兵司令ニシテ衛戍巡察ヨリ上級ナルトキハ次級ノ者其整列ノ指揮ヲ執ルモノトス

第五十七　衛戍巡察ハ必要ト認メタルトキハ定メラレタル地域外ト雖巡視スヘキモノトス

地域外巡視

第五十八　衛戍巡察ハ軍人軍屬ノ非違ヲ認メタルトキ下級者ニ在リテハ直ニ之ヲ矯正シ必要アルトキハ其違反者ヲ最寄憲兵若ハ所屬部隊ニ引渡シ上級者ニ在リテハ其非違ノ行爲ナルコトヲ進言シ官職氏名ヲ聞キ取リ其顛末ヲ衛戍

軍人軍屬ノ非違

巡察報告　司令官ニ報告スヘシ

第五十九　衛戍巡察ハ其ノ巡察中ノ出來事ニシテ至急ヲ要スルモノハ即時其他ハ勤務ヲ終リタル後衛戍司令官ニ報告スヘシ

團隊長ノ巡視

第六十　衛戍勤務ニ服スル者ノ直屬系統ノ團隊長ハ部下服務ノ狀態ヲ監視スル爲時々巡視スヘシ

前項ノ巡視ヲ爲シタルトキ必要ト認メタル事柄ハ之ヲ衛戍司令官ニ報告スヘシ

第六十一　軍隊內務書ノ規定ニ依リ各隊ヨリ出シタル巡察ハ第二種巡察ニ屬

內務書100ノ二ス

使用時期時期及傳達方問査法陣中ハ及三八

第六十二　暗號ハ特別ノ場合ニ於テ夜間之ヲ用ユルモノトス

第六十三　衛戍司令官ハ暗號及之ヲ用ユルノ時機竝其傳達方ヲ定ムヘシ

第六十四　暗號ヲ用ユルトキ步哨、巡察等ノ問査法ハ陣中要務令前哨勤務ノ規定ヲ準用スヘシ

第五款　（削除）

第六十五　（削除）

第六十六　（削除）

第四章　雜則

現役軍人住所

第六十七　現役軍人ハ當該衛戍地外ニ居住スルコトヲ得ス但シ衛戍司令官必要ニ應シ衛戍地外ノ居住ヲ許可スルコトヲ得

儀式等集合地

第六十八　衛戍司令官ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外儀式、禮式、祭典等ノ爲軍隊及軍人軍屬集合スルトキ其集合所ヲ指定シ且靜肅及秩序ヲ維持スル爲必要ノ處置ヲ爲スヘシ

儀式等服裝

第六十九　衛戍司令官ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外儀式、禮式、祭典等ノ爲出場スヘキ軍隊、軍人及制服ヲ著スヘキ軍屬ノ服裝ヲ定ムヘシ

儀仗總代禮砲

第七十　衛戍司令官ハ儀式、禮式、祭典等ノ際ニ於ケル儀仗兵、總代及禮砲ニ關シテハ各其規定ニ從ヒ之カ處置ヲ爲スヘシ

交通制限及出入禁

第七十一　衛戍司令官ハ必要ニ應シ街路ノ雜沓及危害ヲ避クル爲行軍隊形、行進速度等ヲ制限シ其他所要ノ方法ヲ定メ且風紀ニ害アリト認ムル場所及傳染病流行地域ニ軍人軍屬ノ出入ヲ禁スルコトヲ得

衛兵護

第七十二　衛戍司令官ハ衛戍地及其附近ニ於テ兵器、俘虜、囚人、刑事被告人ノ護送及法廷又ハ死刑執行ノ場所ヲ警衛スル爲護衛兵ノ請求ヲ受ケタルトキハ衛戍地ノ軍隊ヨリ所要ノ護衛兵ヲ出サシムヘシ

命令、報告傳達人員

第七十三　衛戍司令官ハ命令及報告等ノ傳達ニ任スル爲衛戍地ノ軍隊ヨリ所要ノ人員ヲ出サシムルコトヲ得

宿營軍隊

第七十四　一時衛戍地ニ宿營スル軍隊ノ指揮官其ノ他一團ヲ爲ス軍人軍屬ノ引率者ハ其目的及豫定日時ヲ衛戍司令官ニ通報シ且衛戍上ニ關スル指示ヲ受クヘシ

關東州及南滿洲

第七十五　關東州及南滿洲ニ在ル軍隊ハ本令ニ準シ衛戍勤務ヲ行フヘシ

朕陸軍禮式ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス

御名御璽

明治四十三年九月二十一日

陸軍大臣 子爵 寺内正毅

改正 大正二年八月十日軍令陸第七號
加除 大正七年一月十六日軍令陸第一號
大正八年四月十一日軍令陸第十三號
大正八年八月十九日軍令陸第二十四號

軍令陸第五號

陸軍禮式

陸軍禮式　目次

第一編　總則……一
第二編　敬禮……二
第一章　通則……二
第二章　軍人ノ敬禮……五
第一節　最敬禮……五
第二節　室內ノ敬禮……六
第三節　室外ノ敬禮……八
第三章　軍隊ノ敬禮……一一
第一節　停止間ノ敬禮……一一
第二節　行進間ノ敬禮……一四
第三節　教練間ノ敬禮……一五
第四章　衞兵ノ敬禮……一六
第五章　步哨ノ敬禮……一七
第三編　儀式……一九
第一章　通則……一九
第二章　儀仗……一九
第三章　堵列……二一
第四章　伺候式……二一
第五章　觀兵式……二一
第六章　禮砲式……二三
第七章　軍旗迎送式……二四

本令ノ目的
禮式
軍人
將校
上官
團隊長
軍隊、隊長
衞兵
野戰砲兵
皇族ニ對スル禮式
外國ノ元

陸軍禮式

第一編 總則

第一條 本令ハ陸軍軍人、軍隊ノ敬禮及陸軍ノ儀式ヲ定ム

第二條 本令中禮式ト稱スルハ敬禮及儀式ヲ總稱ス

軍人ト稱スルハ陸軍ノ制服ヲ著用シタル將校、同相當官、准士官、下士及兵卒ヲ謂フ

將校ト稱スルハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外將校相當官ヲ含ム

上官ト稱スルハ官等等級ノ上ナル軍人ヲ謂フ

團隊長ト稱スルハ獨立隊長及之ヨリ以上ノ軍隊ノ長ヲ謂フ

軍隊ト稱スルハ引率者アル軍人ノ隊伍ヲ謂ヒ隊長ト稱スルハ軍隊ヲ引率スル者ヲ謂フ

衞兵ト稱スルハ衞戍衞兵及風紀衞兵ヲ謂ヒ步哨ト稱スルハ野外勤務以外ノ步哨ヲ謂フ

野戰砲兵ト稱スルハ野砲兵〔騎砲兵ヲ含ム以下同シ〕及山砲兵ヲ謂フ

第三條 皇后、太皇太后及皇太后ニ對スル禮式ハ天皇ニ對スル禮式ニ準ス

前項以外ノ皇族及天皇ノ御名代ニ對シテハ公式ノ場合ニ限リ前項ニ準シ禮式ヲ行フ但シ特ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 外國ノ元首及皇族ニ對シテハ公式ノ場合ニ限リ其ノ時時ノ命令ニ依